

令和4年度 県民意識調査報告書

令和4年8月

秋 田 県

目 次

第Ⅰ部	調査の概要	
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	3
5	集計・分析に当たって	3
6	統計表	3
7	有効回答者の属性	4
8	標本抽出方法	8
第Ⅱ部	調査結果の概要	11
第Ⅲ部	調査結果の詳細	
第1章	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について	
1	各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）	
(1)	戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について	
ア	社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保	19
イ	若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり	21
ウ	結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート	22
エ	女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現	23
オ	活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり	24
(2)	戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について	
ア	成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成	25
イ	中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上	26
ウ	国内外の成長市場の取り込みと投資の促進	27
エ	産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備	28
(3)	戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について	
ア	秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成	29
イ	複合型生産構造への転換の加速化	30
ウ	秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用	31
エ	農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化	32
オ	「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化	33
カ	つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興	34
キ	地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり	35

(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について	
ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	36
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	37
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	38
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	39
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの設備	40
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	41
(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について	
ア 健康寿命日本一への挑戦	42
イ 心の健康づくりと自殺予防対策	43
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備	44
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実	45
オ 次代を担う子どもの育成	46
(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について	
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成	47
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着	48
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成	49
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成	50
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり	51
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興	52
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供	53
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値	54
第2章 県政の重要課題について	58
第3章 県の特定課題について	
1 県の広報活動について	
(1) 県が発信する情報の取得方法	63
(2) 広報活動の現状評価	65
2 家庭での防災活動について	
(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況	66
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況	67
3 読書活動について	
(1) 読書への興味	69
(2) 1日の平均読書時間	70
4 農業への就業について	
農業への就業についての興味	71

5	がん対策について	
	(1) 日本人のがん発症率に関する認知度	72
	(2) がん検診の受診時期に対する考え方	73
6	社会活動・地域活動について	
	社会活動・地域活動への取組の頻度	74
7	自転車の安全で適正な利用について	
	自転車損害賠償責任保険への加入状況	75
8	男女共同参画について	
	「男は仕事、女は家庭」の考え方	76
9	食品ロス問題について	
	食品ロスへの取組	77
10	環境保全活動について	
	環境保全活動への参加状況	78
11	差別等について	
	(1) 差別等を感じる機会の有無	80
	(2) 感じる差別等の種類	81
12	高齢者の社会参加について	
	60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和3年度）	84
第4章 県政への自由意見について		85
付属資料：調査票		93

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 県政に対する県民意識を把握し、第3期ふるさと秋田元気創造プラン及び新秋田元気創造プランの進行管理に活用する。
- (2) 政策評価において、県民意識を取り入れる手法の一つとして活用する。
- (3) 県民の提案や要望を把握し、政策立案や問題解決、計画の策定に反映させる。
- (4) 特定課題に関する県民意識を把握し、取組の推進に活用する。

2 調査の内容

- (1) プランに掲げた戦略の施策に関する事柄についての満足度（選択式）
- (2) 県の重要課題について（選択式）
- (3) 県の特定課題について（選択式）
 - ① 県の広報活動について
 - ② 家庭での防災活動について
 - ③ 読書活動について
 - ④ 農業への就業について
 - ⑤ がん対策について
 - ⑥ 社会活動・地域活動について
 - ⑦ 自転車の安全で適正な利用について
 - ⑧ 男女共同参画について
 - ⑨ 食品ロス問題について
 - ⑩ 環境保全活動について
 - ⑪ 差別等について
 - ⑫ 高齢者の社会参加について
- (4) 県に力を入れてほしいことなどについて（自由記述式）
- (5) 回答者の属性について（選択式）

3 調査の設計

- (1) 調査対象： 秋田県に居住する満18歳以上の男女
- (2) 標本数： 5,000人
- (3) 標本抽出方法： 全県25市町村の選挙人名簿を基にした層化抽出法
- (4) 調査手法： ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (5) 調査期間： 令和4年5月26日(木)～6月12日(日)
- (6) 調査機関： 株式会社フィデア情報総研

4 回収結果

- (1) 調査票回収数 2,550人（回収率 51.0%）
- (2) 有効回答数 2,548人（有効回答率 51.0%）

5 集計・分析に当たって

- (1) 比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が100%にならないこと（99.9%、100.1%など）がある。満足度の平均点は、小数点以下第3位を四捨五入して算出する。
- (2) 18～19歳を10歳代として集計する。

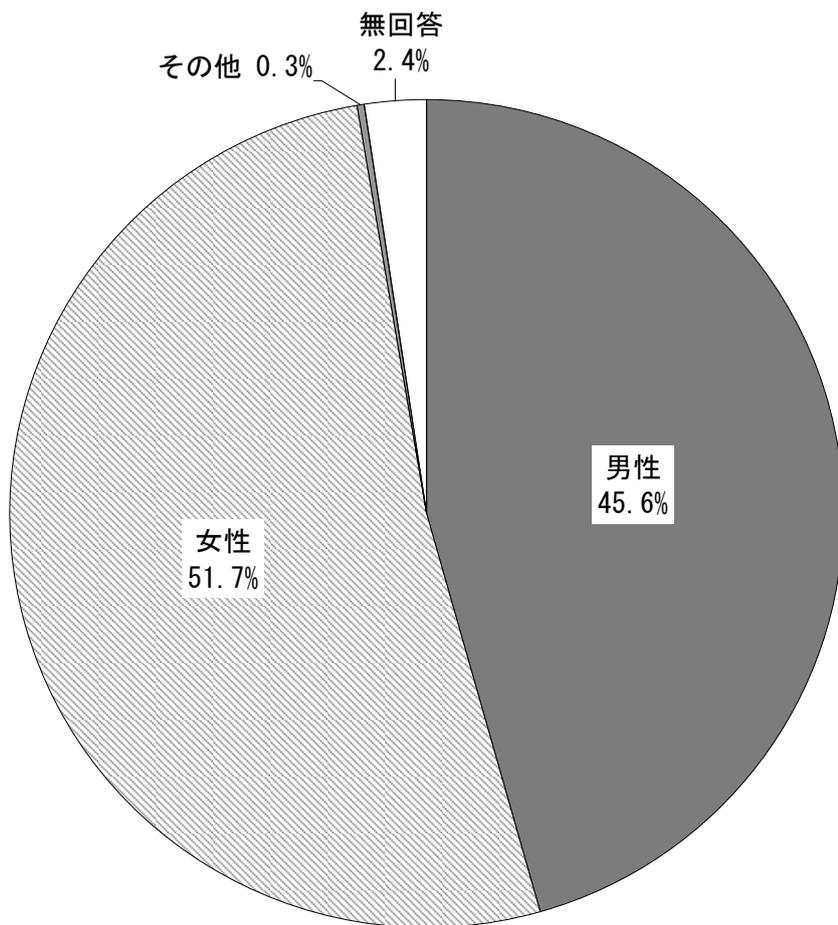
6 統計表

各設問の回答に関する統計データは、県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」(<https://www.pref.akita.lg.jp>)に掲載している。

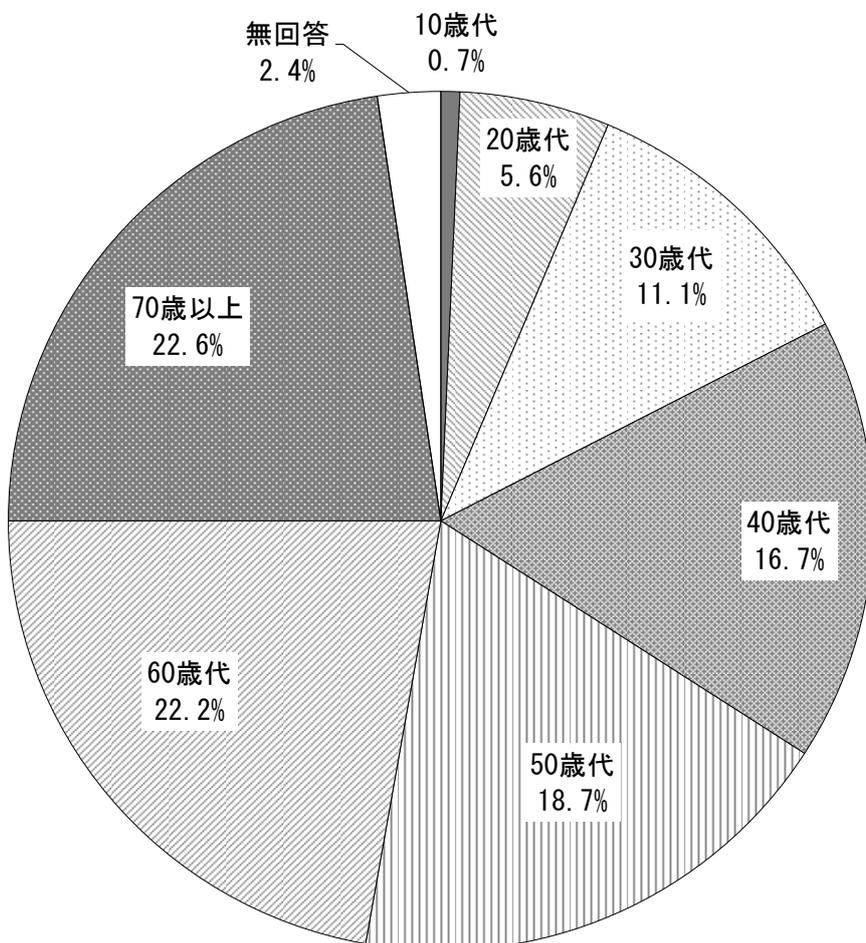
7 有効回答者の属性

属性		有効回答者数		推計人口 (R3. 10. 1 現在)	
		客体数	構成比	18歳以上人口	構成比
合計		2,548	100.0%	832,185	100.0%
性別	男性	1,162	45.6%	388,160	46.6%
	女性	1,318	51.7%	444,025	53.4%
	その他	7	0.3%	—	—
	無回答	61	2.4%	—	—
年齢	18～19歳	18	0.7%	13,814	1.7%
	20～29歳	143	5.6%	61,079	7.3%
	30～39歳	283	11.1%	84,515	10.2%
	40～49歳	425	16.7%	119,656	14.4%
	50～59歳	476	18.7%	121,820	14.6%
	60～69歳	566	22.2%	152,992	18.4%
	70歳以上	577	22.6%	278,309	33.4%
	無回答	60	2.4%	—	—
18歳未満の子の有無	養育している	511	20.1%	—	—
	養育していない	1,914	75.1%	—	—
	無回答	123	4.8%	—	—
出身	秋田県の出身	2,311	90.7%	—	—
	秋田県以外の出身	174	6.8%	—	—
	無回答	63	2.5%	—	—
居住地域	鹿角地域	81	3.2%	29,265	3.5%
	北秋田地域	263	10.3%	88,535	10.6%
	山本地域	203	8.0%	65,550	7.9%
	秋田地域	983	38.6%	334,680	40.2%
	由利地域	248	9.7%	84,894	10.2%
	仙北地域	332	13.0%	104,552	12.6%
	平鹿地域	216	8.5%	73,666	8.9%
	雄勝地域	157	6.2%	51,043	6.1%
	無回答	65	2.6%	—	—
職業	農業	119	4.7%	—	—
	林業	7	0.3%	—	—
	漁業	0	0.0%	—	—
	建築業	146	5.7%	—	—
	製造業	230	9.0%	—	—
	情報通信業	25	1.0%	—	—
	運輸業・郵便業	60	2.4%	—	—
	卸売業・小売業（観光関連）	21	0.8%	—	—
	卸売業・小売業（観光関連以外）	190	7.5%	—	—
	宿泊業	11	0.4%	—	—
	飲食サービス業	91	3.6%	—	—
	学術研究・学校教育・学習支援	58	2.3%	—	—
	医療・保健	132	5.2%	—	—
	福祉	153	6.0%	—	—
	公務（上記以外）	115	4.5%	—	—
	その他の業種	351	13.8%	—	—
	学生	30	1.2%	—	—
	無職	726	28.5%	—	—
	無回答	83	3.3%	—	—

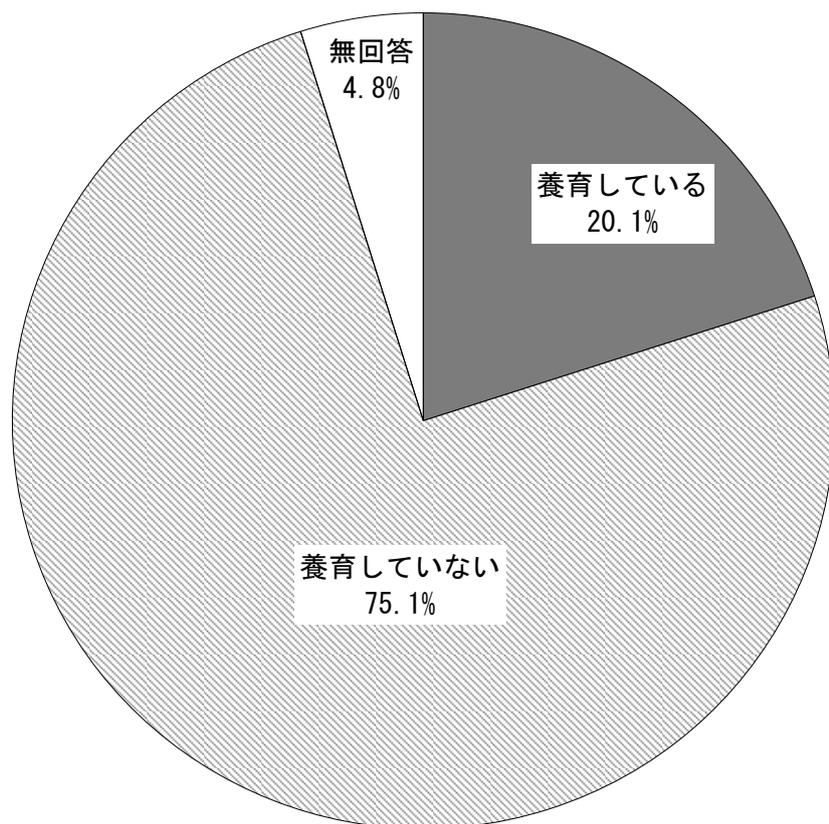
性別



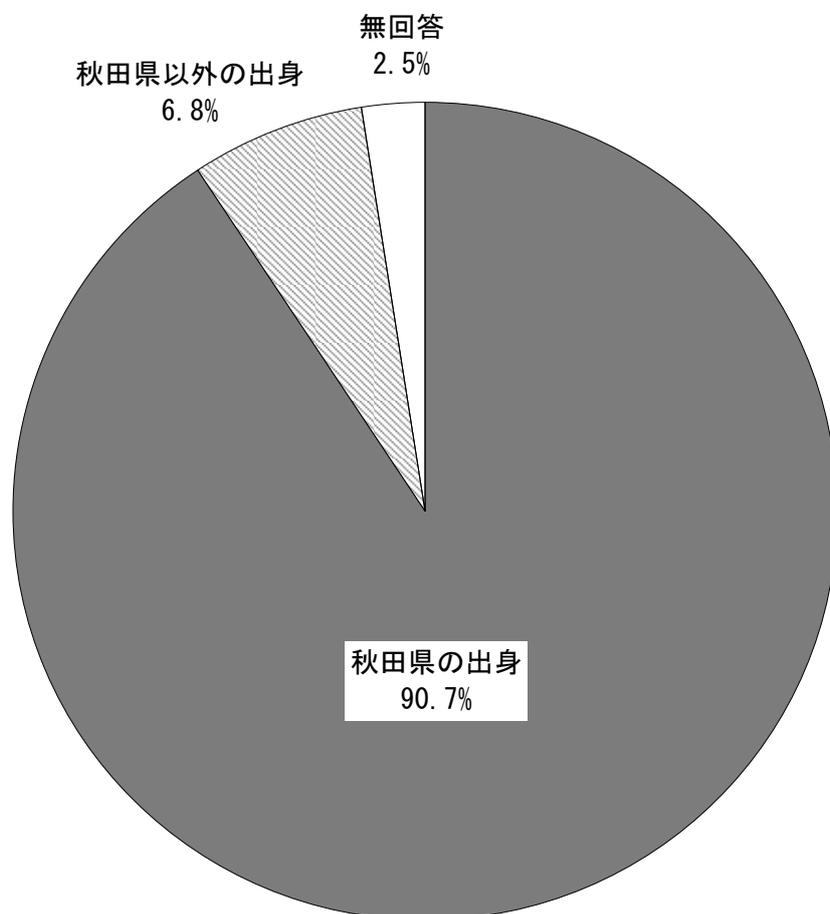
年齢



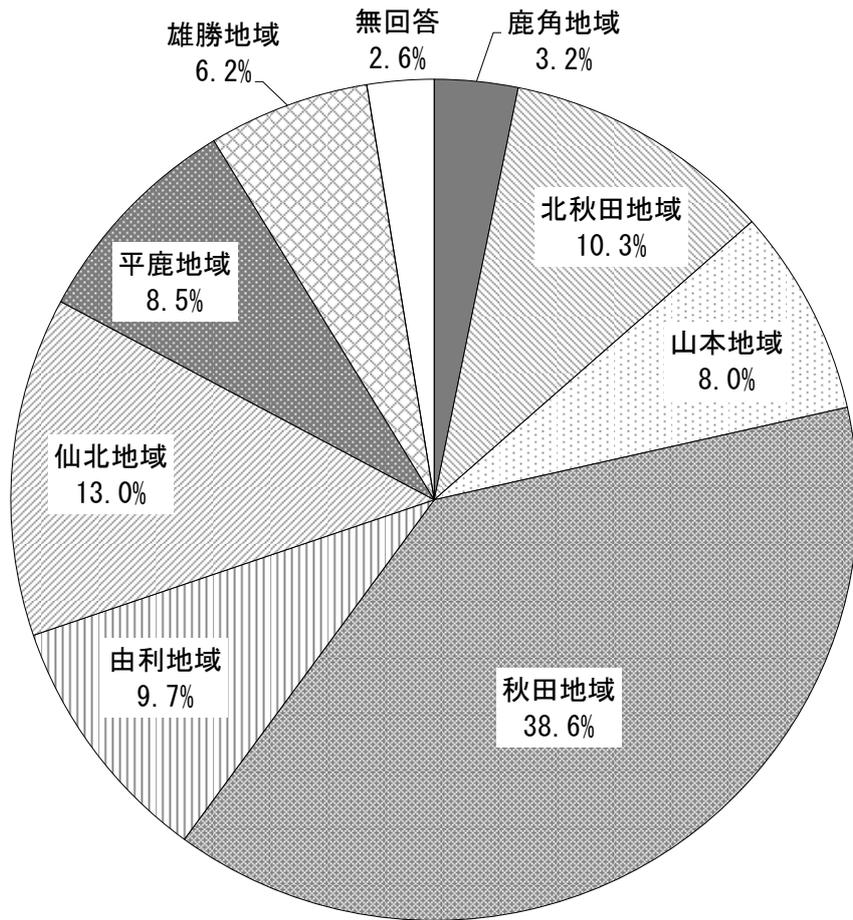
18歳未満の子の有無



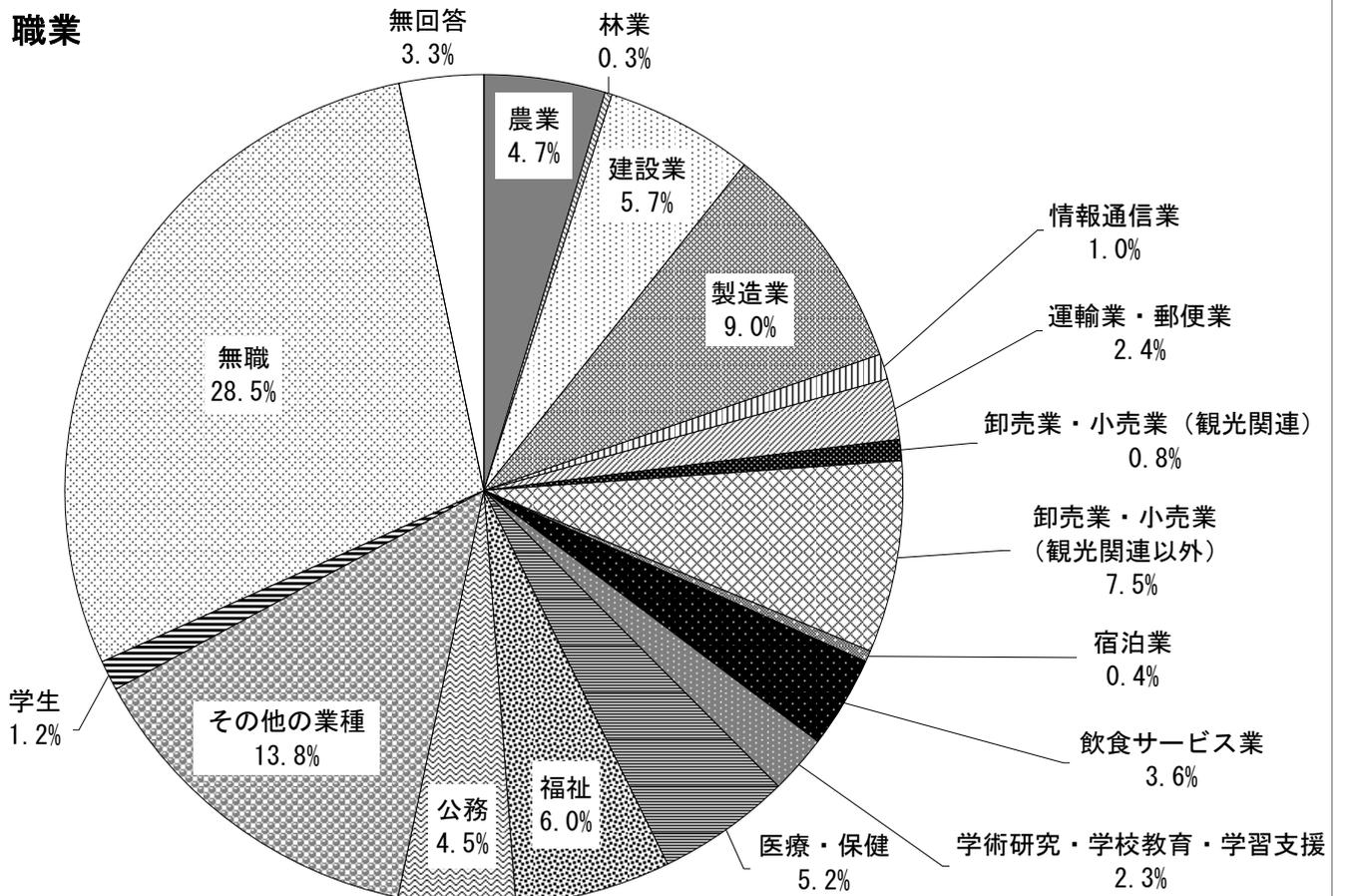
出身



居住地域



職業



8 標本抽出方法

(1) 層化及び標本数の配分

調査対象を県内 25 市町村で層化し、各市町村の満 18 歳以上の人口（令和 3 年 10 月 1 日現在）の構成比に応じて 5,000 の標本を比例分配した。

地域名	NO	市町村名	18 歳以上人口 (R3. 10. 1 現在)	18 歳以上人口 構成比	調査地点 人口按分
		県 計	832, 185	100. 0%	5, 000
鹿角地域	1	鹿角市	25, 028	3. 0%	150
	2	小坂町	4, 237	0. 5%	25
北秋田地域	3	大館市	60, 169	7. 2%	362
	4	北秋田市	26, 521	3. 2%	159
	5	上小阿仁村	1, 845	0. 2%	11
山本地域	6	能代市	43, 724	5. 3%	263
	7	藤里町	2, 562	0. 3%	15
	8	三種町	13, 409	1. 6%	81
	9	八峰町	5, 855	0. 7%	35
秋田地域	10	秋田市	265, 779	31. 9%	1, 596
	11	男鹿市	22, 331	2. 7%	134
	12	潟上市	27, 499	3. 3%	165
	13	五城目町	7, 595	0. 9%	46
	14	八郎潟町	4, 914	0. 6%	30
	15	井川町	4, 042	0. 5%	24
	16	大潟村	2, 520	0. 3%	15
由利地域	17	由利本荘市	64, 656	7. 8%	388
	18	にかほ市	20, 238	2. 4%	122
仙北地域	19	大仙市	67, 052	8. 1%	403
	20	仙北市	21, 434	2. 6%	129
	21	美郷町	16, 066	1. 9%	97
平鹿地域	22	横手市	73, 666	8. 9%	443
雄勝地域	23	湯沢市	36, 756	4. 4%	221
	24	羽後町	11, 920	1. 4%	72
	25	東成瀬村	2, 367	0. 3%	14

(2) 報告書の見方

母集団全体の中から一部を抽出する標本調査では、母集団全体を対象に行った調査と比べ、何らかの誤差が生ずる。本調査では信頼係数を95%と設定しており、誤差は以下の式で得られる。第Ⅲ部では点推定値を掲載しているが、以上のような誤差をもっている。

①回答割合の誤差 標本誤差=1.96 × $\sqrt{p(1-p)/n}$	N=母集団数 n=標本数
②回答結果の平均値の誤差 標本誤差=1.96 × $s\sqrt{n}$	s=標本標準偏差 p=回答比率

①の回答割合に関しては、本調査における誤差の早見表を以下に記載する。この表では、例えば、「全体の50%から「十分」という回答比率が得られた間について、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合、95%の確率で母割合（全県民が「十分」と考える割合）を50%±1.9%の範囲内に含むことを表しており、例えば、100回中95回は誤差を含めた範囲内に母割合を含むが、5回は含まないときがある。

回答割合の誤差の早見表

項目名	N：母集団数 (人)	n：回答者数 (人)	p：回答比率 (%)				
			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全体	832,185	2,548	1.2%	1.6%	1.8%	1.9%	1.9%
年代別							
18～39歳	159,408	444	2.8%	3.7%	4.3%	4.6%	4.7%
40～59歳	241,476	901	2.0%	2.6%	3.0%	3.2%	3.3%
60歳以上	431,301	1,143	1.7%	2.3%	2.7%	2.8%	2.9%

※無回答の60人を含むため、年代別の計と一致しない。

②の回答結果の平均値に関し、誤差を考慮した区間推定結果を以下に掲載する。この推定の精度は、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合に95%の確率で母平均（母集団である全県民の回答の平均値）をその範囲内に含む程度であり、例えば、100回中95回は信頼区間の中に母平均を含むが、5回は含まないときがある。

回答結果の平均値の区間推定

質問No.	全体		年代別					
			18～39歳		40～59歳		60歳以上	
	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間
1	2.00	1.97 ~ 2.03	1.95	1.86 ~ 2.04	1.92	1.85 ~ 1.98	2.09	2.03 ~ 2.15
2	2.41	2.38 ~ 2.44	2.36	2.26 ~ 2.47	2.35	2.28 ~ 2.42	2.48	2.42 ~ 2.55
3	2.63	2.60 ~ 2.66	2.61	2.51 ~ 2.72	2.66	2.60 ~ 2.73	2.62	2.56 ~ 2.68
4	2.41	2.39 ~ 2.44	2.47	2.37 ~ 2.56	2.39	2.33 ~ 2.45	2.41	2.35 ~ 2.47
5	2.42	2.40 ~ 2.45	2.54	2.45 ~ 2.64	2.30	2.24 ~ 2.36	2.48	2.42 ~ 2.53
6	2.29	2.26 ~ 2.32	2.39	2.28 ~ 2.49	2.28	2.20 ~ 2.35	2.27	2.20 ~ 2.34
7	2.35	2.31 ~ 2.38	2.42	2.32 ~ 2.52	2.28	2.21 ~ 2.36	2.38	2.31 ~ 2.45
8	2.32	2.29 ~ 2.35	2.47	2.36 ~ 2.58	2.35	2.27 ~ 2.42	2.25	2.18 ~ 2.31
9	2.30	2.27 ~ 2.33	2.32	2.23 ~ 2.42	2.25	2.17 ~ 2.32	2.33	2.26 ~ 2.40
10	2.60	2.56 ~ 2.63	2.84	2.73 ~ 2.95	2.56	2.48 ~ 2.64	2.54	2.47 ~ 2.61
11	3.33	3.30 ~ 3.36	3.45	3.36 ~ 3.54	3.30	3.23 ~ 3.37	3.32	3.26 ~ 3.38
12	3.25	3.22 ~ 3.28	3.46	3.37 ~ 3.55	3.19	3.13 ~ 3.26	3.22	3.16 ~ 3.28
13	3.06	3.03 ~ 3.09	3.28	3.19 ~ 3.37	3.08	3.01 ~ 3.15	2.98	2.92 ~ 3.04
14	2.95	2.92 ~ 2.98	3.19	3.09 ~ 3.29	2.96	2.88 ~ 3.05	2.86	2.79 ~ 2.93
15	2.88	2.85 ~ 2.91	3.19	3.09 ~ 3.28	2.92	2.84 ~ 2.99	2.75	2.68 ~ 2.81
16	2.57	2.54 ~ 2.61	2.88	2.78 ~ 2.99	2.61	2.53 ~ 2.69	2.44	2.37 ~ 2.51
17	2.35	2.32 ~ 2.38	2.43	2.33 ~ 2.53	2.31	2.24 ~ 2.38	2.35	2.28 ~ 2.42
18	3.04	3.01 ~ 3.07	3.23	3.13 ~ 3.32	3.08	3.01 ~ 3.15	2.95	2.89 ~ 3.02
19	2.62	2.59 ~ 2.65	2.71	2.60 ~ 2.82	2.60	2.54 ~ 2.67	2.60	2.54 ~ 2.67
20	2.98	2.95 ~ 3.01	3.06	2.96 ~ 3.16	2.96	2.89 ~ 3.02	2.98	2.92 ~ 3.04
21	2.71	2.68 ~ 2.74	2.65	2.55 ~ 2.75	2.68	2.61 ~ 2.74	2.78	2.71 ~ 2.84
22	2.44	2.40 ~ 2.48	2.27	2.17 ~ 2.36	2.37	2.31 ~ 2.44	2.58	2.52 ~ 2.64
23	3.03	3.00 ~ 3.07	2.80	2.71 ~ 2.90	2.98	2.91 ~ 3.04	3.17	3.11 ~ 3.23
24	2.44	2.40 ~ 2.48	2.24	2.14 ~ 2.35	2.38	2.30 ~ 2.46	2.57	2.50 ~ 2.64
25	2.62	2.58 ~ 2.66	2.50	2.39 ~ 2.60	2.46	2.40 ~ 2.53	2.80	2.74 ~ 2.86
26	2.80	2.76 ~ 2.84	2.77	2.67 ~ 2.87	2.70	2.63 ~ 2.77	2.88	2.82 ~ 2.94
27	2.79	2.75 ~ 2.83	2.72	2.62 ~ 2.82	2.72	2.65 ~ 2.79	2.87	2.80 ~ 2.93
28	3.04	3.00 ~ 3.07	3.04	2.94 ~ 3.14	3.04	2.97 ~ 3.12	3.04	2.97 ~ 3.11
29	3.14	3.11 ~ 3.18	3.15	3.06 ~ 3.25	3.12	3.05 ~ 3.20	3.17	3.10 ~ 3.24
30	2.87	2.83 ~ 2.91	2.91	2.80 ~ 3.01	2.89	2.81 ~ 2.96	2.85	2.78 ~ 2.93
31	3.06	3.03 ~ 3.10	3.08	2.99 ~ 3.18	3.06	2.98 ~ 3.13	3.07	3.00 ~ 3.14
32	3.00	2.96 ~ 3.03	3.00	2.90 ~ 3.10	2.96	2.89 ~ 3.03	3.03	2.96 ~ 3.09
33	2.95	2.91 ~ 2.99	3.05	2.94 ~ 3.15	2.97	2.88 ~ 3.05	2.90	2.83 ~ 2.98
34	2.91	2.87 ~ 2.94	3.00	2.91 ~ 3.10	2.90	2.82 ~ 2.97	2.88	2.82 ~ 2.95

第Ⅱ部 調査結果の概要

1 第1章「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について (P19~57)

「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の6つの戦略の各施策に関連する事柄について、5「十分」、4「おおむね十分」、3「ふつう」、2「やや不十分」、1「不十分」及びN「わからない」の中から1つを選択する形式で満足度の状況等を調査した。

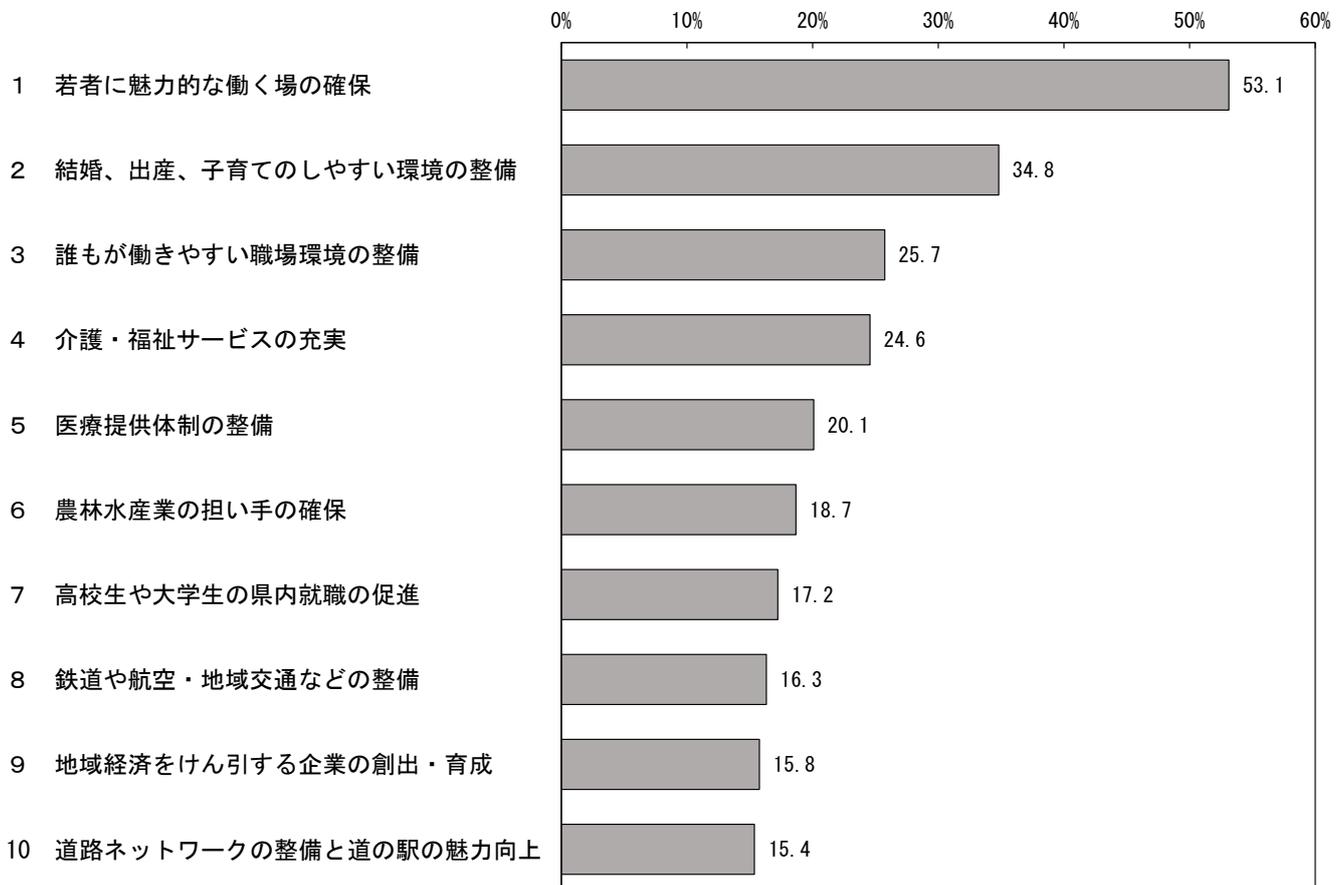
		満足度	回答の割合 (%)							
			十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない	無回答	
戦略1	1	若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	2.00	0.4	2.9	25.7	26.7	32.8	9.9	1.6
	2	高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	2.41	0.5	7.2	35.9	22.9	17.3	15.0	1.3
	3	安心して子育てができる社会になっている。	2.63	1.4	12.9	40.9	20.5	14.3	8.7	1.4
	4	女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	2.41	0.7	6.5	38.6	26.7	16.9	9.2	1.4
	5	地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	2.42	1.1	9.4	38.3	25.0	20.4	4.4	1.3
戦略2	6	地域経済を牽(けん)引することができる競争力を持った企業が増えている。	2.29	0.4	4.2	31.6	21.1	19.3	20.5	2.9
	7	中小企業の安定した経営が確保されている。	2.35	0.4	3.8	32.4	22.8	15.3	23.2	2.0
	8	企業誘致が進んでいる。	2.32	0.7	6.2	29.9	21.5	19.6	20.2	2.0
	9	産業人材の確保・育成が進んでいる。	2.30	0.5	2.9	31.6	24.1	16.2	22.6	2.1
戦略3	10	農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。	2.60	0.8	8.7	36.1	16.4	12.0	22.9	3.1
	11	えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。	3.33	4.4	32.3	38.0	7.1	2.9	13.6	1.8
	12	あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。	3.25	6.2	32.0	37.2	10.7	5.4	6.7	1.8
	13	飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。	3.06	2.9	20.7	44.5	11.8	4.8	13.6	1.7
	14	秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。	2.95	1.8	14.2	37.3	11.3	5.0	28.4	1.9
	15	ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。	2.88	2.1	14.0	44.6	15.1	6.4	16.1	1.6
	16	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。	2.57	1.1	8.2	35.8	18.7	11.9	22.4	1.9

			満足度	回答の割合 (%)						
				十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない	無回答
戦略4	17	国内外から観光誘客が進んでいる。	2.35	0.7	5.2	33.2	23.2	17.9	17.3	2.4
	18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.04	2.6	21.0	42.9	12.5	5.1	14.3	1.6
	19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.62	1.7	11.2	38.4	20.7	13.3	12.7	2.1
	20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気をもたらされている。	2.98	3.1	20.1	45.5	14.5	6.7	8.4	1.8
	21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	2.71	2.2	12.0	43.4	18.8	11.6	10.1	1.8
	22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	2.44	1.3	8.8	37.4	23.5	19.0	8.3	1.8
戦略5	23	食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。	3.03	1.9	20.2	50.0	10.9	5.0	9.8	2.2
	24	誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。	2.44	0.7	5.9	35.6	21.2	15.0	19.6	2.0
	25	どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。	2.62	2.3	12.7	39.6	21.9	14.8	6.6	2.2
	26	高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。	2.80	2.2	14.0	44.6	16.9	9.6	10.9	1.8
	27	全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。	2.79	1.8	11.4	46.4	13.8	9.3	15.3	2.0
戦略6	28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。	3.04	2.9	15.9	46.5	9.5	4.6	18.4	2.2
	29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	3.14	2.8	19.3	46.3	7.3	3.2	19.4	1.7
	30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。	2.87	1.8	12.2	42.7	12.7	6.4	22.4	1.7
	31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。	3.06	2.7	15.0	50.5	7.8	3.8	18.3	1.8
	32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。	3.00	2.7	15.6	48.2	11.3	5.0	15.4	1.7
	33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。	2.95	1.9	11.1	40.8	10.6	3.8	29.8	1.9
	34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。	2.91	2.0	12.2	47.8	12.7	5.5	18.3	1.6

2 第2章 県政の重要課題について (P58~62)

今後の県政を推進していく上で、「重要課題として県に力を入れてほしいこと」を50の選択肢の中から5つまで選ぶ形式で調査した。

重要課題として県に力を入れてほしいこと（上位10項目）



3 第3章 県の特定課題について (P63~84)

県の特定課題として、次の12課題について調査した。

- (1) 県の広報活動について
- (2) 家庭での防災活動について
- (3) 読書活動について
- (4) 農業への就業について
- (5) がん対策について
- (6) 社会活動・地域活動について
- (7) 自転車の安全で適正な利用について
- (8) 男女共同参画について
- (9) 食品ロス問題について
- (10) 環境保全活動について
- (11) 差別等について
- (12) 高齢者の社会参加について

4 第4章 県政への自由意見について (P85~92)

県に力を入れてほしいことや、取り組むべきだと思うことについて、690人から922件の意見が寄せられた。

項番	項目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	73
B	移住・定住に関すること	41
C	女性・若者の活躍支援に関すること	27
D	地域社会の維持・活性化に関すること	70
E	商工業・雇用・労働に関すること	131
F	農林水産業に関すること	44
G	観光に関すること	42
H	文化・スポーツに関すること	29
I	道路・交通ネットワークに関すること	63
J	健康・医療・福祉に関すること	74
K	教育に関すること	36
L	県土の保全・防災に関すること	10
M	身近な生活・環境に関すること	46
N	県政全般に対する意見・その他	236
合 計		922

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を5「十分」～1「不十分」の5段階で質問した。

(1) 戦略1 秋田の未来につながるふるさとと定着回帰戦略について

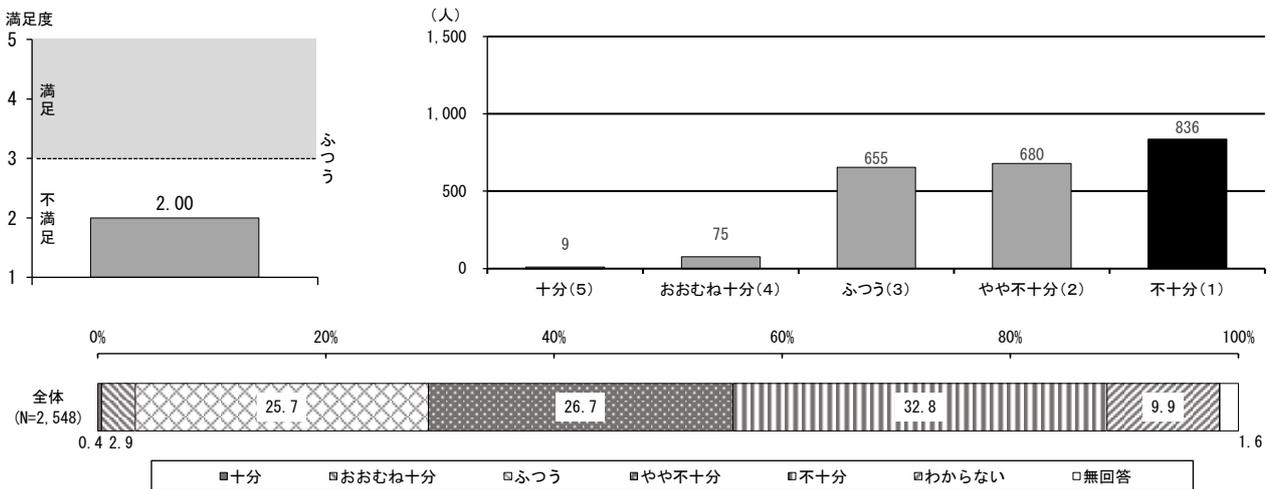
ア 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

問1-1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

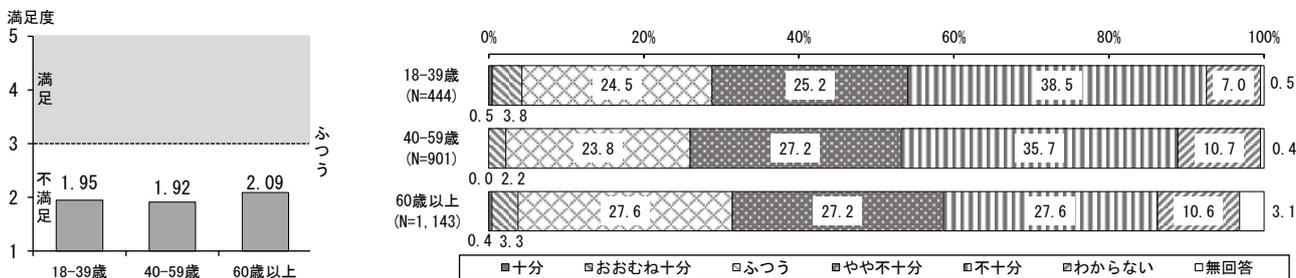
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.00で、「ふつう」の3より1.00低かった。回答は「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.3%、「ふつう」は25.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は59.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（以下「不満を感じていない人の割合」）は29.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.09で最も高く、不満を感じていない人の割合は31.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.92で最も低く、不満を感じていない人の割合は26.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,516人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、566人(37.3%)から回答があった。

回答の一部

- テレワークなどの良い転換を始める企業に補助金を支給するなど新しい働き方がより普及すれば良いと思う。(女性/20歳代/秋田地域)
- 私は成長分野と呼ばれる現場で勤務しているが、元々の人員不足で人材教育に手が回らないため、離職率が高いと思われる。そのため、企業誘致とか情報教育よりも、人材確保に向けて県全体で人を増やす必要があると思う。(男性/20歳代/由利地域)
- 会社説明会には大体同じ企業しか集まらないため、採用枠がなくても、こんな会社が秋田にはあるんだということを知らせる場があったら良い。(女性/40歳代/秋田地域)

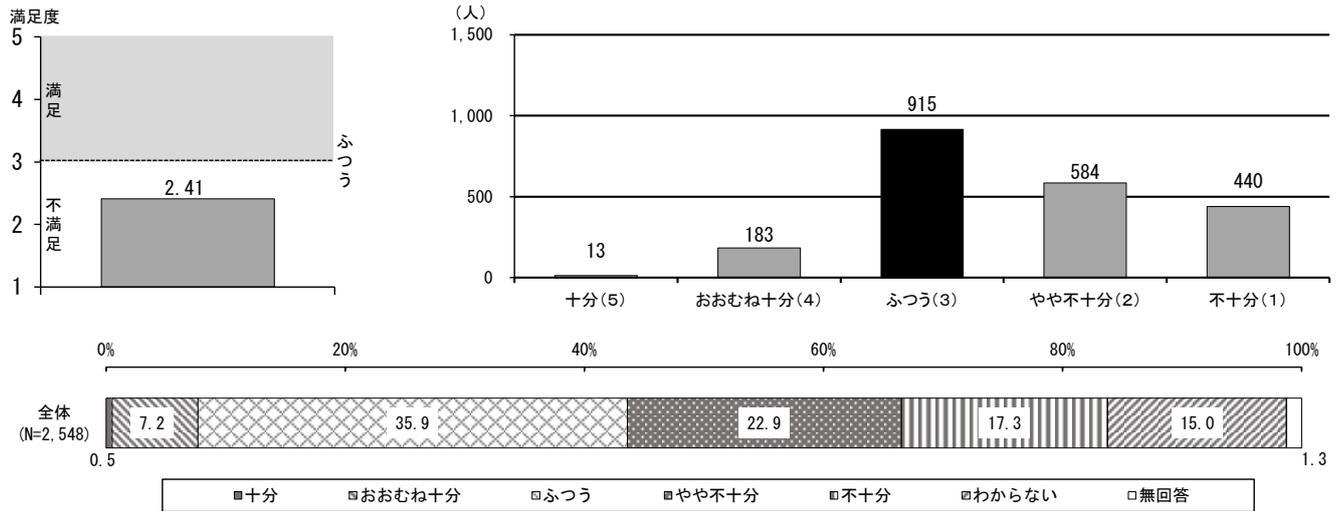
イ 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

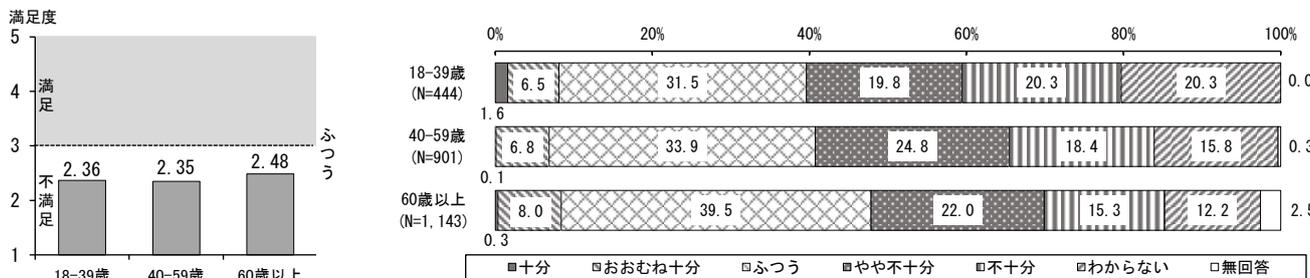
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.7%、「ふつう」は35.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は43.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.48で最も高く、不満を感じていない人の割合は47.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.35で最も低く、不満を感じていない人の割合は40.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,024人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、296人(28.9%)から回答があった。

回答の一部

- 大学生の県内への就職率が悪いと思う。大学で身に付けた成果を生かす場が県内に少ないように思う。(男性/30歳代/由利地域)
- 県内、地元就職を望んでいる若者は多いと思うが、開示する情報が少ないし、集めている情報そのものが少なすぎる。(女性/60歳代/秋田地域)
- 高校生は進んでいるように感じるが、県外に出た大学生が学んだことを生かせる職場がない。賃金が安く、「今の若者」にあった働き方を推し進める企業も少ない。(女性/40歳代/秋田地域)

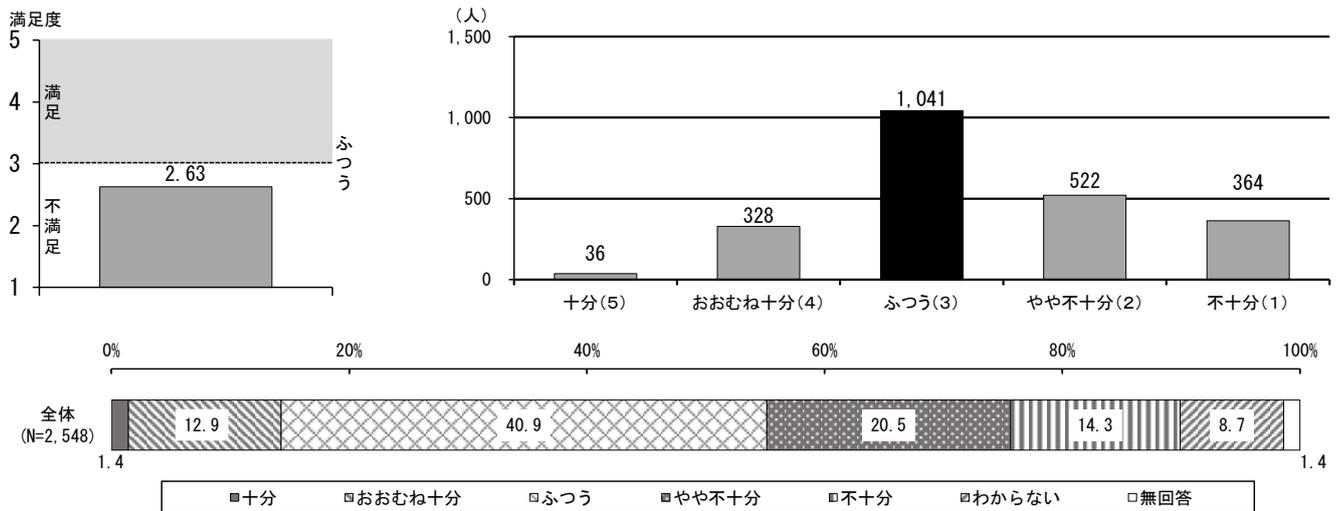
ウ 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

問 1-3 安心して子育てができる社会になっている。

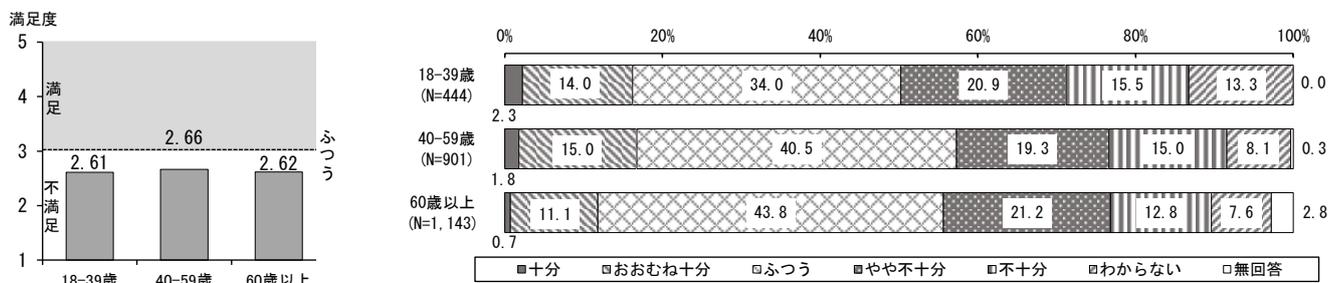
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.63で、「ふつう」の3より0.37低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.3%、「ふつう」は40.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は55.2%であった。



年代別では、「40～59歳」の満足度は2.66で最も高く、不満を感じていない人の割合は57.3%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.61で最も低く、不満を感じていない人の割合は50.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した886人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、269人(30.4%)から回答があった。

回答の一部

- 出生数が減少していることもあり、もっと子育てしやすい、行政の支援がもっと皆に伝えられるような情報提供をしてほしい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 秋田県内で子育てをした場合に掛かる費用を公表してほしい。成人までどのくらい掛かるのか目安があれば人生設計がもう少し楽になると思う。(男性/20歳代/仙北地域)
- 各種手当てに対する所得制限、安心して預けられる場所(保育園や学童保育)と預けられる時間、24時間頼れる医療機関など、もっと子育て世代のニーズとマッチングさせるような政策が必要なのではないでしょうか。(男性/40歳代/仙北地域)

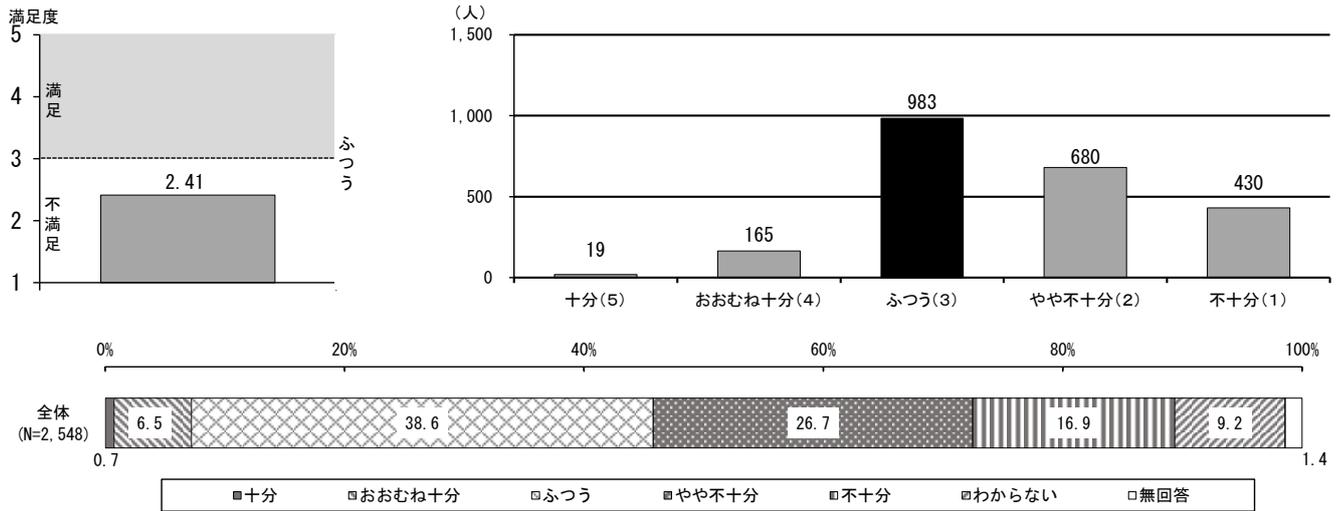
エ 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問1-4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

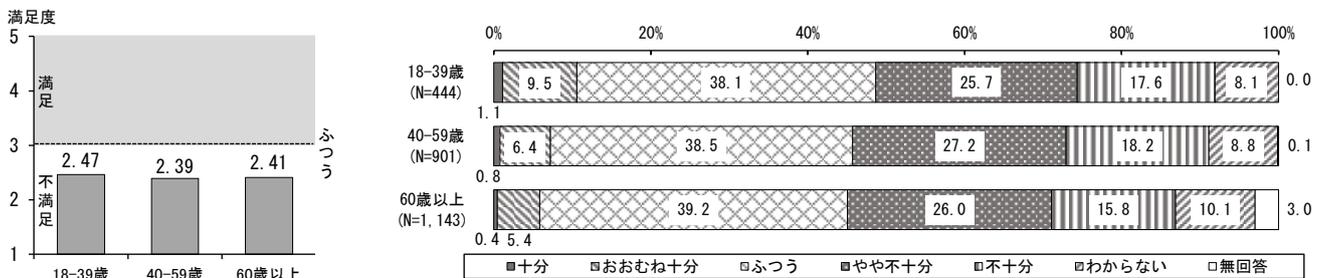
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.2%、「ふつう」は38.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.47で最も高く、不満を感じていない人の割合は48.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.39で最も低く、不満を感じていない人の割合は45.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,110人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、288人(25.9%)から回答があった。

回答の一部

- 全国や首都圏に比べ、女性や若者が前に出にくい文化であり、社会全体の価値観が遅れているほか、柔軟性に欠けている。結局、そのことが人口の流出につながっている。(女性/40歳代/雄勝地域)
- 出産・育児と平行している若いママに対して冷たい対応の職場が多いと思う。マタハラ等もある。結婚に魅力を感じないとの声が多い。(女性/50歳代/秋田地域)
- 昔ながらの男尊女卑的な考えが強く残っており、女性の職場での立場や給与等の待遇面は向上していない。年功序列的な考えもまだ強く残っており、若者に対して、実力や仕事内容に対して、適切な給与や待遇が提供されているとは思えない。(女性/50歳代/由利地域)

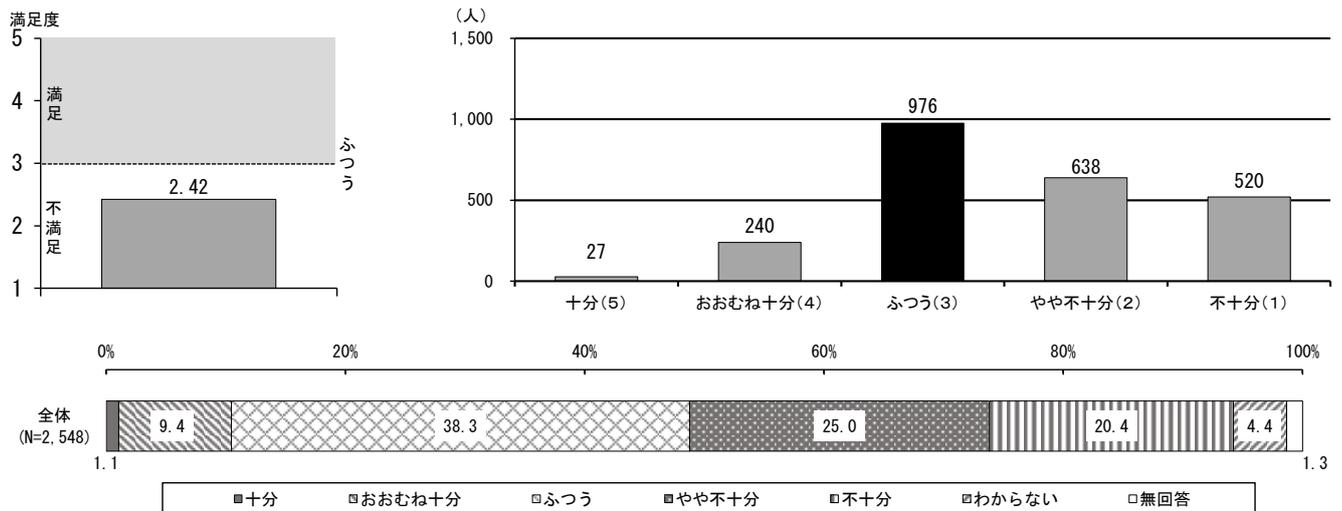
オ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

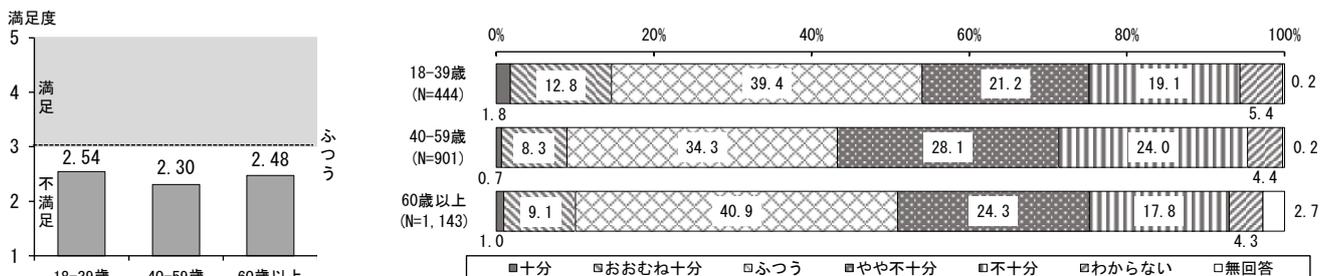
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.42で、「ふつう」の3より0.58低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.5%、「ふつう」は38.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は45.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は48.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.54で最も高く、不満を感じていない人の割合は54.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.30で最も低く、不満を感じていない人の割合は43.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,158人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、426人(36.8%)から回答があった。

回答の一部

- 私の住んでいる地域ではバスが廃止になり買物も不便です。高校生を送迎できない世帯では入学先を選ぶのもとても大変な思いをしています。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 公共交通機関が縮小されていて不便である。地域単位でも高齢者を乗せてもらえる新しいシステムが必要と思われる。(男性/50歳代/秋田地域)
- 近所の高齢者世帯は、買い物や病院に行くにも苦慮している。サービスの有無も含めて情報が乏しい。(男性/60歳代/雄勝地域)

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

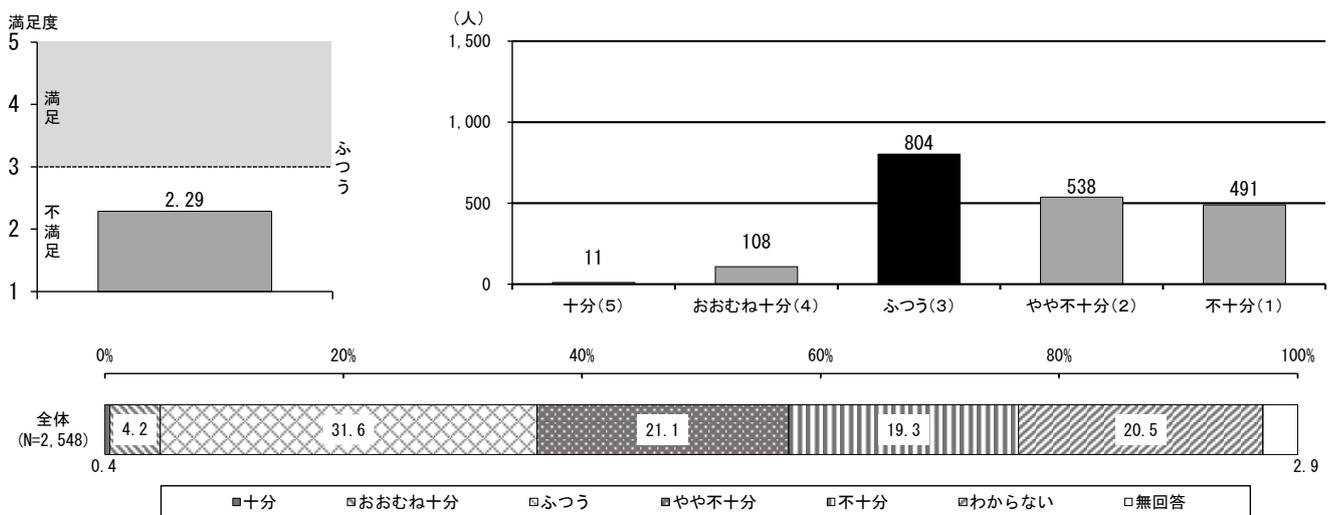
ア 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

問 1-6 地域経済を^{けん}牽引することができる競争力を持った企業が増えている。

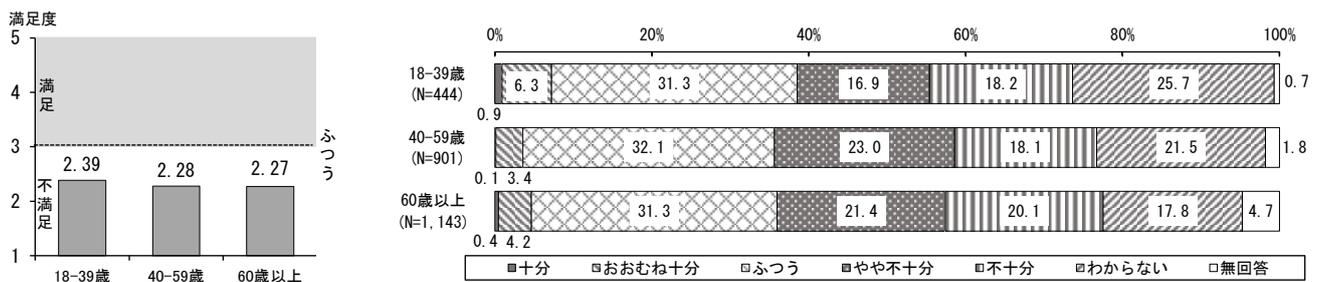
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.29で、「ふつう」の3より0.71低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.6%、「ふつう」は31.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.39で最も高く、不満を感じていない人の割合は38.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.27で最も低く、不満を感じていない人の割合は35.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,029人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、235人(22.8%)から回答があった。

回答の一部

- 企業の活躍の状況を知る機会がないため評価が低くなってしまっている。もっと情報発信がほしい。(女性/70歳以上/秋田地域)
- 競争力がある企業は一部の企業で、全体的には少ないと感じている。(男性/60歳代/仙北地域)
- 企業同士の競争は大きい都市の企業ではあるが、田舎の企業にはできないと思う。自分の会社を維持するので精一杯なように思える。(女性/60歳代/鹿角地域)

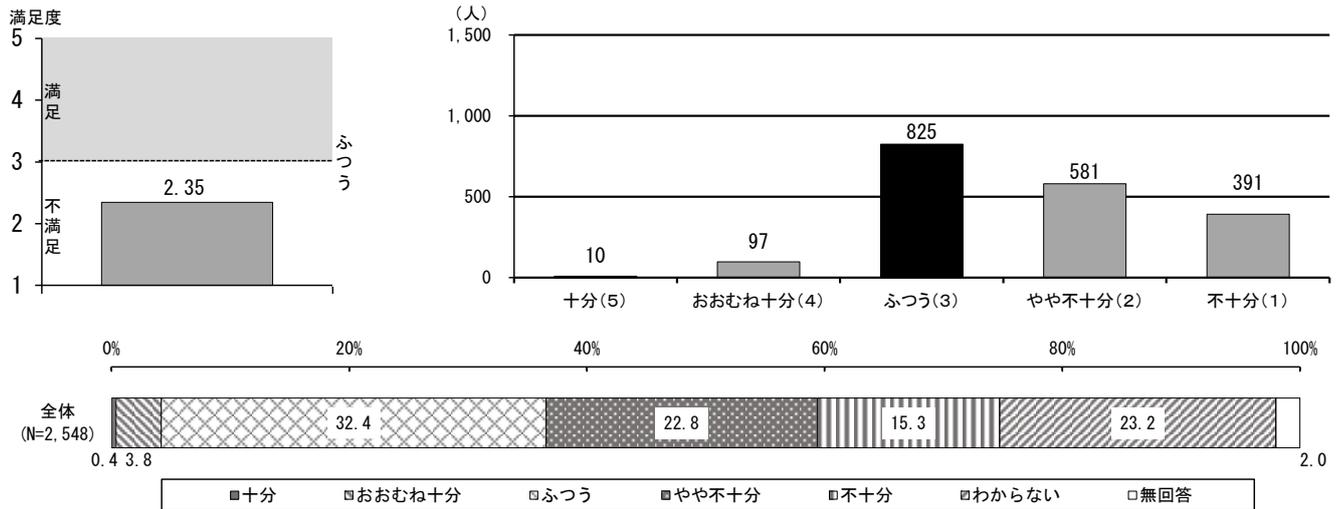
イ 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問 1-7 中小企業の安定した経営が確保されている。

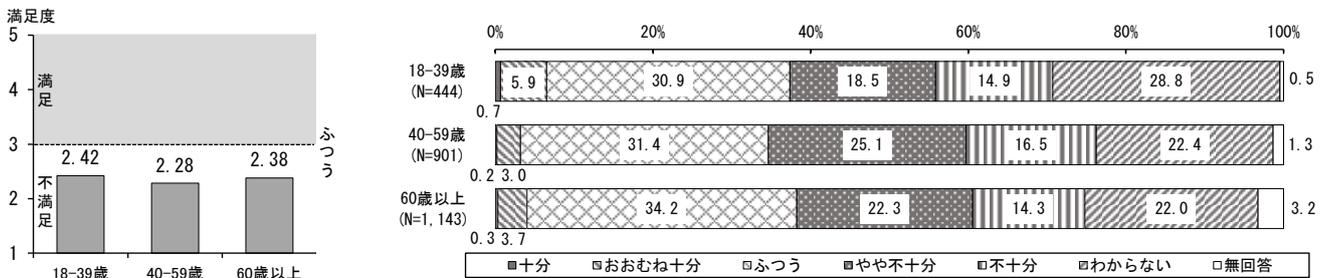
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.35で、「ふつう」の3より0.65低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.2%、「ふつう」は32.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は38.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.42で最も高く、不満を感じていない人の割合は37.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.28で最も低く、不満を感じていない人の割合は34.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した972人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、156人(16.0%)から回答があった。

回答の一部

- 経営力の弱い中小企業にとって長引くコロナ禍におけるダメージは大きい。一過性の助成や支援では根本的な解決になっていないと感じる。(女性/30歳代/由利地域)
- 中小企業は後継者問題が大きいので、倒産に追い込まれるところが多い。私の住んでいるところでも何年も続いている老舗が倒産している。何か手立てを考えてほしい。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 若者の県外流出や、大企業の求人数増加により、安定した従業員の確保ができず、後継者不足にもつながり、事業継続が成り立たない状態が増加していると感じる。個々の中小企業の継続に対するサポートだけでは、継続はできていても経営力強化にはつながらず、統廃合による再編成も視野に入れた、強力な経営力の強化サポートが必要。(女性/50歳代/由利地域)

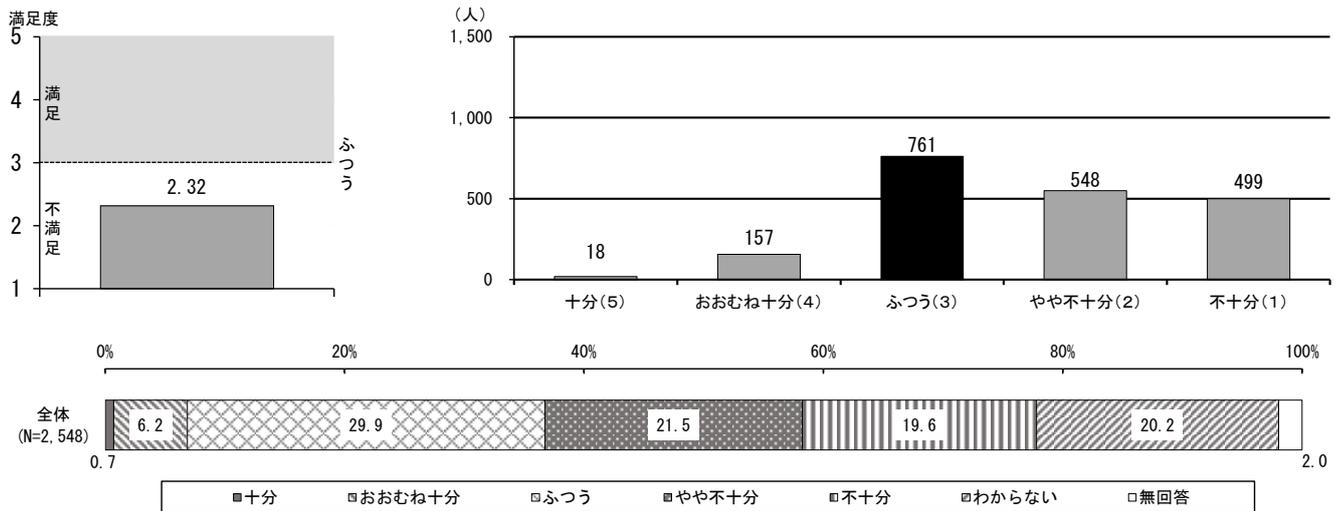
ウ 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8 企業誘致が進んでいる。

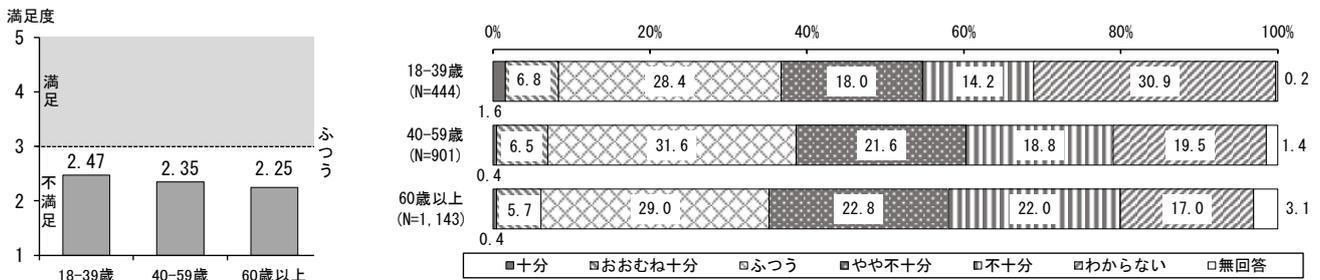
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.32で、「ふつう」の3より0.68低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.9%、「ふつう」は29.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.47で最も高く、不満を感じていない人の割合は36.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.25で最も低く、不満を感じていない人の割合は35.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,047人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、212人(20.2%)から回答があった。

回答の一部

- 誘致を進めていると思うが、若者の受け皿になっているとは思わない。(男性/30歳代/由利地域)
- 企業誘致はそれなりに進んでいるが、誘致する企業の職業に偏りがある感じがする。(男性/70歳以上/平鹿地域)
- 再生可能エネルギー等の分野のこれからの支援する体制整備が必要と思います。(男性/50歳代/山本地域)

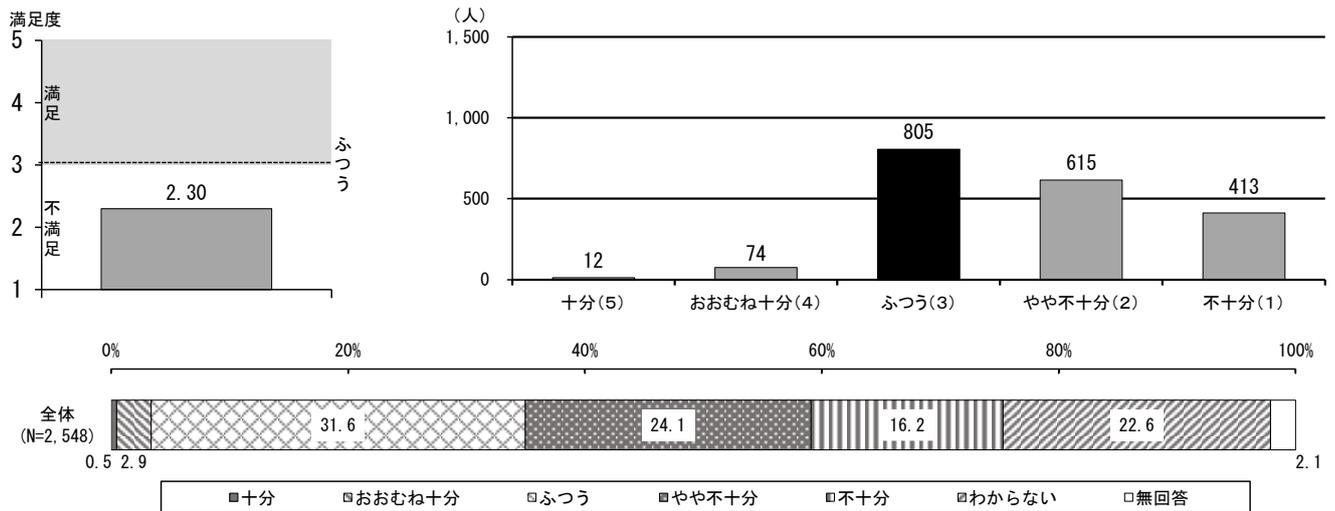
エ 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

問 1-9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

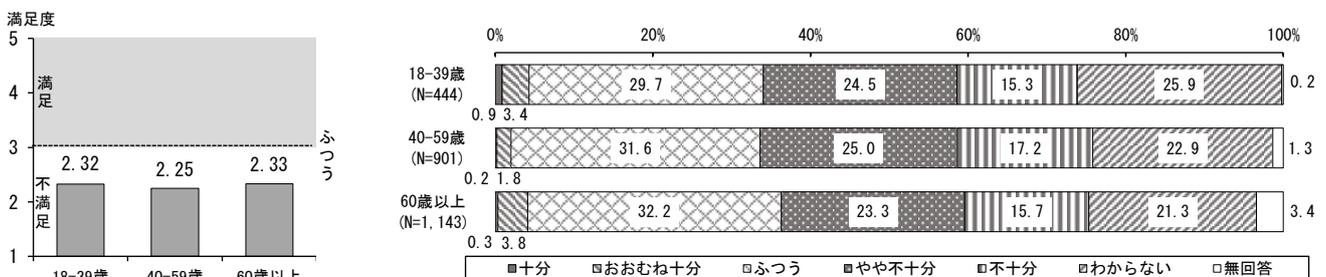
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.30で、「ふつう」の3より0.70低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.4%、「ふつう」は31.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.33で最も高く、不満を感じていない人の割合は36.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.25で最も低く、不満を感じていない人の割合は33.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,028人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、164人(16.0%)から回答があった。

回答の一部

- 若い人達の起業に向け、セミナー受講など勉強できる機会がもっとあったら良いと思う。(女性/60歳代/山本地域)
- 若者が意欲的に働くことができる給与体系を企業に義務付けるような雰囲気づくりが必要。(男性/50歳代/仙北地域)
- 高校生、大学生の時から研修やインターンシップなどで、県内産業人材の育成を進めるべきだと思う。(男性/20歳代/秋田地域)

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

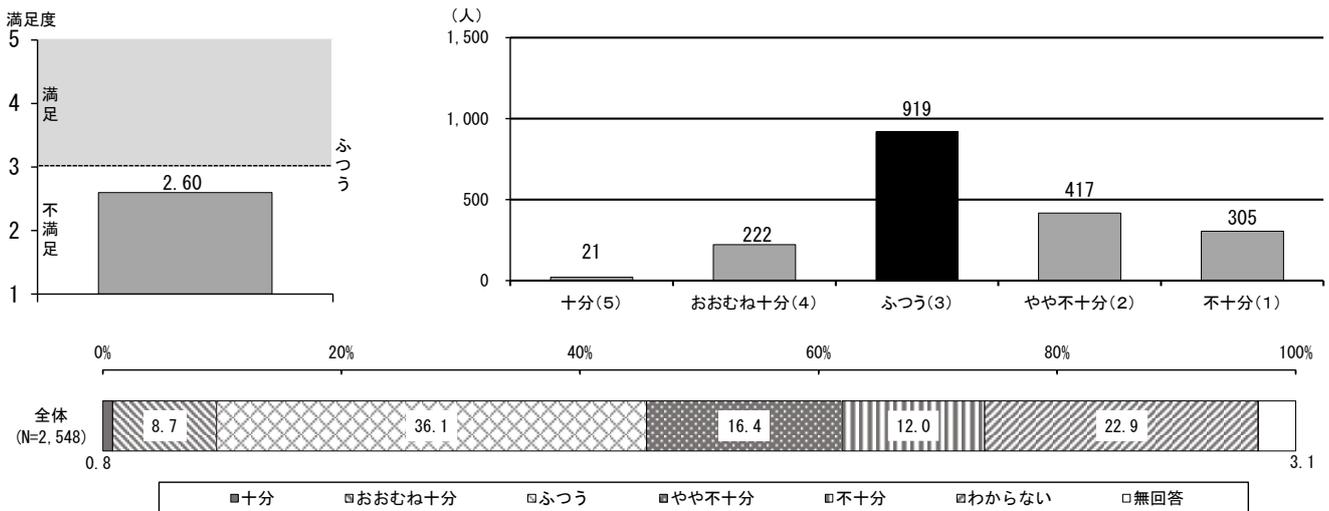
ア 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問 1-10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

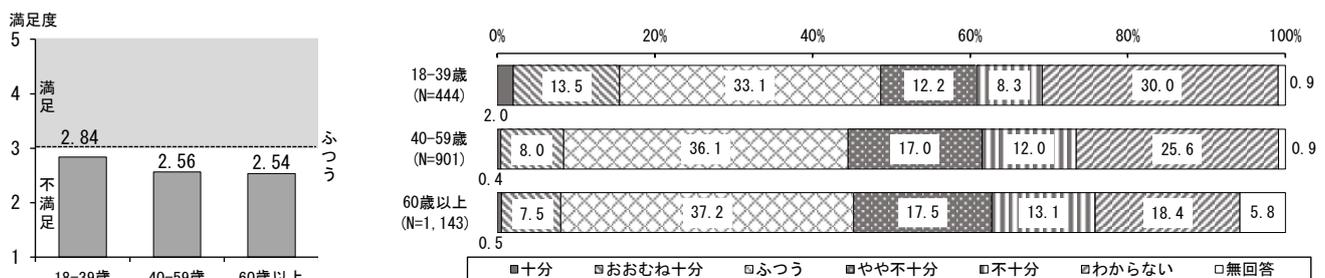
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.5%、「ふつう」は36.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.84で最も高く、不満を感じていない人の割合は48.6%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.54で最も低く、不満を感じていない人の割合は45.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した722人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、221人(30.6%)から回答があった。

回答の一部

- 興味関心がある人が農業などを始められるきっかけを作るため、情報発信を工夫してほしい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 最近では、若い漁師の方がサーモンの養殖に取り組み、初年度完売のニュースを見ました。こういうことをサポートしていくことで、新たな分野への取組が広がると思います。また、こういうことを取り上げることで、その仕事の内容や魅力を知るきっかけにもなります。(女性/40歳代/秋田地域)
- 若者の担い手を増やすため、農業、林業の機械化やAIによる自動化を進めるべき。(男性/40歳代/北秋田地域)

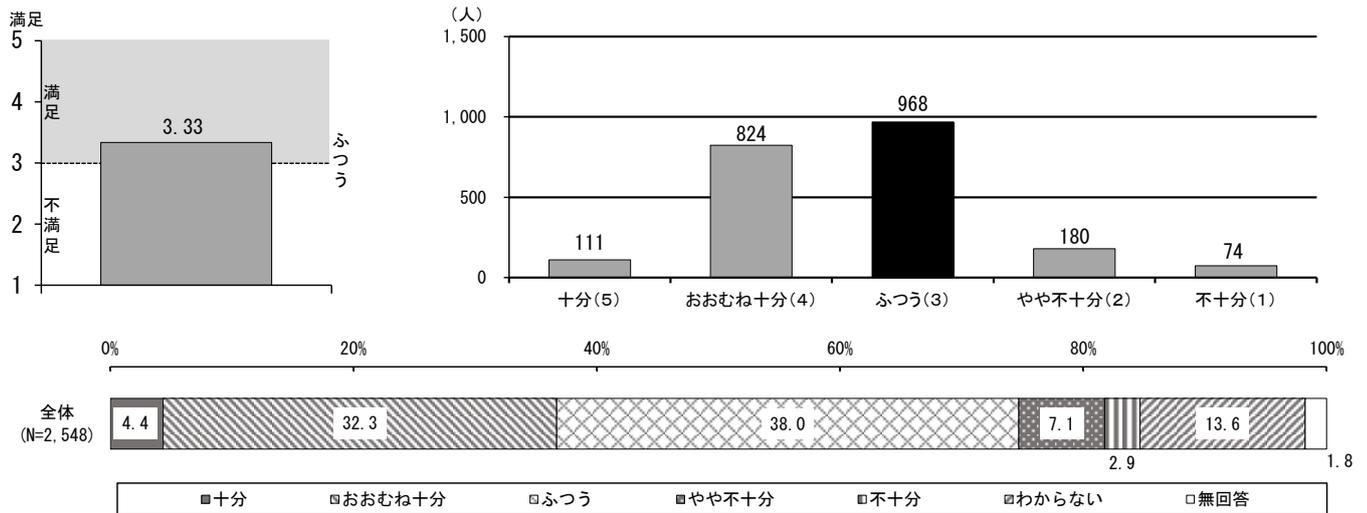
イ 複合型生産構造への転換の加速化

問 1-11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

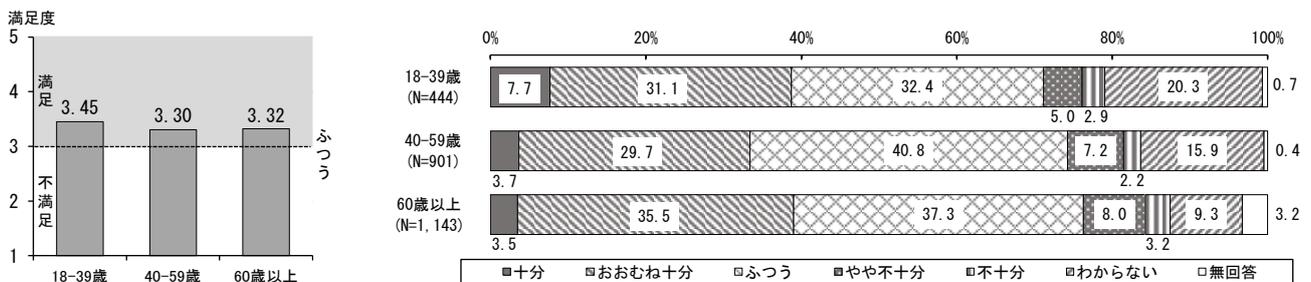
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.33で、「ふつう」の3より0.33高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は36.7%、「ふつう」は38.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は74.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.45で最も高く、不満を感じていない人の割合は71.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.30で最も低く、不満を感じていない人の割合は74.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した254人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、69人(27.2%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田牛などはよく目にするようになったと感じるが、実際は手が届かない。野菜はおいしいし、今後を期待。(女性/30歳代/仙北地域)
- 良い取組もたくさんあるが、秋田県の強みである農業をもっともっと支援して、日本、世界に必要とされるものにしてほしい。(男性/30歳代/北秋田地域)
- しいたけ、菊を売りにしていることを今知った。広報にも力を入れてほしい。(女性/20歳代/秋田地域)

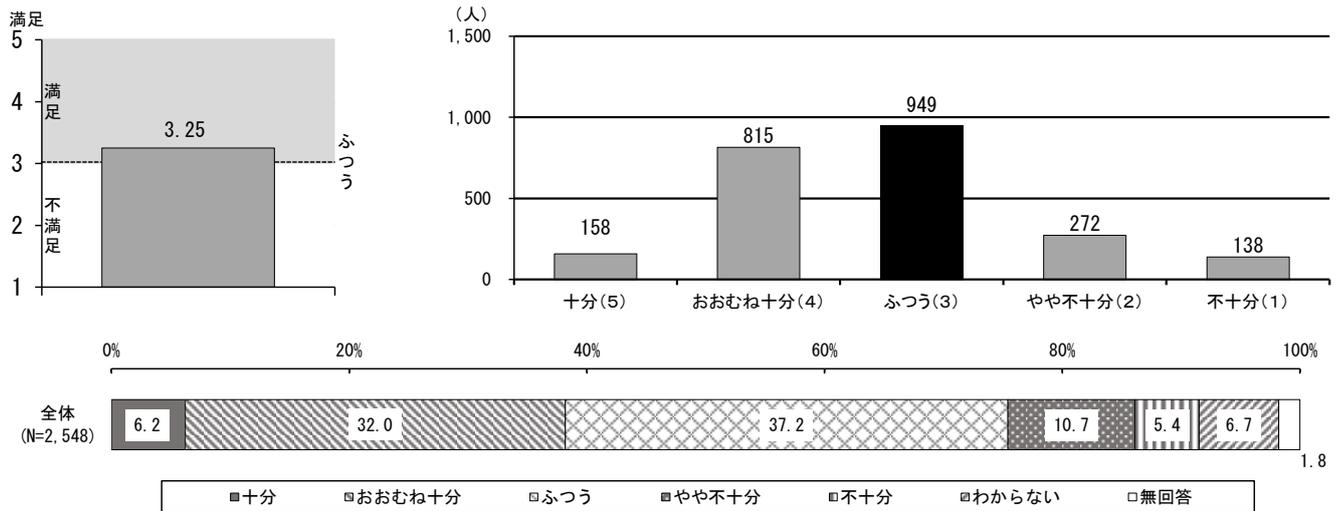
ウ 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

問 1-12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

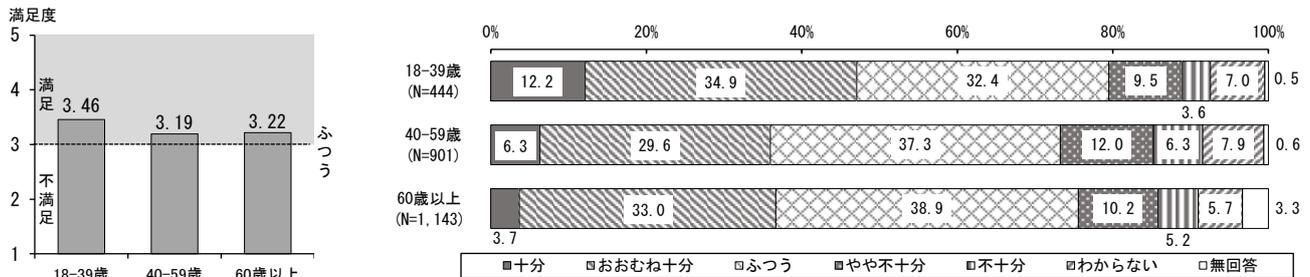
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.25で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は38.2%、「ふつう」は37.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は75.4%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.46で最も高く、不満を感じていない人の割合は79.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.19で最も低く、不満を感じていない人の割合は73.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した410人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、150人(36.6%)から回答があった。

回答の一部

- サキホコレが近年出ているが、まだ口にしたことがない。今後に期待。小学校の給食に出たりしたのは、教育・食育にも良いと思った。(女性/30歳代/仙北地域)
- 米どころの秋田を維持するためにも、ブランド米の安定確保が所得向上につながると思う。サキホコレの今後のPR、品質確保を祈りたい。(男性/60歳代/平鹿地域)
- お米は他県に負けないはずなのに、セールスが足りなさすぎる。他県の人を雇用するなどしてアドバイスをいただくべき。(女性/60歳代/秋田地域)

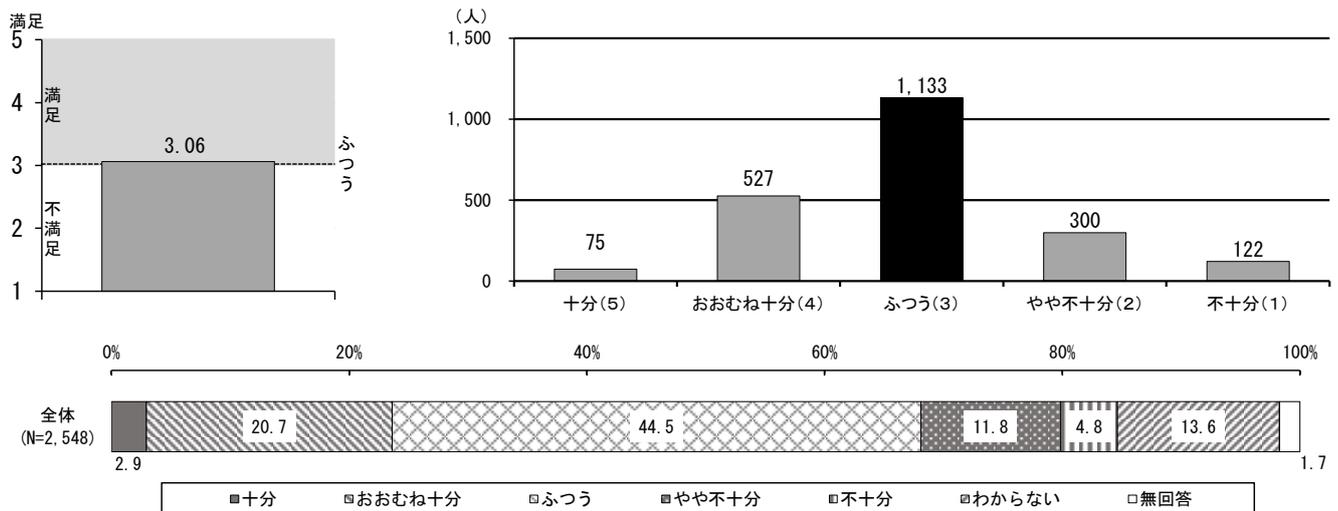
エ 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

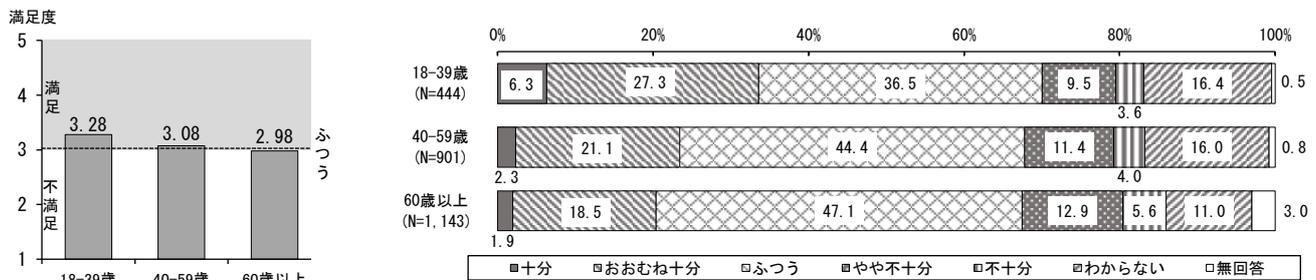
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.6%、「ふつう」は44.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.28で最も高く、不満を感じていない人の割合は70.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.98で最も低く、不満を感じていない人の割合は67.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した422人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、89人(21.1%)から回答があった。

回答の一部

- いぶりがっこの生産や販売が盛んだが、生産に規制が入るそうなので今後が心配。(女性/50歳代/北秋田地域)
- いろんな地域で特色のある美味しい加工品があるのに、販売促進がうまくないと感じている。(男性/60歳代/平鹿地域)
- 農林水産物の高付加価値化とマーケティング力向上に取り組んでいただきたい。(男性/20歳代/秋田地域)

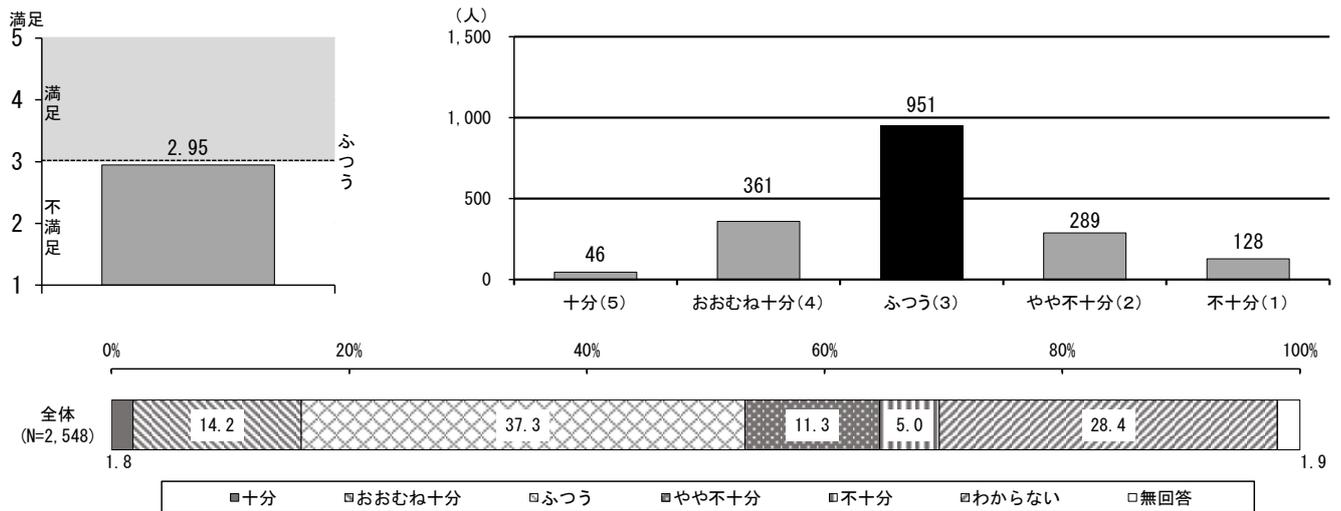
オ 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問 1-14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

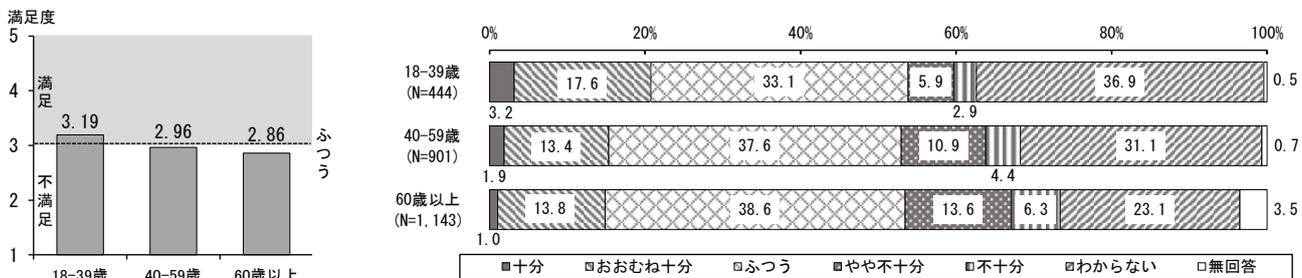
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.95で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.0%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は53.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.19で最も高く、不満を感じていない人の割合は53.9%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.86で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した417人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、82人(19.7%)から回答があった。

回答の一部

- 伐期適齢を迎えているので生産量増大は当たり前である。再造林率の低さによる杉の枯渇問題を解消しなければ、秋田のブランドが一つ減り大打撃になる。(男性/30歳代/由利地域)
- 実際どれほど使われているのか把握していません。素晴らしい木材があり多く生産しているのであれば、もっとPRして県内外に発信してもらいたいです。(男性/40歳代/雄勝地域)
- 新設の建物など、いろいろな場所で見かけることが多くなりました。とても素晴らしいものだと思うので、さらに生産、利用を拡大してほしいです。(女性/40歳代/秋田地域)

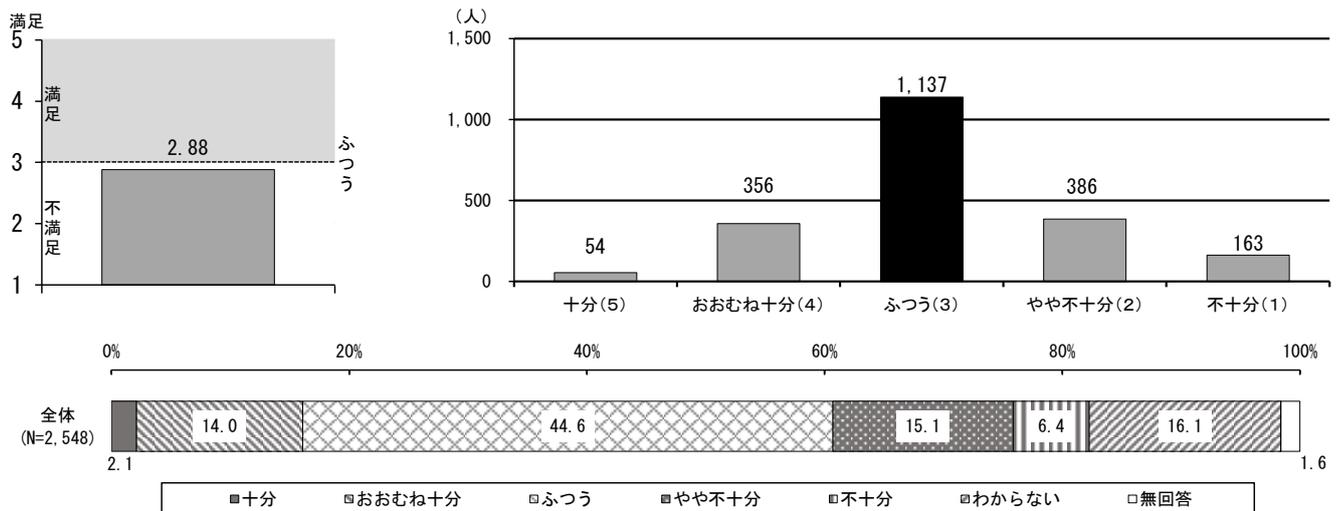
カ つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

問 1-15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

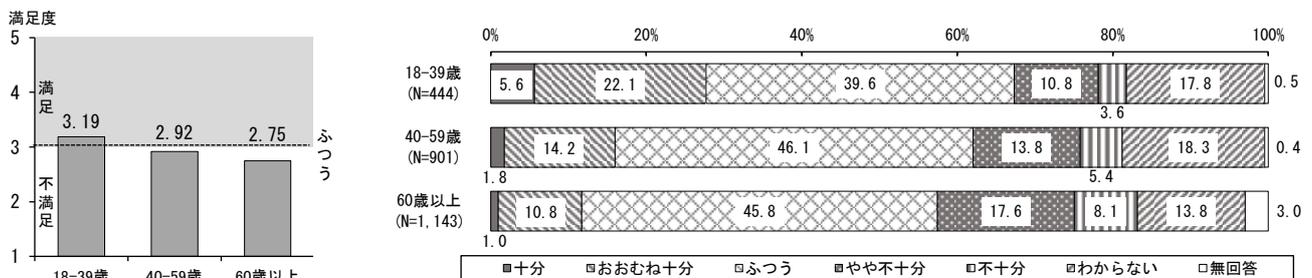
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.88で、「ふつう」の3より0.12低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.1%、「ふつう」は44.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は60.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.19で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.3%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.75で最も低く、不満を感じていない人の割合は57.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した549人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、128人(23.3%)から回答があった。

回答の一部

- ハタハタの漁獲量激減には大変心配している。漁業資源の健全育成には是非力を入れてほしい。(男性/40歳代/秋田地域)
- 秋田のマダイは本当に美味しいので、もっと広く告知したほうが良いと思う。観光客を呼べる大きな魅力を秘めていると思う。(男性/40歳代/秋田地域)
- 気候変動による海水温上昇に伴う生息域の変化や従事者の減少等を見越した長期的な漁業の展望が必要ではないでしょうか。(男性/40歳代/北秋田地域)

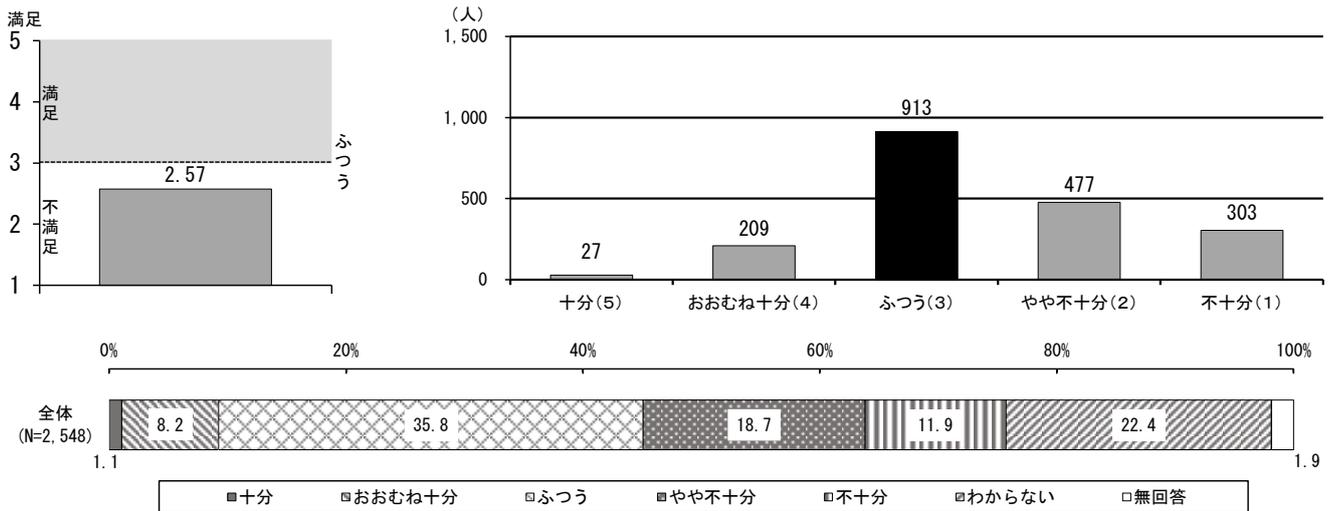
キ 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

問 1-16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

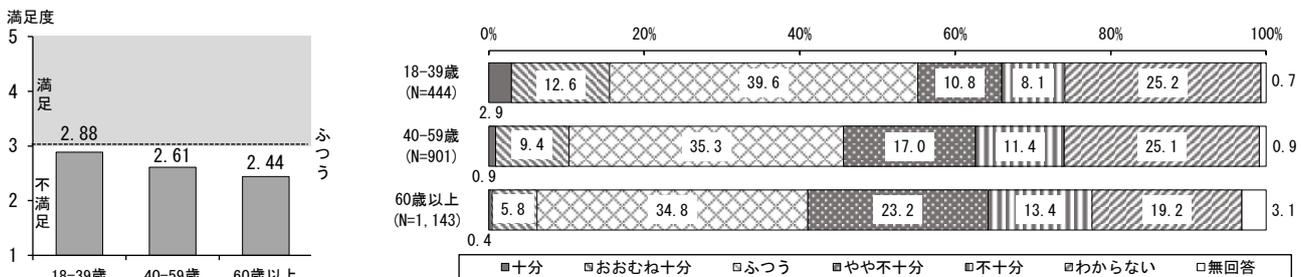
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.57で、「ふつう」の3より0.43低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.3%、「ふつう」は35.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.88で最も高く、不満を感じていない人の割合は55.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.44で最も低く、不満を感じていない人の割合は41.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した780人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、186人(23.8%)から回答があった。

回答の一部

- 農家の後継者問題などに対して、もっと農山漁村の魅力を伝えていく情報を発信してほしい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 農林業に魅力がなく村に後継者がいなくなり、老人社会が進んでいる。早急に改善を要する。(男性/70歳以上/由利地域)
- 農地や森林を守る必要があると同時に、集落の拠点化を図り、ライフライン維持に要するコストを下げなければ、広大な秋田県で持続可能な生活環境維持は困難です。(男性/50歳代/山本地域)

(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について

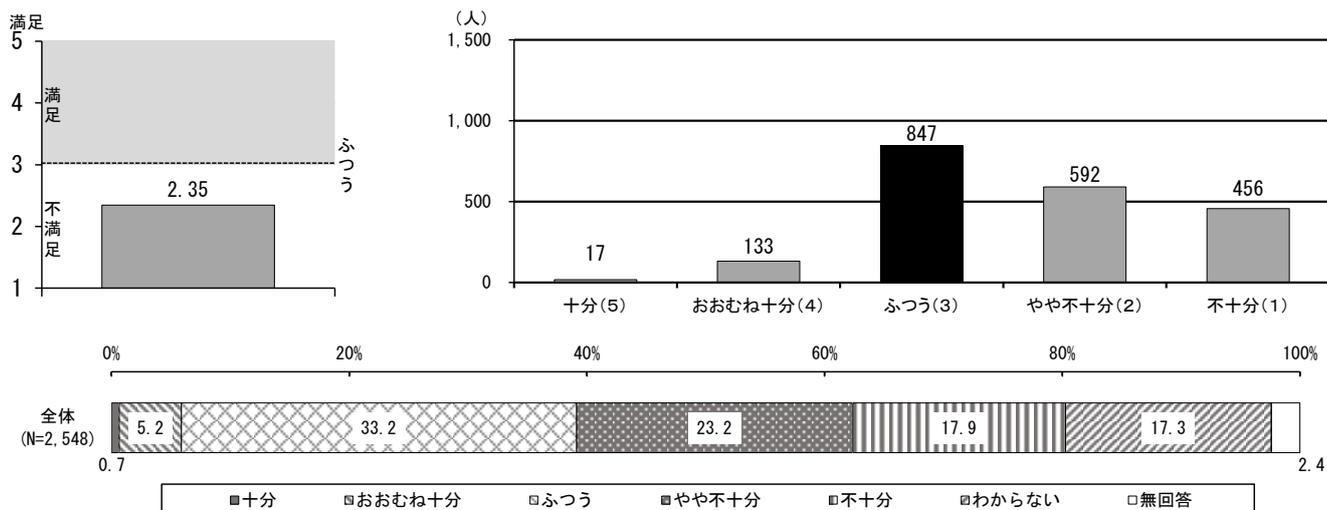
ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問 1-17 国内外から観光誘客が進んでいる。

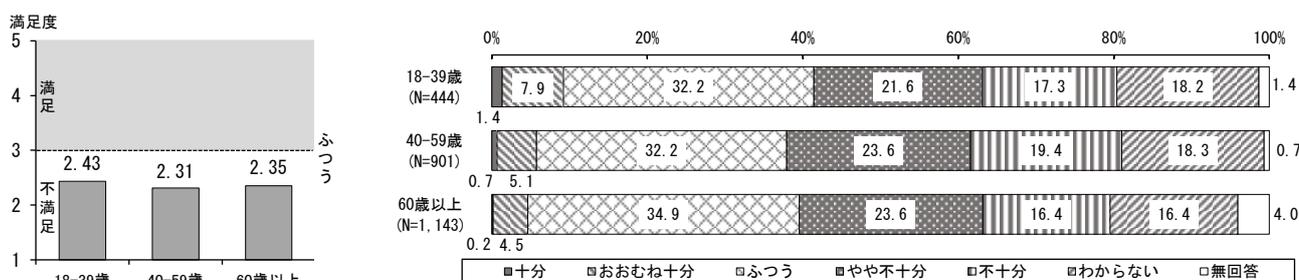
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.35で、「ふつう」の3より0.65低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は5.9%、「ふつう」は33.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は39.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.43で最も高く、不満を感じていない人の割合は41.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.31で最も低く、不満を感じていない人の割合は38.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,048人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、265人(25.3%)から回答があった。

回答の一部

- 有名ではないが、県民の一部だけが知っている秘境のような観光地はたくさんあり、それをもっとアピールすれば違う視点から魅力に思い、訪れる観光客は必ず増えると思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 最近では、秋田犬の展示、ドラゴンアイ等をニュースで見ましたが、複数の魅力的な観光コンテンツを併せた目的がないと、なかなか難しいのではないかと思います。(女性/40歳代/秋田地域)
- ワークーションなどの推進には課題が多く、魅力の向上とプロモーションを上手く行う方法について学ぶ必要がある。(男性/20歳代/秋田地域)

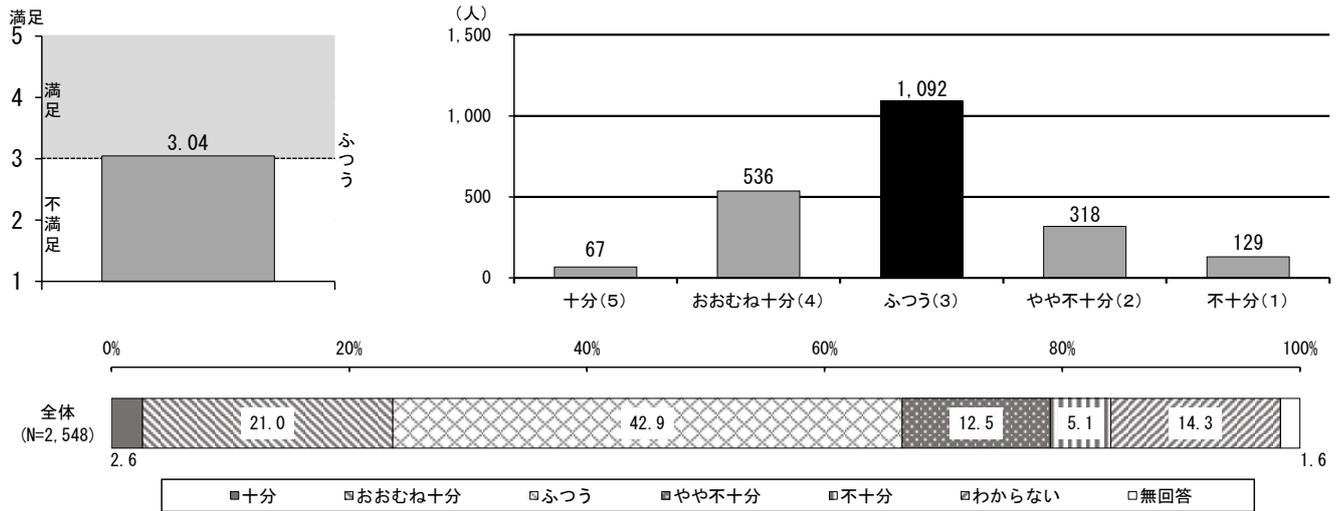
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問 1-18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

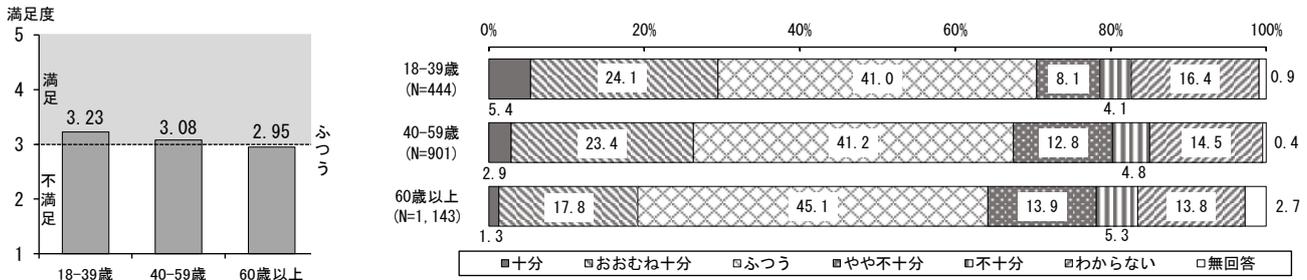
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.04で、「ふつう」の3より0.04高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.6%、「ふつう」は42.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は66.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.23で最も高く、不満を感じていない人の割合は70.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.95で最も低く、不満を感じていない人の割合は64.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した447人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、71人(15.9%)から回答があった。

回答の一部

- 日本酒・発酵食品は秋田の自慢であり、誇れる商品が多いので、もっと流通してほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- 酒蔵の数も多く、日本酒は必ず他県の人に美味しいと言われるが、その存在を知らない人が多く、もったいなく感じる。全国へ多少はPRされているが、これまでにないアプローチをしてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 良い商品は多いと思いますが、パッケージや売り方にもっと力を入れたほうが良いと思う。県内にも優れたデザイナーやクリエイター、作家がたくさんいるので、すぐに県外に依頼したりお金を払うのではなく、秋田県内のチームワークで物販を目指したほうが良いと思う。(男性/40歳代/秋田地域)

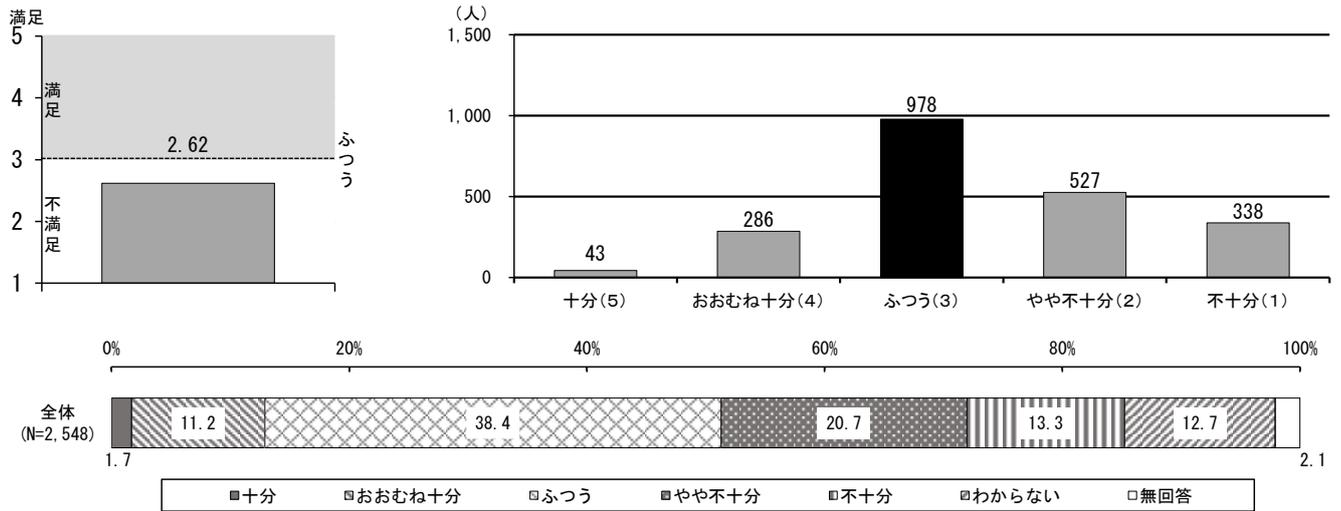
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

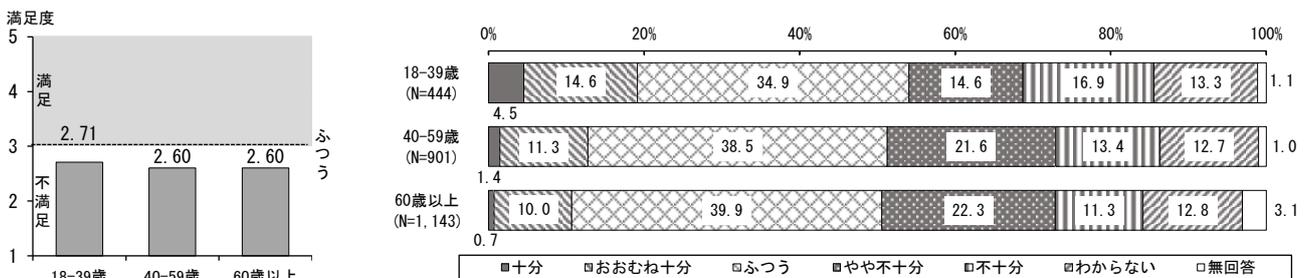
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.9%、「ふつう」は38.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は51.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.71で最も高く、不満を感じていない人の割合は54.0%であった。一方、「40～59歳」と「60歳以上」の満足度はともに2.60で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ51.2%、50.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した865人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、168人(19.4%)から回答があった。

回答の一部

- 地域の伝統芸能などは、国外の人にはめずらしいと思うのでアピールしてほしい。外国人向けに、里山や伝統芸能のツアーを旅行会社に企画してもらい、宿泊させてはどうか。(男性/70歳以上/山本地域)
- 秋田に住んでいても、かまくら、なまはげといった全国的なものしか分からないので、まずは県内の人に知られていない部分をアピールすべき。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 県内の文化は魅力がたくさんあると思う。しかし、それを県外に発信することが下手なように感じる。(男性/40歳代/由利地域)

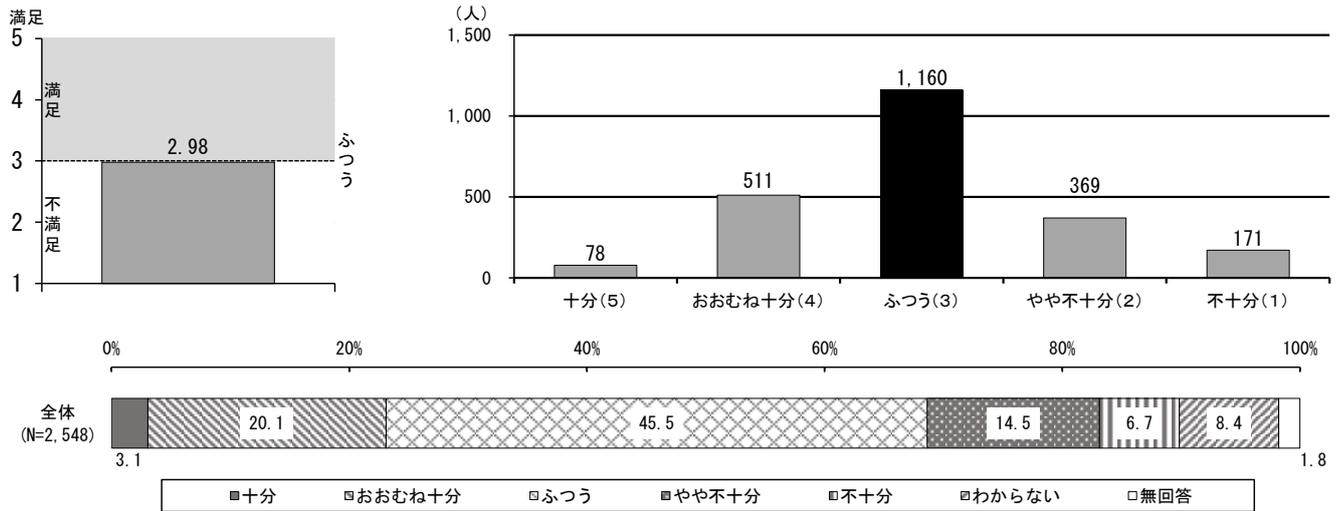
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

問 1-20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

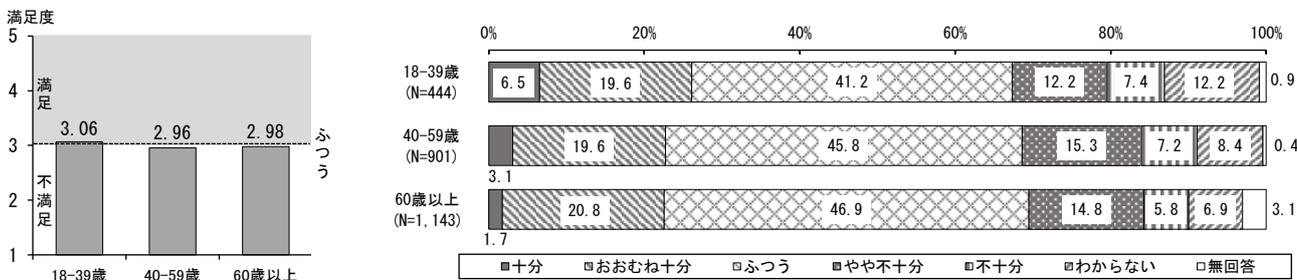
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.98で、「ふつう」の3より0.02低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.2%、「ふつう」は45.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.06で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.96で最も低く、不満を感じていない人の割合は68.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した540人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、97人(18.0%)から回答があった。

回答の一部

- スポーツ特区を設けるなど工夫を。高校スポーツは各校に任せすぎ、山形県のように戦略的にしてほしい。(男性/40歳代/秋田地域)
- バスケ、サッカーのプロスポーツはがんばっているように思うが、地域の活性化においては、秋田市以外はほとんど感じ取れない。(男性/50歳代/雄勝地域)
- 小・中学校のスポ少や部活動では、指導者の確保や指導者のスキルによって地域格差がある。仕方ないと思うが、能力のある生徒児童が埋もれていくと考える。(女性/50歳代/鹿角地域)

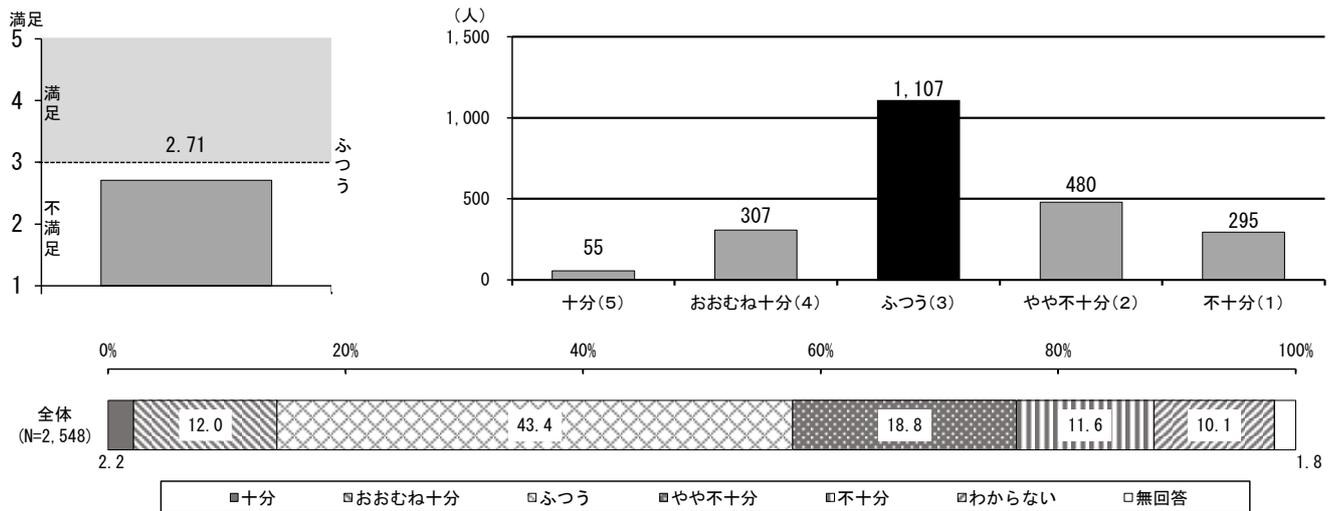
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの設備

問 1-21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

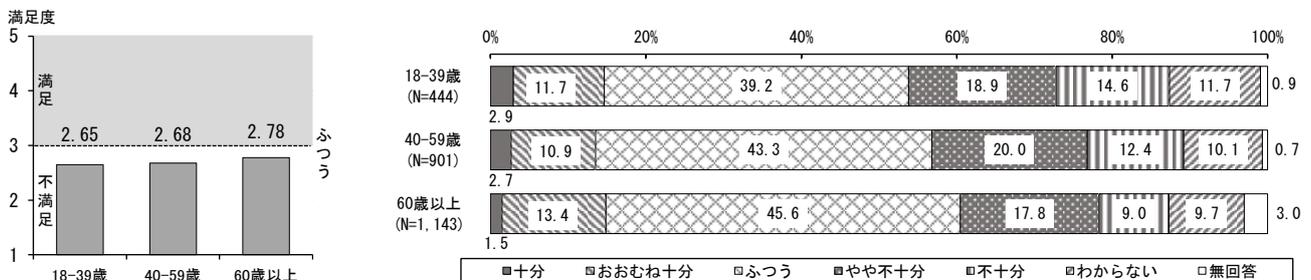
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.71で、「ふつう」の3より0.29低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は43.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は57.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.78で最も高く、不満を感じていない人の割合は60.5%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.65で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した775人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、153人(19.7%)から回答があった。

回答の一部

- 高速道の整備で状況は変わってくると思うが、他県に比べて道路網の整備に遅れがあると思う。(女性/70歳以上/鹿角地域)
- ネットワーク以前に、劣化した既存の道路を直す方が先だと思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 自分が住んでいるところでは、主要都市にスムーズに向かう道路がなく、遠回りしないといけない所もあり不便を感じる。(男性/40歳代/由利地域)

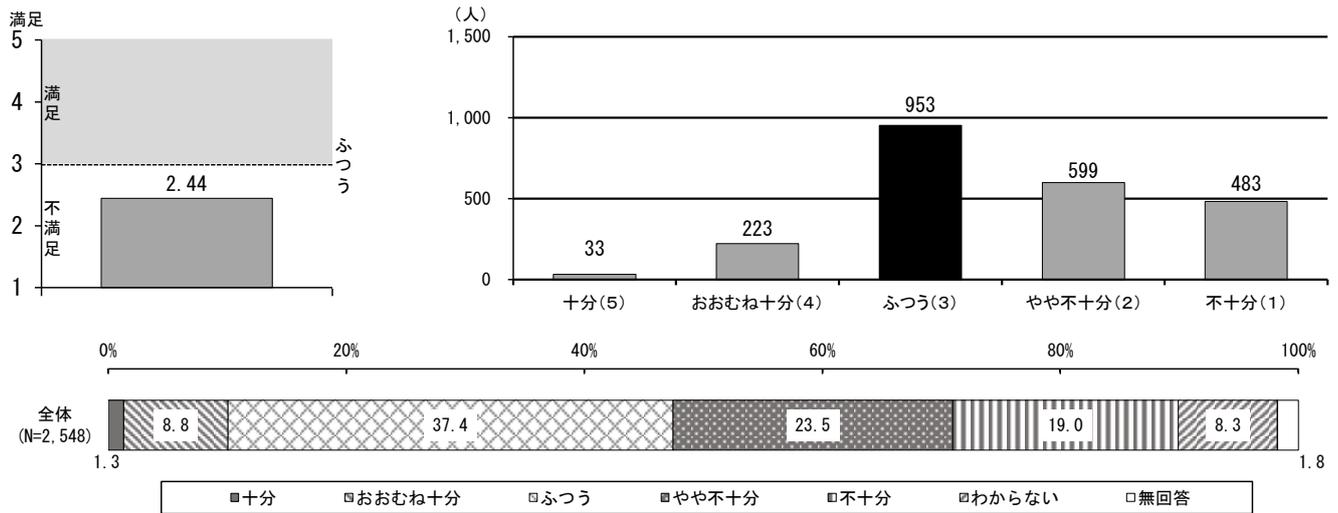
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

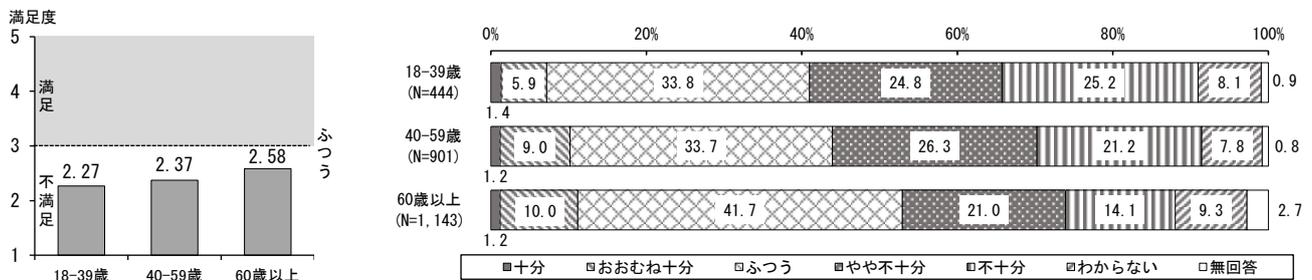
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.44で、「ふつう」の3より0.56低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.1%、「ふつう」は37.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は47.5%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.58で最も高く、不満を感じていない人の割合は52.9%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.27で最も低く、不満を感じていない人の割合は41.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,082人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、247人(22.8%)から回答があった。

回答の一部

- 利便性の高い交通ネットワークとなると、まだまだ不十分では。秋田市内、各地のスポットなどに直接アクセスできるような交通手段があれば良い。(女性/30歳代/由利地域)
- 利便性の高さの基準が不明であるが、新幹線を例にとっても東京→青森より時間が掛かることで、観光客やビジネスは秋田が遠のくような気がする。(男性/60歳代/仙北地域)
- フル規格新幹線、奥羽新幹線は必要。自然災害時の交通手段として重要、東北新幹線不通のたび思う。(男性/40歳代/秋田地域)

(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について

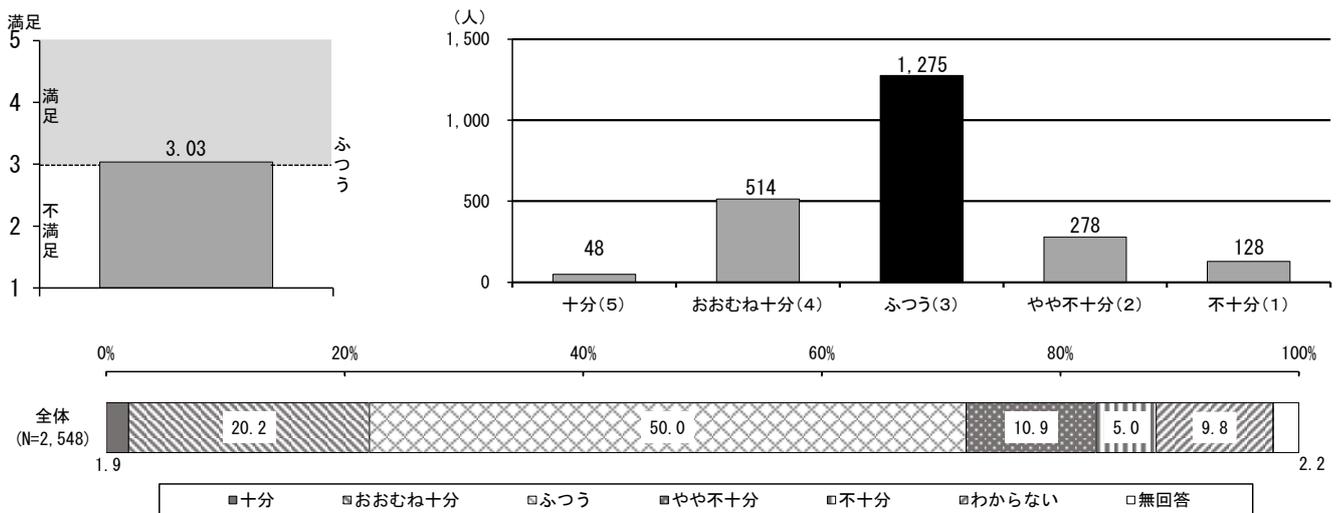
ア 健康寿命日本一への挑戦

問 1-23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

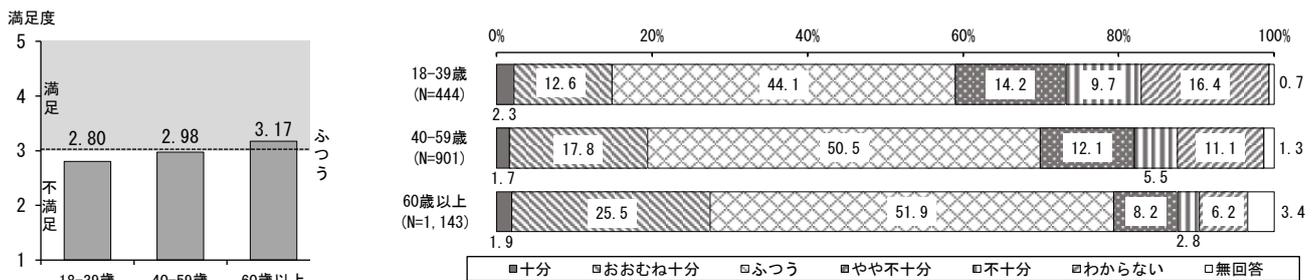
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.03で、「ふつう」の3より0.03高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は22.1%、「ふつう」は50.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は72.1%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は3.17で最も高く、不満を感じていない人の割合は79.3%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.80で最も低く、不満を感じていない人の割合は59.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した406人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、80人(19.7%)から回答があった。

回答の一部

- 健康づくりについてもっとアピールするべきだと思う。減塩音頭も浸透している感じがしない。(女性/20歳代/秋田地域)
- たばこは吸う人は吸うので止めようがないが、CMや広告でアピールし続けるのは効果があると思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 各種統計で、秋田県人の健康データが悪いことが明らかです。塩分摂取量・摂取カロリー・運動量・喫煙・飲酒等、行政からの発信が足りないと思います。(男性/50歳代/山本地域)

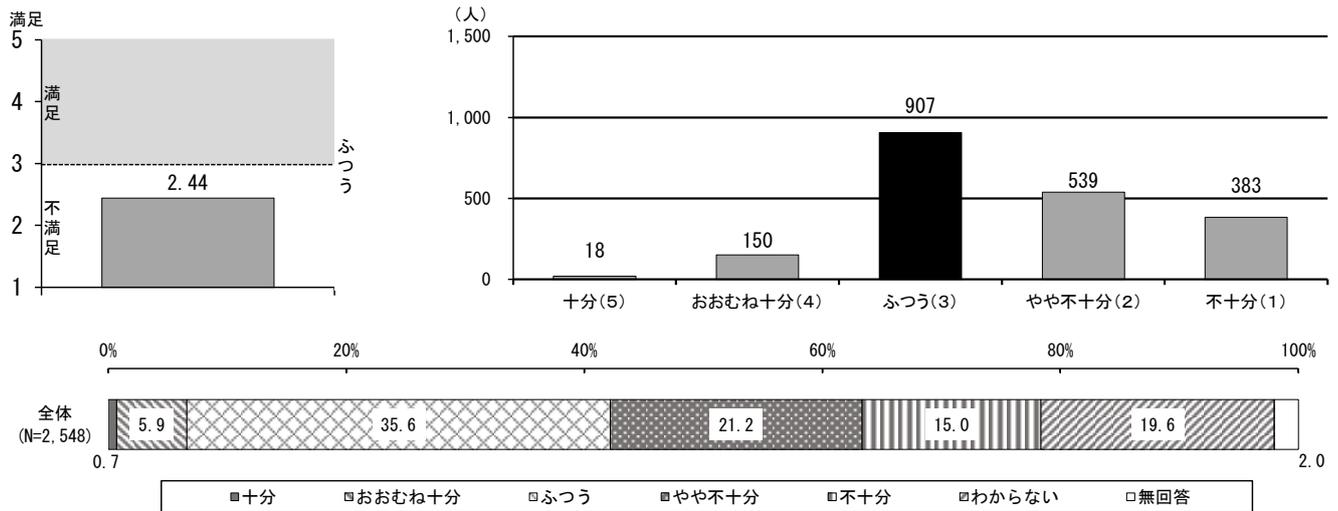
イ 心の健康づくりと自殺予防対策

問 1-24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

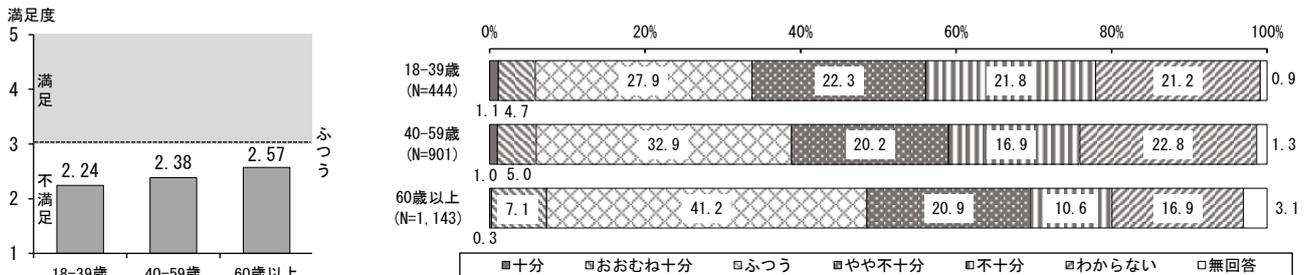
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.44で、「ふつう」の3より0.56低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.6%、「ふつう」は35.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は42.2%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.57で最も高く、不満を感じていない人の割合は48.6%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.24で最も低く、不満を感じていない人の割合は33.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した922人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、206人(22.3%)から回答があった。

回答の一部

- 心の病気が恥ずかしいものと思われるような風土がある。病院の手前で気軽に相談できる環境について、もっと周知するべき。(男性/40歳代/北秋田地域)
- 本当に自殺を考えている人は誰かに相談なんてしません。その考えに行きつく前の段階で気づき、手を差し伸べる努力をしてほしい。(女性/10歳代/山本地域)
- 相談にたどりつけない人をどう見つけるのか。働き盛りの人の相談しやすい環境ができていない。(女性/30歳代/秋田地域)

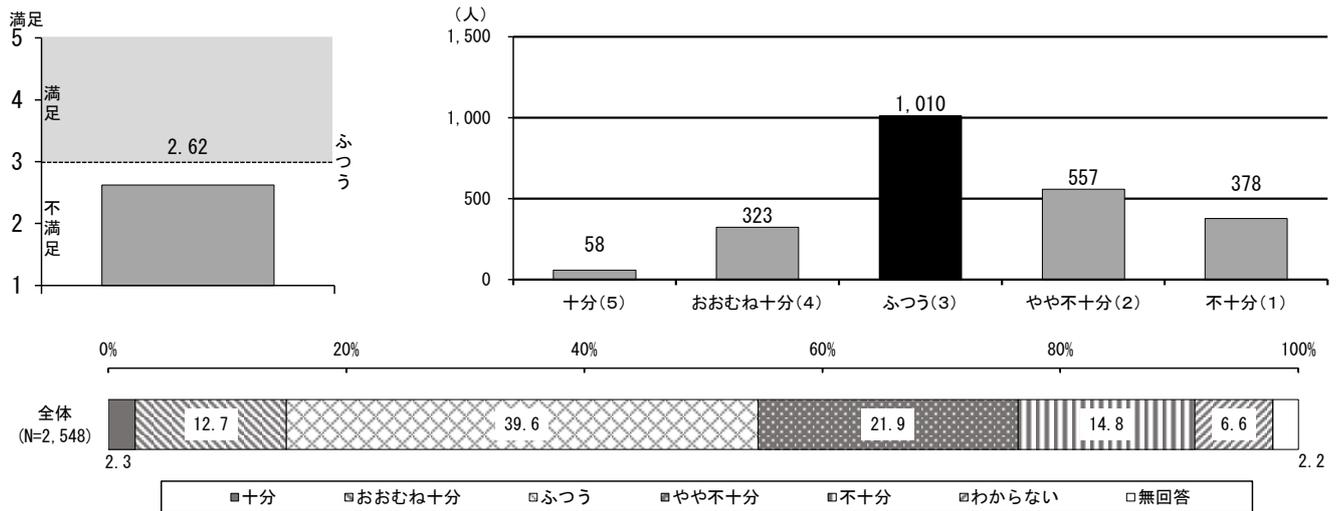
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

問 1-25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

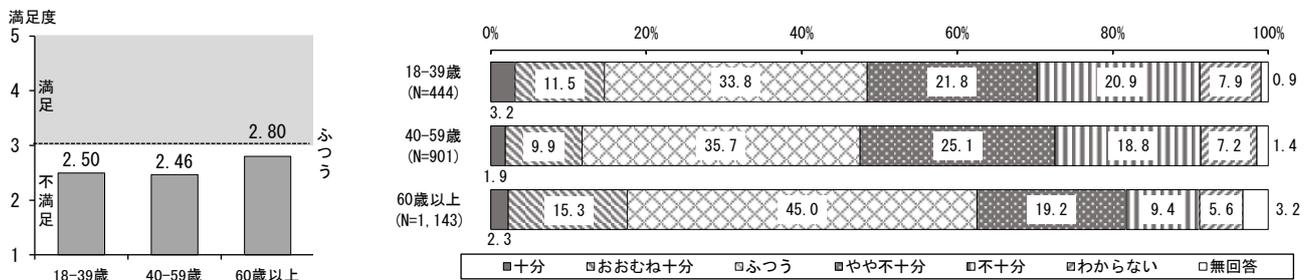
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は39.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.7%であった。また、不満を感じていない人の割合は54.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.80で最も高く、不満を感じていない人の割合は62.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.46で最も低く、不満を感じていない人の割合は47.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した935人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、238人(25.5%)から回答があった。

回答の一部

- 地域格差を感じる。医療サービスを受けることが困難な地域もあると思う。(男性/40歳代/由利地域)
- 救急搬送の際、病院まで30分以上かかる集落がかなり多い。街中よりもそういった集落に高齢者が多いので、病院が遠い地域で緊急時にもっと安心できる体制を検討していただきたい。(男性/40歳代/由利地域)
- 町村では病院や診療所が少なく、医師が不足していると思われる。遠隔医療などに本格的に力を入れるべきだと思う。(男性/20歳代/秋田地域)

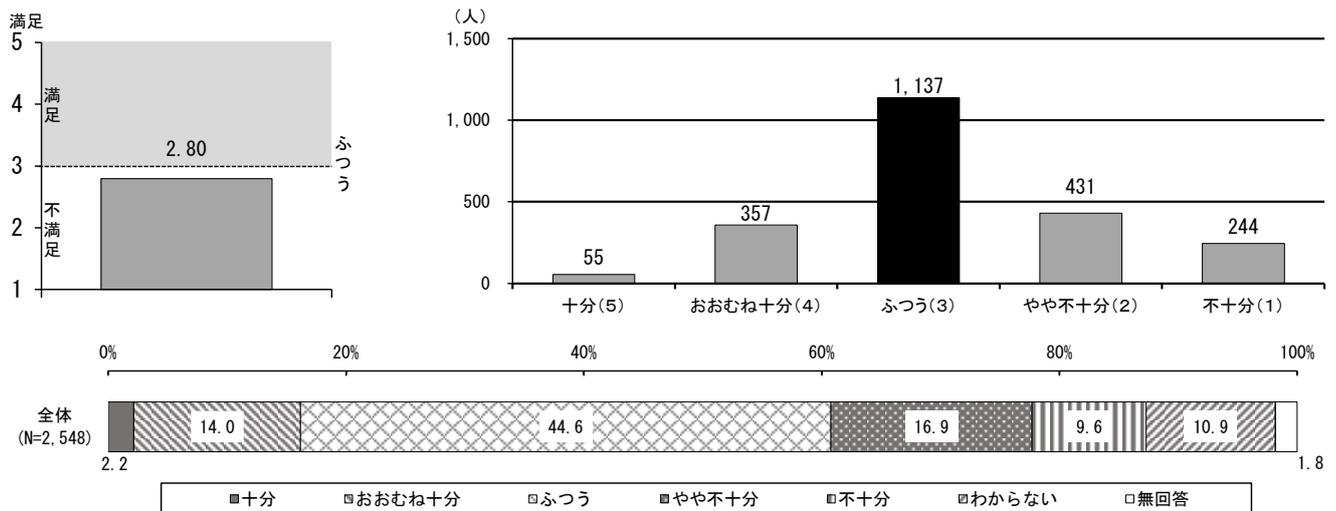
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

問 1-26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

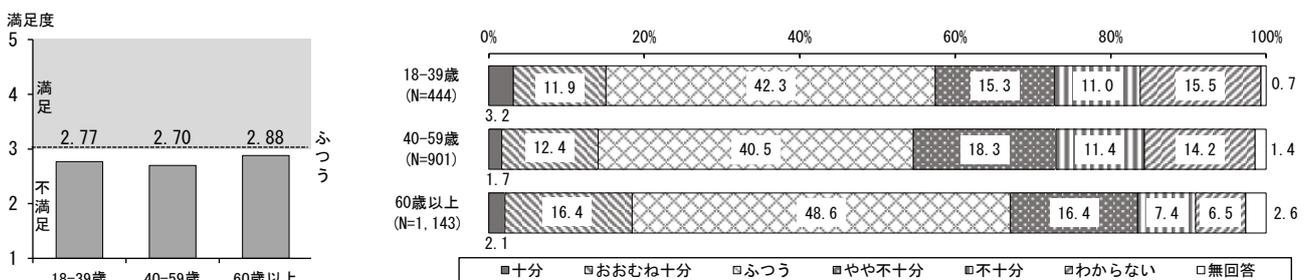
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.80で、「ふつう」の3より0.20低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.2%、「ふつう」は44.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は26.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は60.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.88で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.70で最も低く、不満を感じていない人の割合は54.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した675人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、152人(22.5%)から回答があった。

回答の一部

- 介護職員不足がある。今、特養では自立支援介護というものに取り組んでおり、特養に入所した方を歩けるようにしたり、認知症状を改善させたりしている。そういう取組を行っている施設があることをもっと発信して、介護という大変だ、排泄介助ばかりというイメージの脱却を図れるようにしてほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- 介護福祉サービスの従事者は明らかに足りていない。福祉職に就きたいと思わせる施策が必要。秋田県の福祉職は全国と比較しても収入が低い。(男性/30歳代/秋田地域)
- 障害者に対応したサービス提供が少なく受けたいサービスが十分に受けられない。(女性/30歳代/仙北地域)

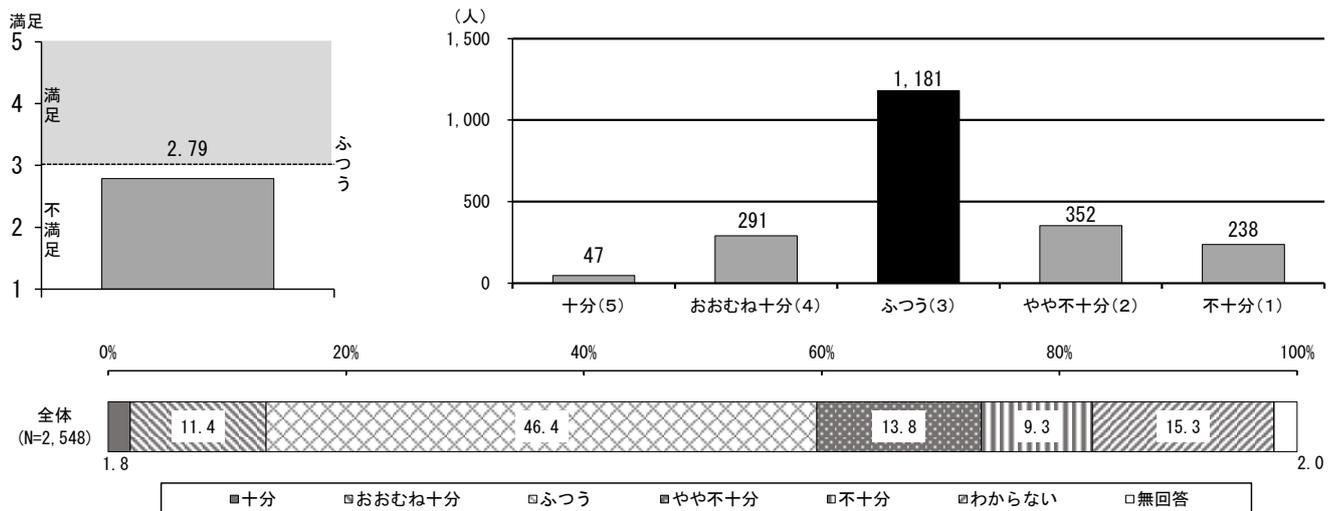
オ 次代を担う子どもの育成

問 1-27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

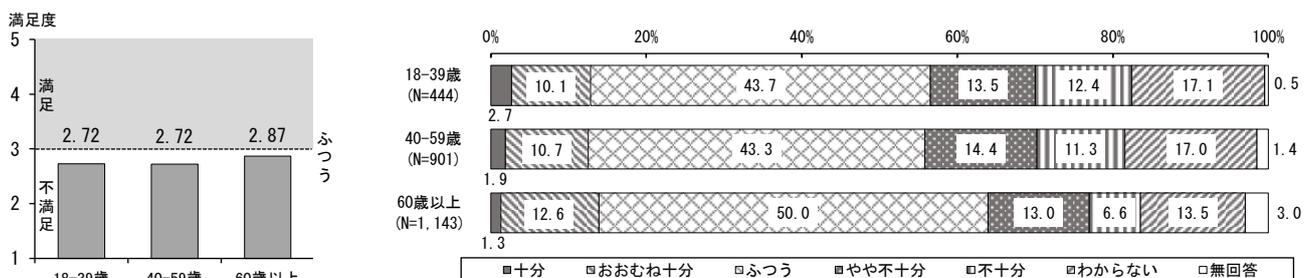
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.79で、「ふつう」の3より0.21低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.2%、「ふつう」は46.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は23.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は59.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.87で最も高く、不満を感じていない人の割合は63.9%であった。一方、「18～39歳」と「40～59歳」の満足度はともに2.72で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ56.5%、55.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した590人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、103人(17.5%)から回答があった。

回答の一部

- お金がない家の子どもや虐待、ヤングケアラーの子どもたちをもっと支援して救ってほしい。(女性/20歳代/秋田地域)
- 里親制度に対する意識が低い。少子化に対してもっと関心を持つ必要がある。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 医療ニーズの高い子どもへの保育サービスが不十分。健常児同様に保育を受けられるようになり、地域で子どもを育てていける県になってほしい。(女性/30歳代/仙北地域)

(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

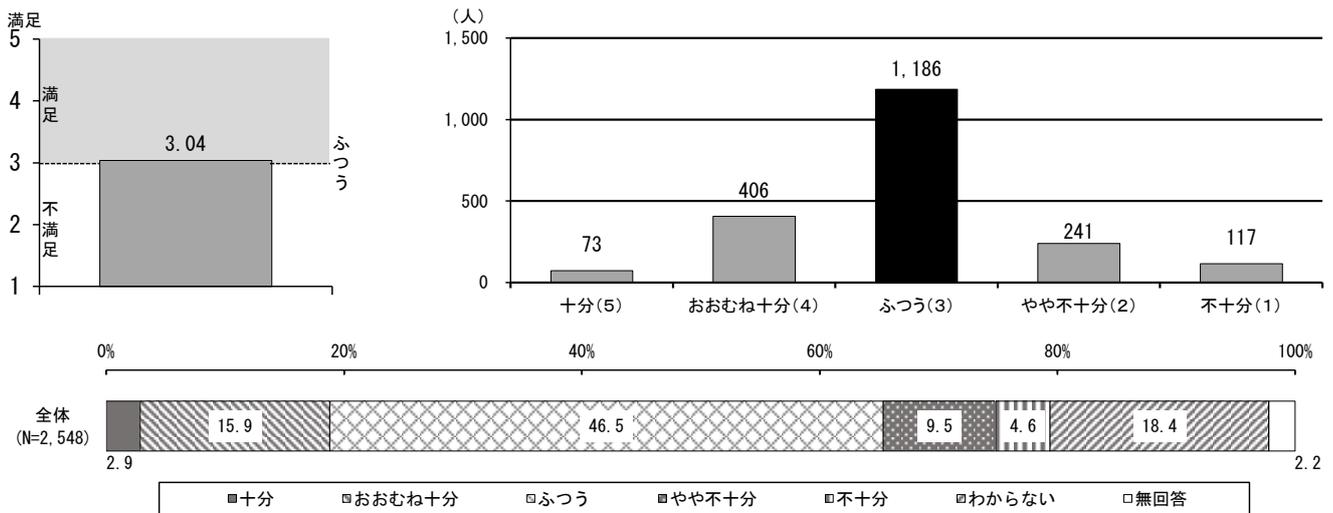
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

問 1-28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

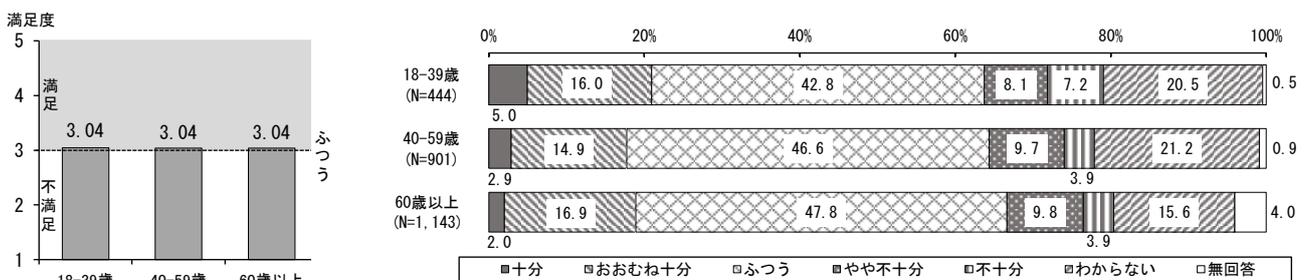
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.04で、「ふつう」の3より0.04高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.8%、「ふつう」は46.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は65.3%であった。



年代別では、全年代において満足度は3.04で、不満を感じていない人の割合は「18～39歳」が63.8%、「40～59歳」が64.4%、「60歳以上」が66.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した358人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、70人(19.6%)から回答があった。

回答の一部

- 地域の伝統や秋田らしさを学ぶ機会をもっと増やしてほしい。(男性/60歳代/秋田地域)
- 高校教育の場は重要だと思う。特に、農業高校や工業高校など学んだことを将来地元で生かせるように導いてほしい。(女性/60歳代/仙北地域)
- 県外から見た秋田県が魅力的というのを耳にしたり、秋田県の名物を楽しんでいる方が一定数おり、そういう方の意見をSNSなどで収集し、取組に生かせるように検討してみても良いと思う。(男性/20歳代/秋田地域)

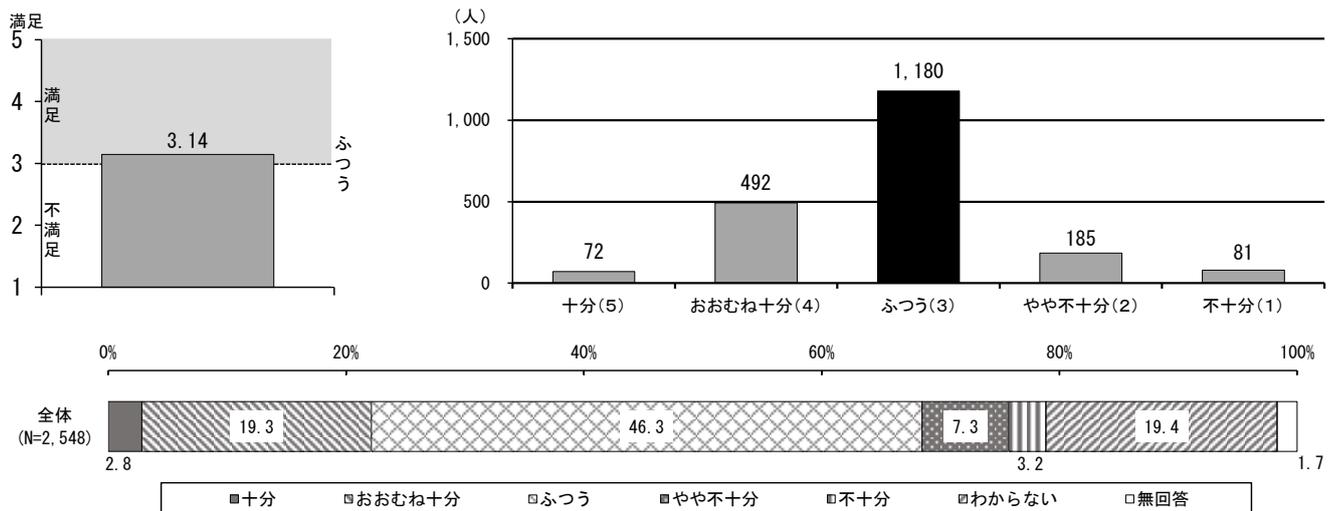
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

問 1-29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

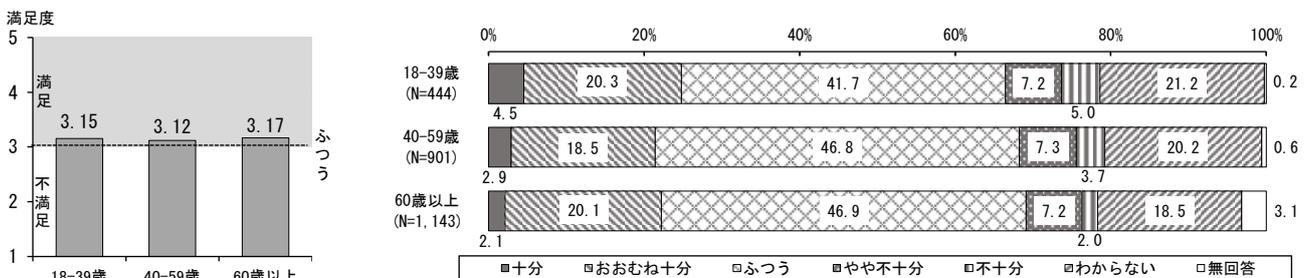
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.14で、「ふつう」の3より0.14高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は22.1%、「ふつう」は46.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.4%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は3.17で最も高く、不満を感じていない人の割合は69.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.12で最も低く、不満を感じていない人の割合は68.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した266人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、37人(13.9%)から回答があった。

回答の一部

- 学ぶことの意味、それを伝えられるような学校教育であってほしい。(女性/70歳以上/秋田地域)
- 「意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力」は別に、学校教育に限って育まれるものではないのでは。もっと多様性を持って育む必要があるように思う。(男性/50歳代/秋田地域)
- 今の子どもたちは、自ら判断・行動というのは、かなり限られた状況でしか発揮しないような気がしています。(男性/30歳代/山本地域)

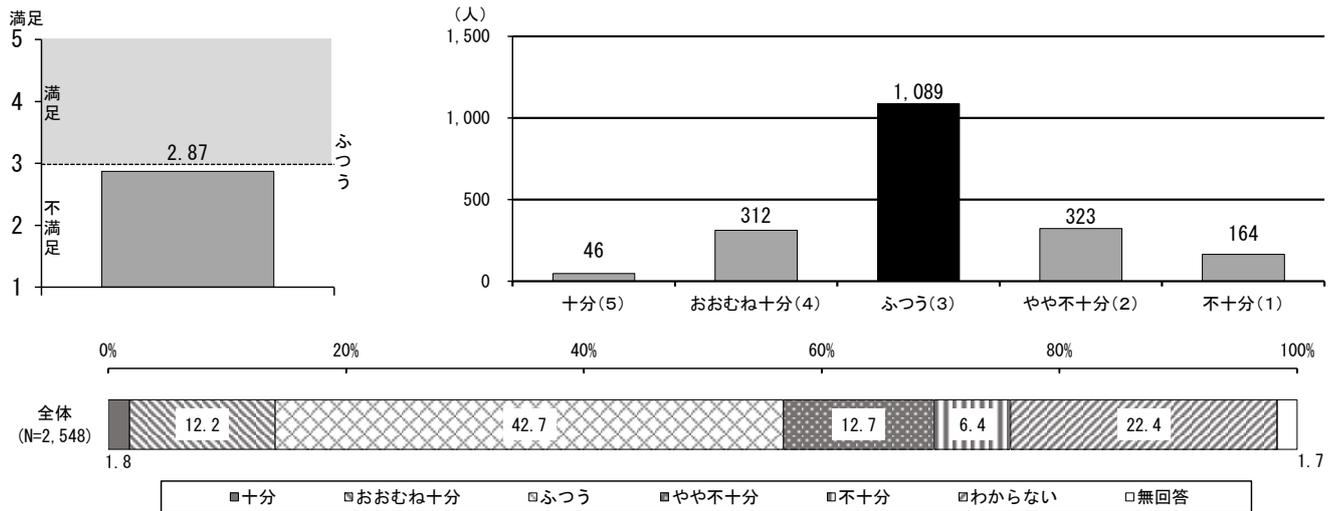
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成

問 1-30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

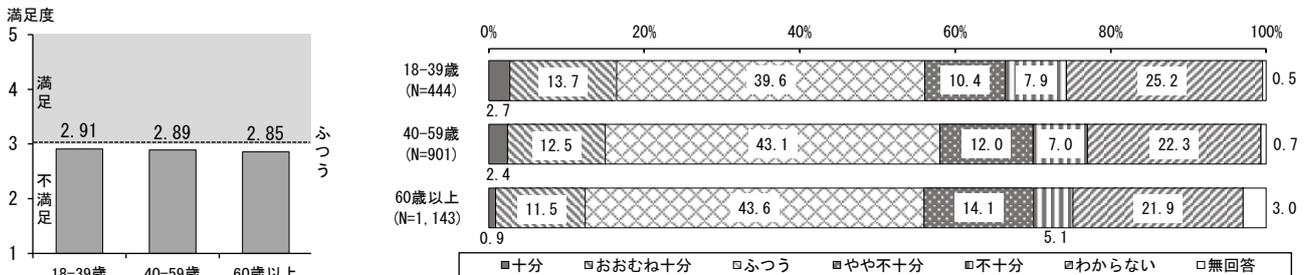
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.87で、「ふつう」の3より0.13低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.0%、「ふつう」は42.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は56.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.91で最も高く、不満を感じていない人の割合は56.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.85で最も低く、不満を感じていない人の割合は56.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した487人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、61人(12.5%)から回答があった。

回答の一部

- 実践的に使えるような対策が取り組まれていると思う。(女性/20歳代/仙北地域)
- 英語教育だけでなく、外国人と話せる授業を増やし、楽しさを教えてほしい。(男性/70歳以上/秋田地域)
- まだまだこれから。でも過剰に英語学習を押しつけないでほしい。ちゃんと日本語教育を徹底してから英語学習をしてほしい。(男性/20歳代/秋田地域)

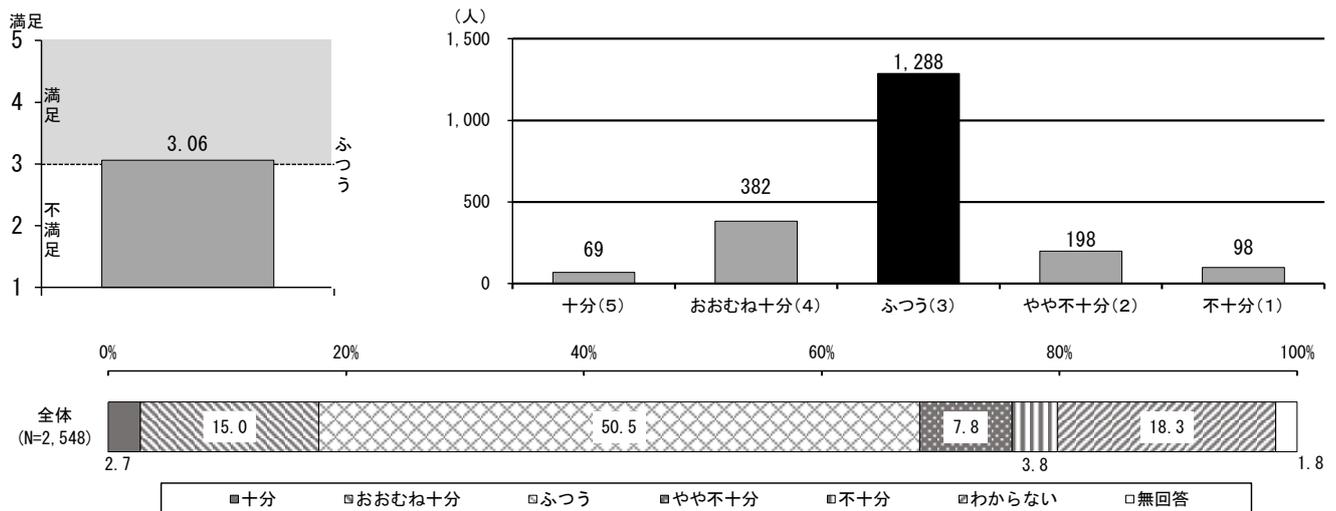
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成

問 1-31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

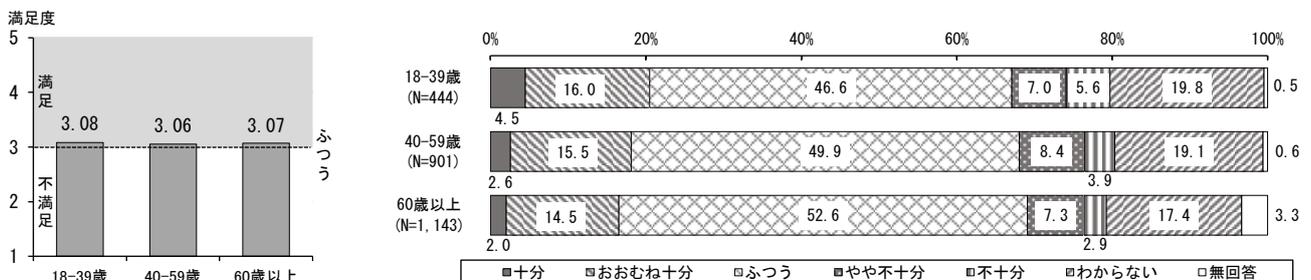
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.7%、「ふつう」は50.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は11.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.08で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.06で最も低く、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した296人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、46人(15.5%)から回答があった。

回答の一部

- 他人への思いやりが育まれていないから、いじめ等が減っていないんだと思う。健やかな体は育まれていると思う。(男性/20歳代/秋田地域)
- 学校教育だけで思いやりを育てることは不可能であり、家庭との連携を取りつつ育むしか方法はないと思う。家庭環境を考慮した上で、教師がどう関わるかが一番重要な課題だと思う。教師をサポートする体制の整備を急ぐべきと考える。(女性/60歳代/秋田地域)
- いじめ問題が減少できていない。また、障害を抱えた生徒やマイノリティーとの交流等により、知識だけではなく、体験的な教育が必要と感じる。(女性/50歳代/由利地域)

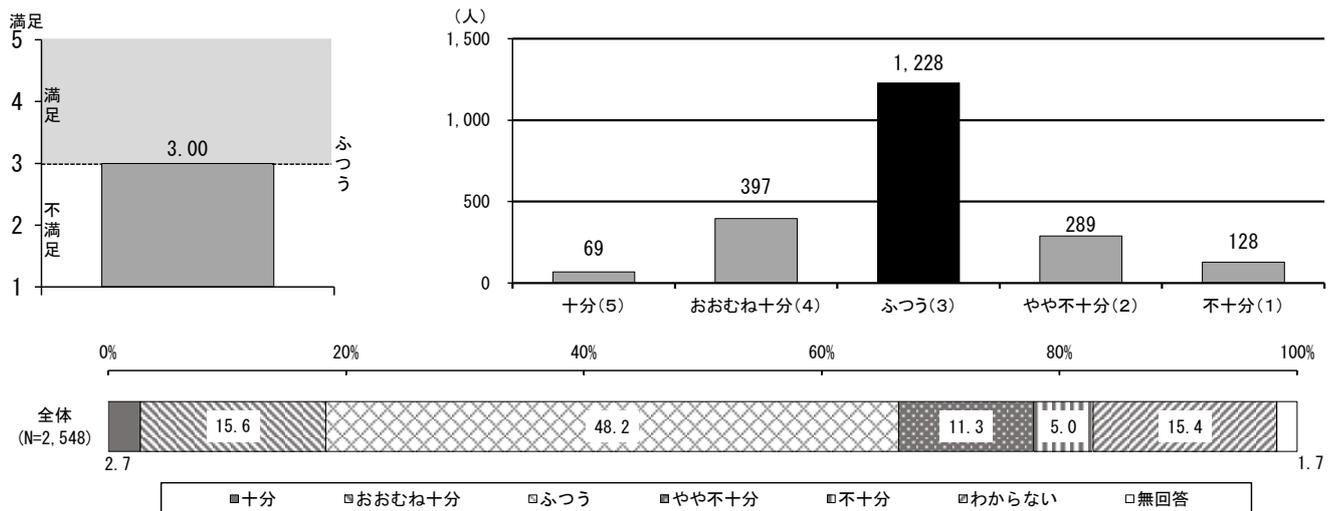
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

問 1-32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

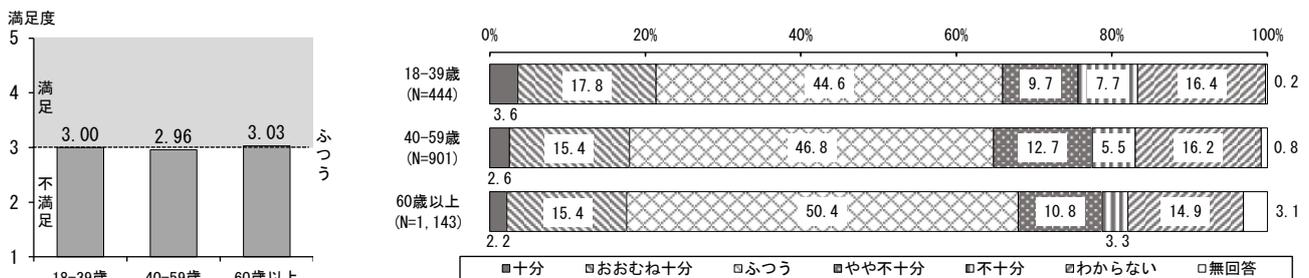
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3と同じであった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.3%、「ふつう」は48.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は66.5%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は3.03で最も高く、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.96で最も低く、不満を感じていない人の割合は64.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した417人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、70人(16.8%)から回答があった。

回答の一部

- 学校・地域それぞれの組織づくりは進んでいると思うが、保護者・家庭との結びつきが弱い。(男性/40歳代/由利地域)
- そもそも子どもがいない家庭では、地域にいる子どもたちを知らないことが多いと思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 地域の関係性が薄くなり、近所の子どもに声をかけることも、不審者と思われればと遠慮してしまう状況なので、できていないと判断。(女性/50歳代/北秋田地域)

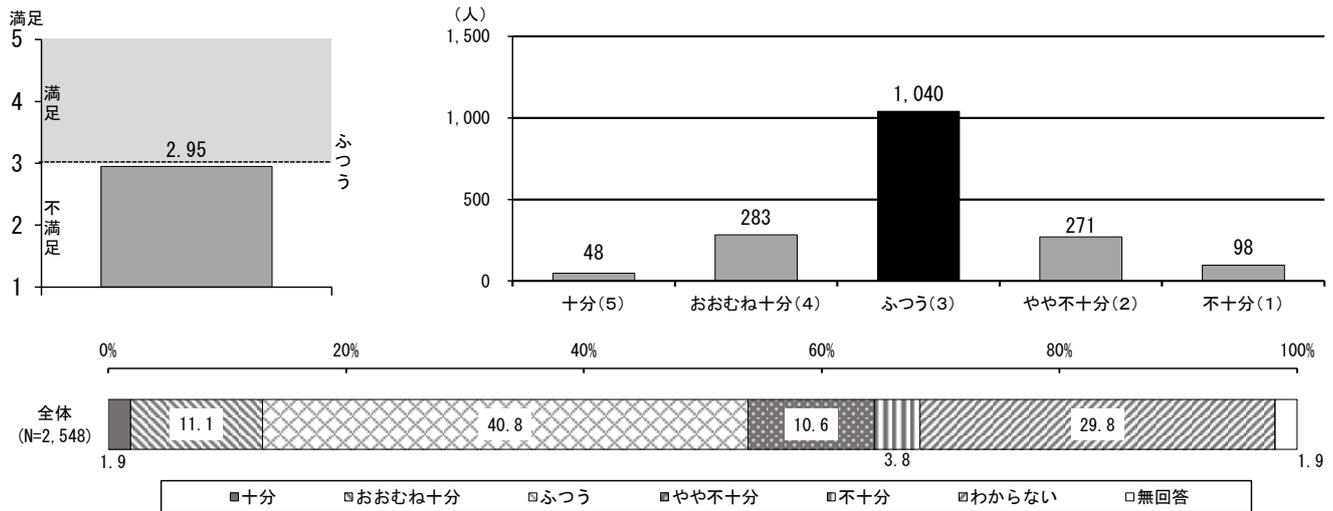
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

問 1-33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

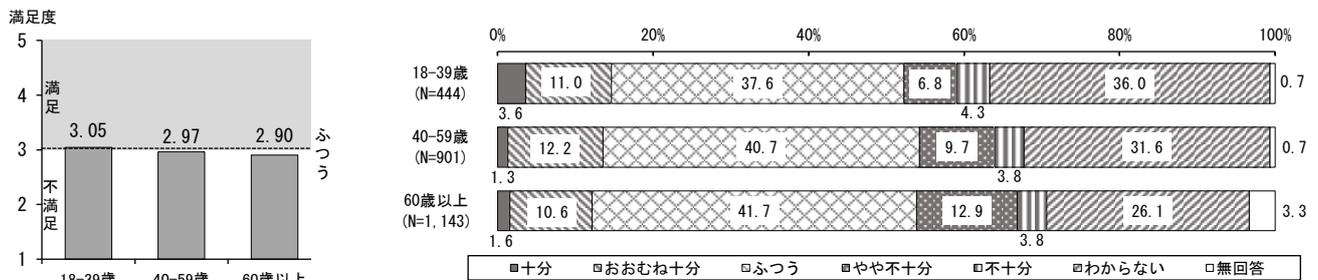
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.95で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.0%、「ふつう」は40.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.05で最も高く、不満を感じていない人の割合は52.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.90で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した369人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、50人(13.6%)から回答があった。

回答の一部

- 大学の研究成果が地域の活性化とどのようにつながっているのかが不明。アピール不足。(男性/40歳代/由利地域)
- 行われていると思いますが、なかなか知る機会がないので、分かりません。(女性/40歳代/秋田地域)
- 県外に学生が流れないような大学や学部、専門学校があれば良いのでは。(男性/50歳代/仙北地域)

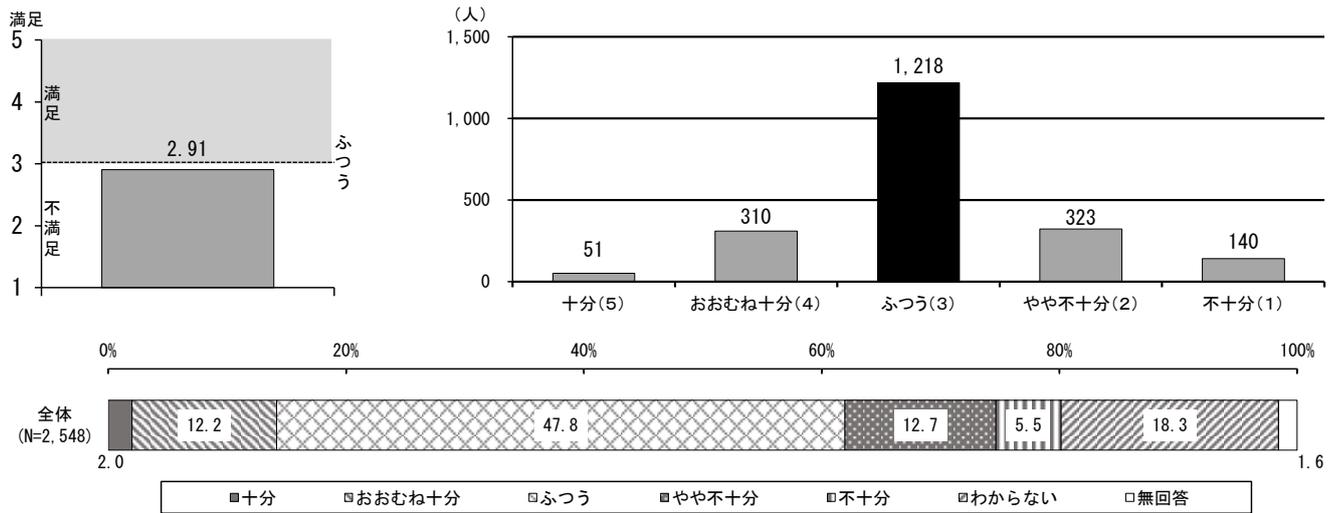
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

問 1-34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

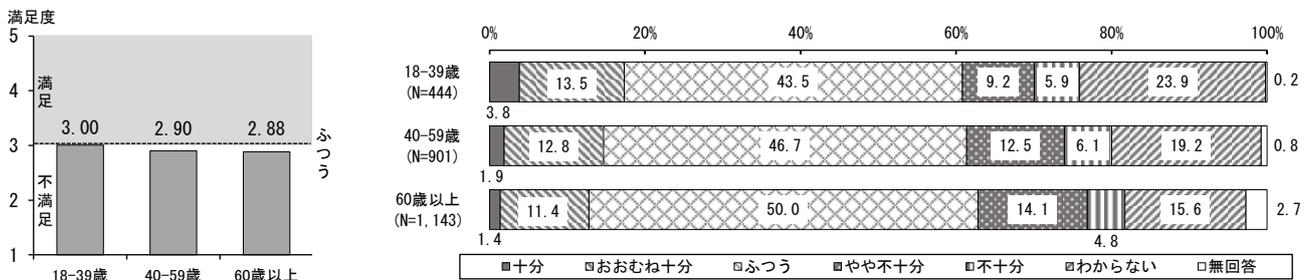
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.91で、「ふつう」の3より0.09低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は47.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は62.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.00で最も高く、不満を感じていない人の割合は60.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.88で最も低く、不満を感じていない人の割合は62.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した463人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(14.3%)から回答があった。

回答の一部

- 中学以降は勉学に力を入れる代わりに文化に触れる機会が減ったが、小学校までは多く文化に触れられていた。小さいうちから文化に触れられる活動が全県に広まると良いと思う。(女性/10歳代/仙北地域)
- コロナ感染予防から遠くに行けないため、市町村単位で芸術文化に携われるものがあれば良い。県北には美術館もない。(女性/50歳代/北秋田地域)
- ミルハスの活用と、秋田市以外でも多様な芸術文化に触れる機会が増えることを期待しています。(男性/40歳代/仙北地域)

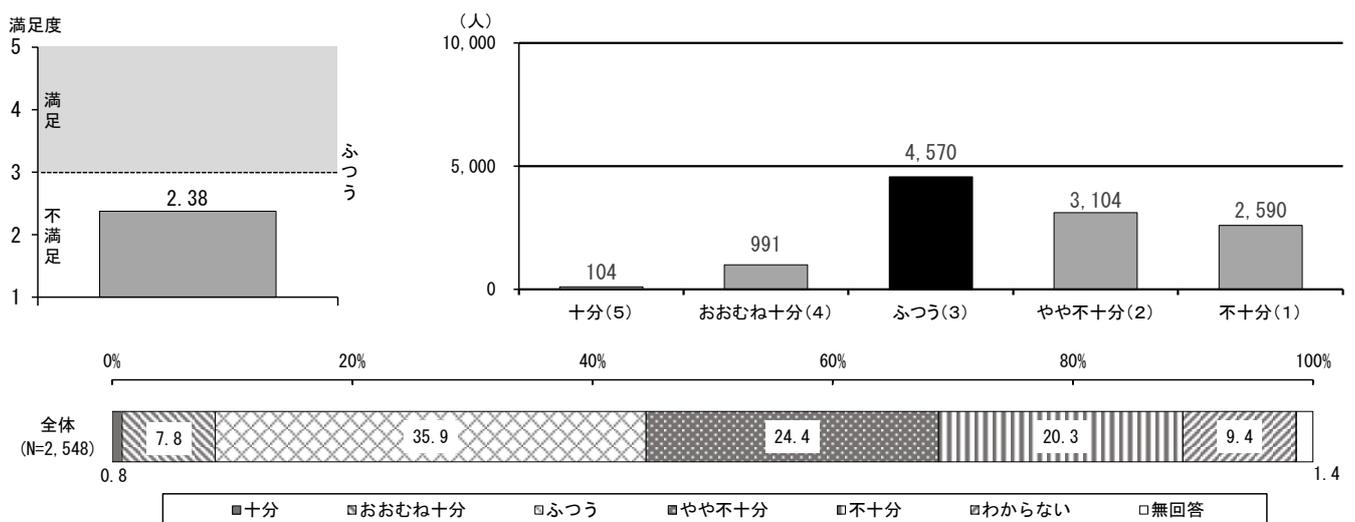
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略（問1-1～問1-5）

5段階評価の満足度の平均値は2.38で、「ふつう」の3より0.62低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

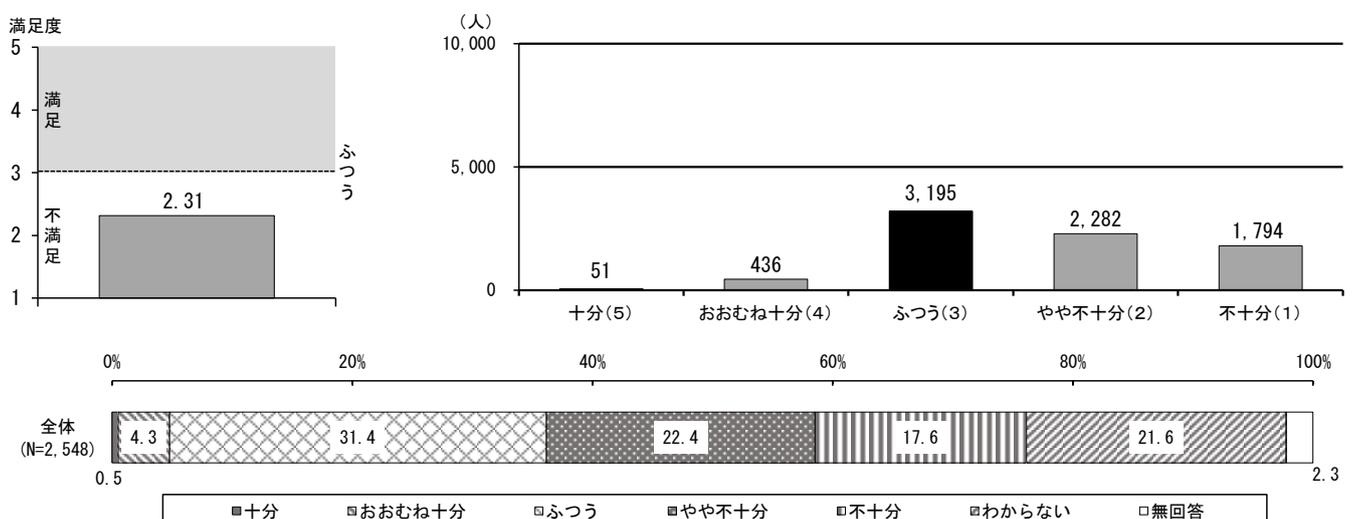
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.6%、「ふつう」は35.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.7%であった。不満を感じていない人の割合は44.5%であった。



戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問1-6～問1-9）

5段階評価の満足度の平均値は2.31で、「ふつう」の3より0.69低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

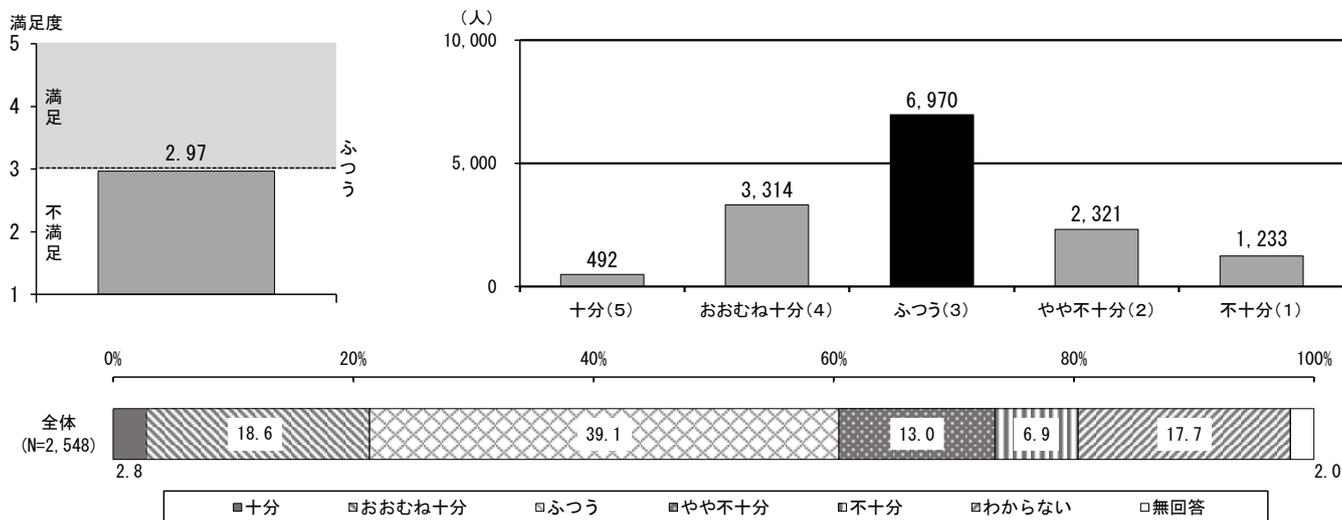
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.8%、「ふつう」は31.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.2%であった。



戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

5段階評価の満足度の平均値は2.97で、「ふつう」の3より0.03低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

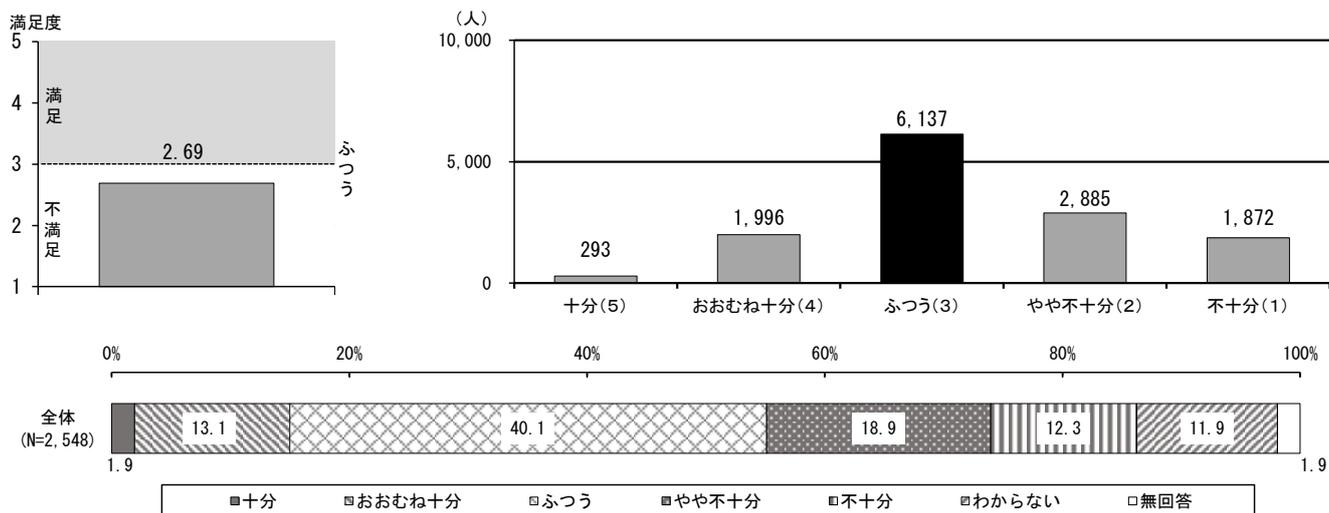
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.4%、「ふつう」は39.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は60.5%であった。



戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

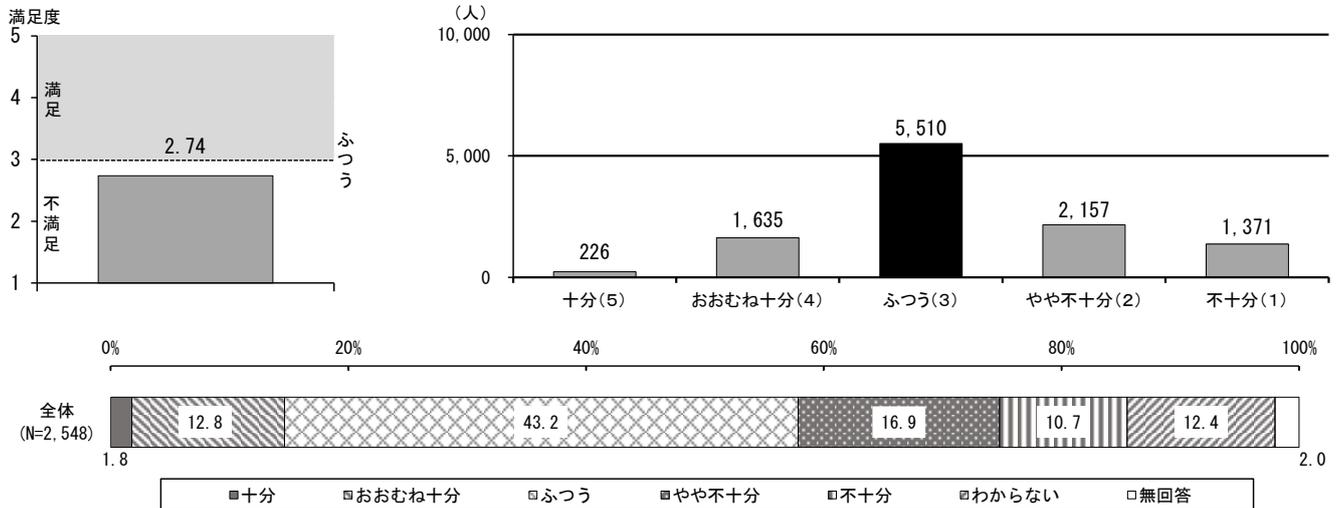
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は40.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は31.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は55.1%であった。



戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

5段階評価の満足度の平均値は2.74で、「ふつう」の3より0.26低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

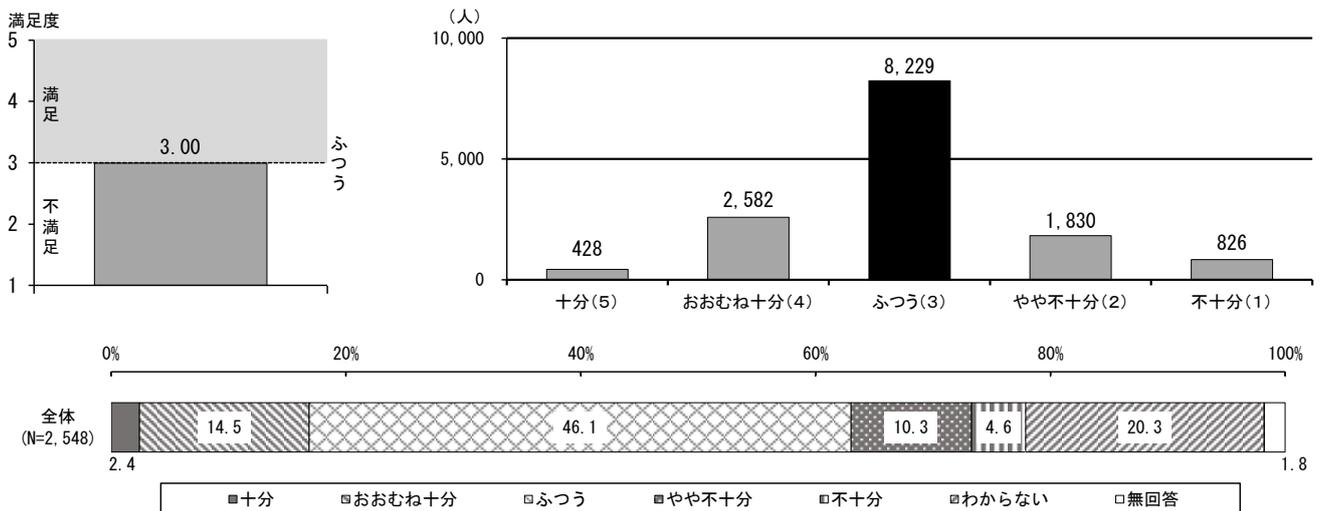
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.6%、「ふつう」は43.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は57.8%であった。



戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3と同じであった。回答は「ふつう」が最も多かった。

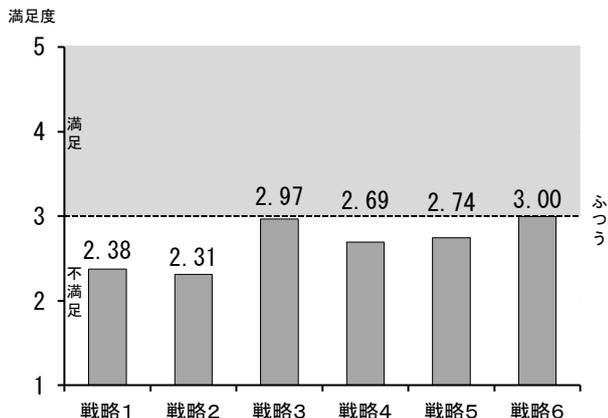
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.9%、「ふつう」は46.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は63.0%であった。



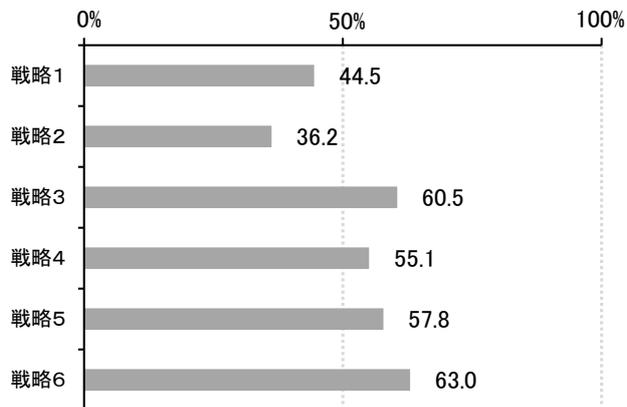
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の 3.00（不満を感じていない人の割合は 63.0%）、次いで「戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の 2.97（同 60.5%）であった。

一方、満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の 2.31（同 36.2%）であった。

〔満足度の平均〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。

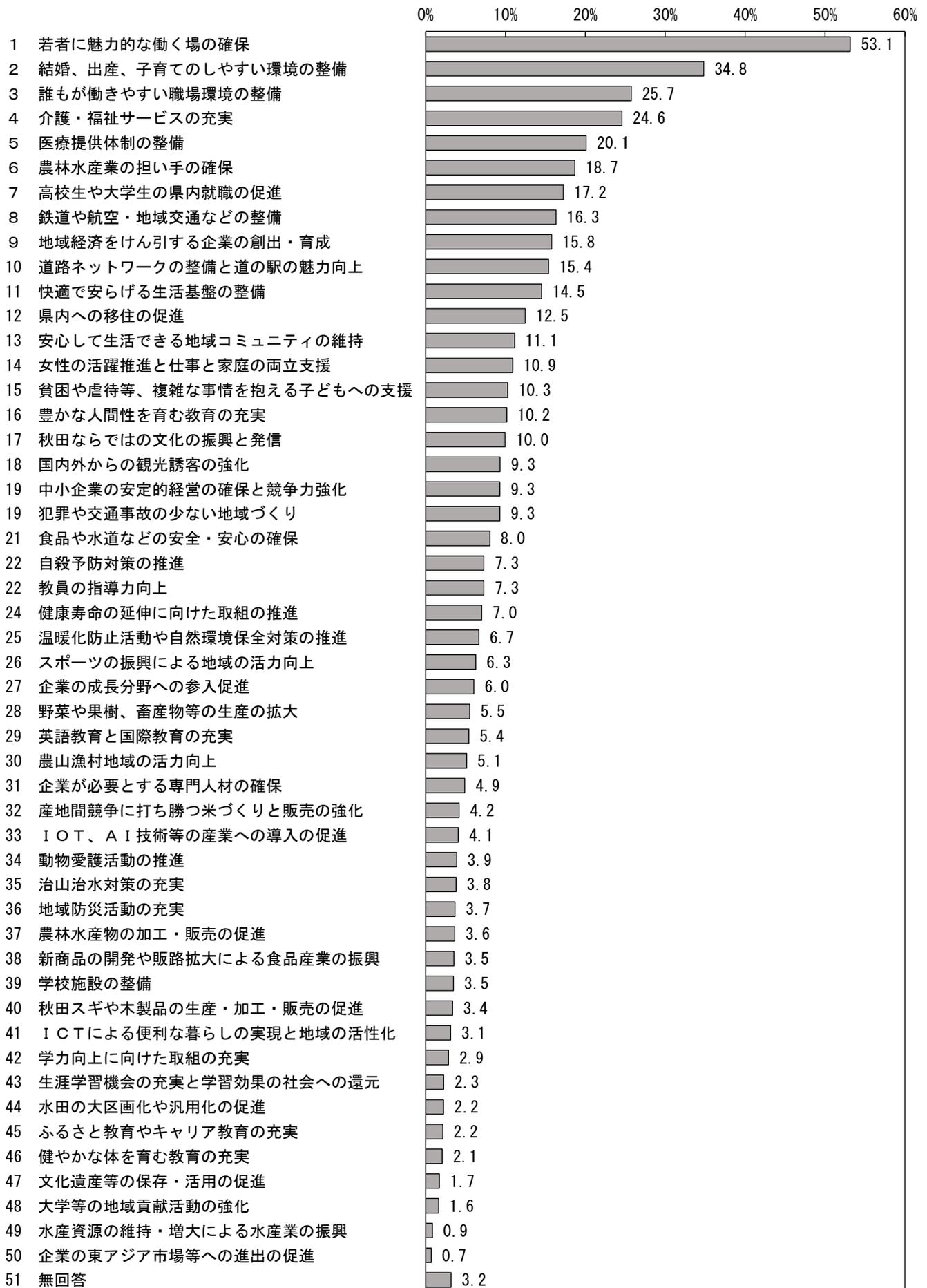
第2章 県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れてほしいこと（問2）

今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。
5つまで選択して番号を記入してください。

【全体】

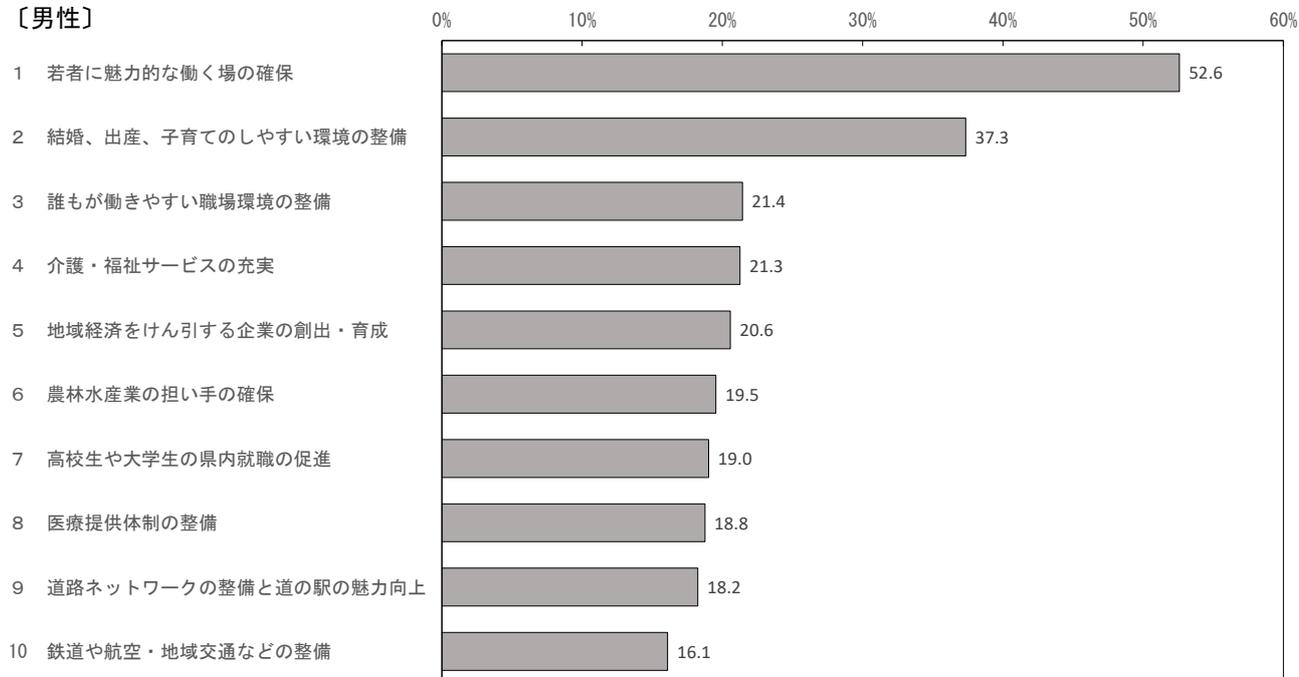
「若者に魅力的な働く場の確保」の割合が53.1%と最も高く、これに「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」の34.8%、「誰もが働きやすい職場環境の整備」の25.7%、「介護・福祉サービスの充実」の24.6%、「医療提供体制の整備」の20.1%と続いた。



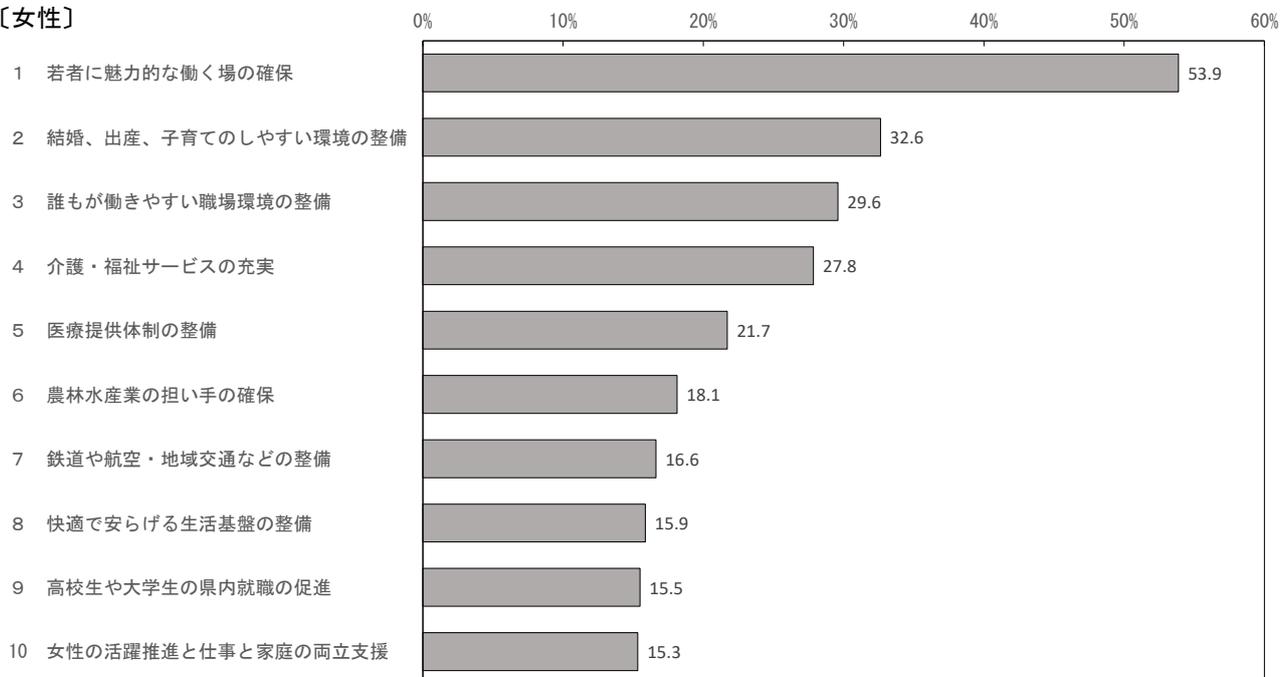
【性別】

上位 10 項目のうち 8 項目は男女で共通していた。男女で異なる項目として、男性は「地域経済をけん引する企業の創出・育成」（男性 5 位）、「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」（男性 9 位）、女性は「快適で安らげる生活基盤の整備」（女性 8 位）、「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」（女性 10 位）が上位となった。

〔男性〕



〔女性〕

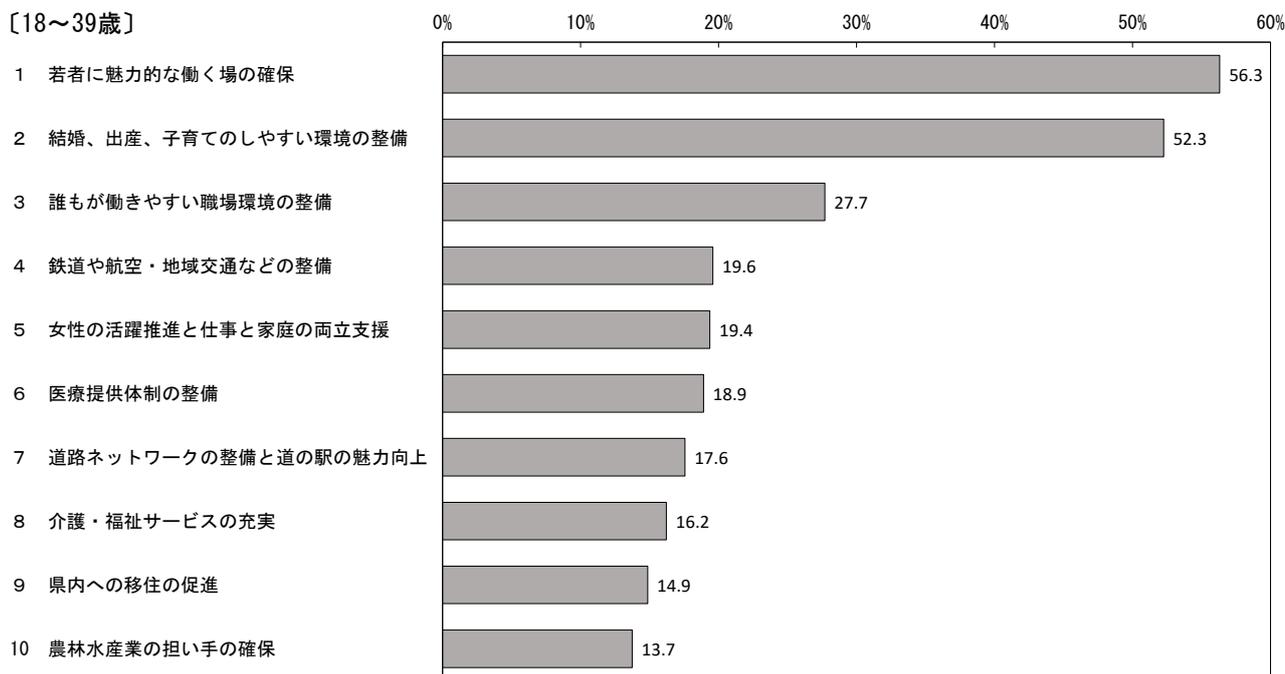


【年代別】

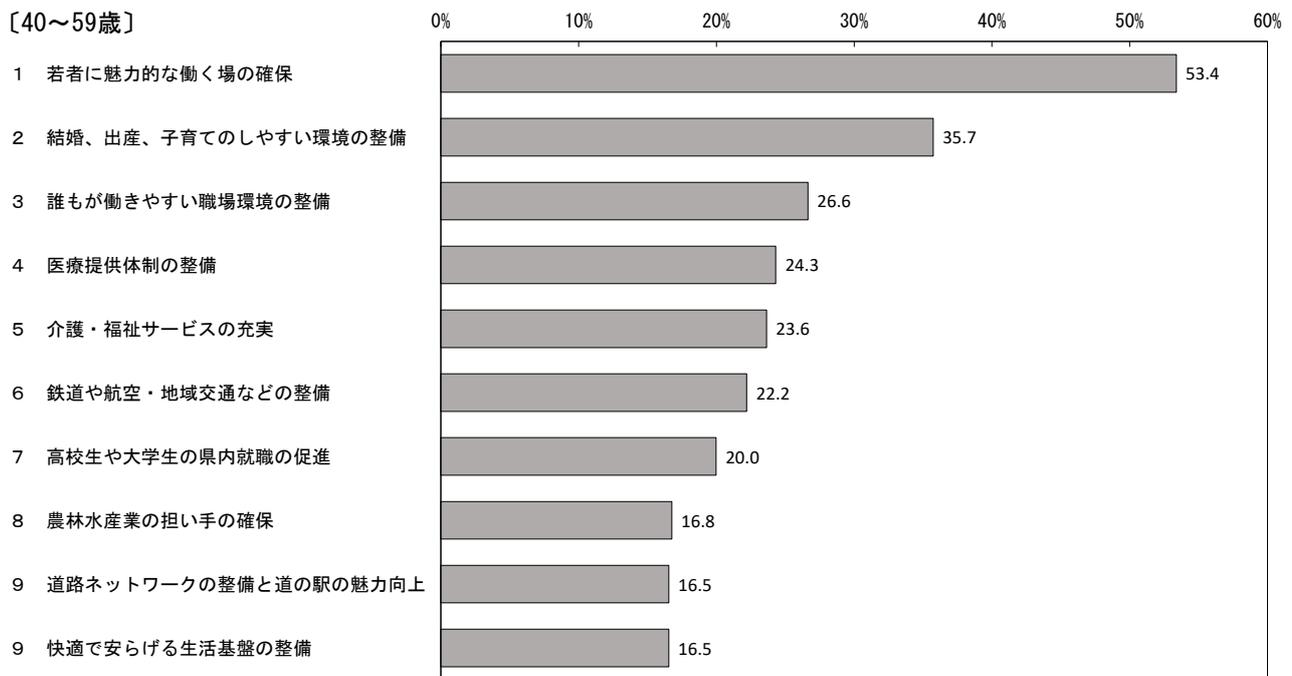
上位 10 項目のうち 6 項目は全年代で共通しており、うち「若者に魅力的な働く場の確保」が全年代で 5 割以上となりトップとなったほか、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」と「誰もが働きやすい職場環境の整備」の 2 項目は全年代で上位 4 位までに入っている。また、「介護・福祉サービスの充実」と「農林水産業の担い手の確保」の順位は、年代が上がるにつれて高くなっている。

2 つの年代で共通している項目として、18～39 歳と 40～59 歳では「鉄道や航空・地域交通などの整備」と「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」、40～59 歳と 60 歳以上では「高校生や大学生の県内就職の促進」と「快適で安らげる生活基盤の整備」が上位となっている。このほかの項目では、18～39 歳では「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」と「県内への移住の促進」、60 歳以上では「地域経済をけん引する企業の創出・育成」と「豊かな人間性を育む教育の充実」が上位となっている。

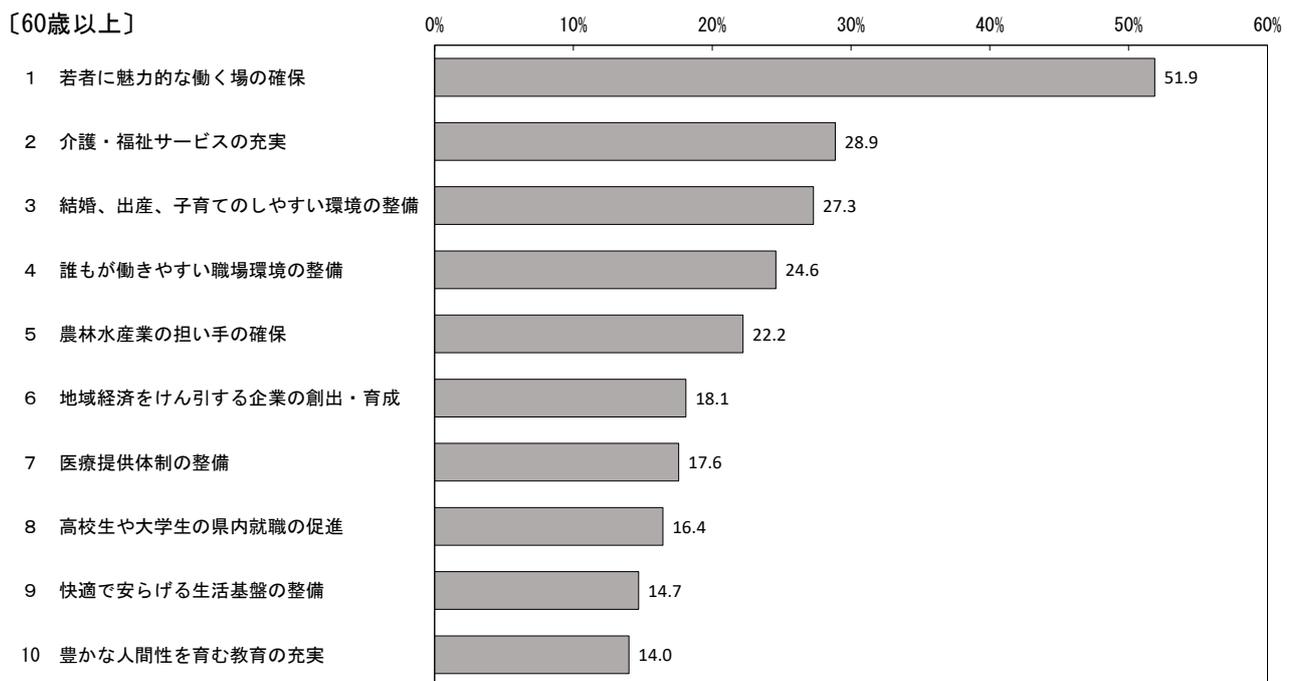
〔18～39歳〕



[40～59歳]



[60歳以上]



第3章 県の特定課題について

特定の課題に関する意識（問3）

1 県の広報活動について

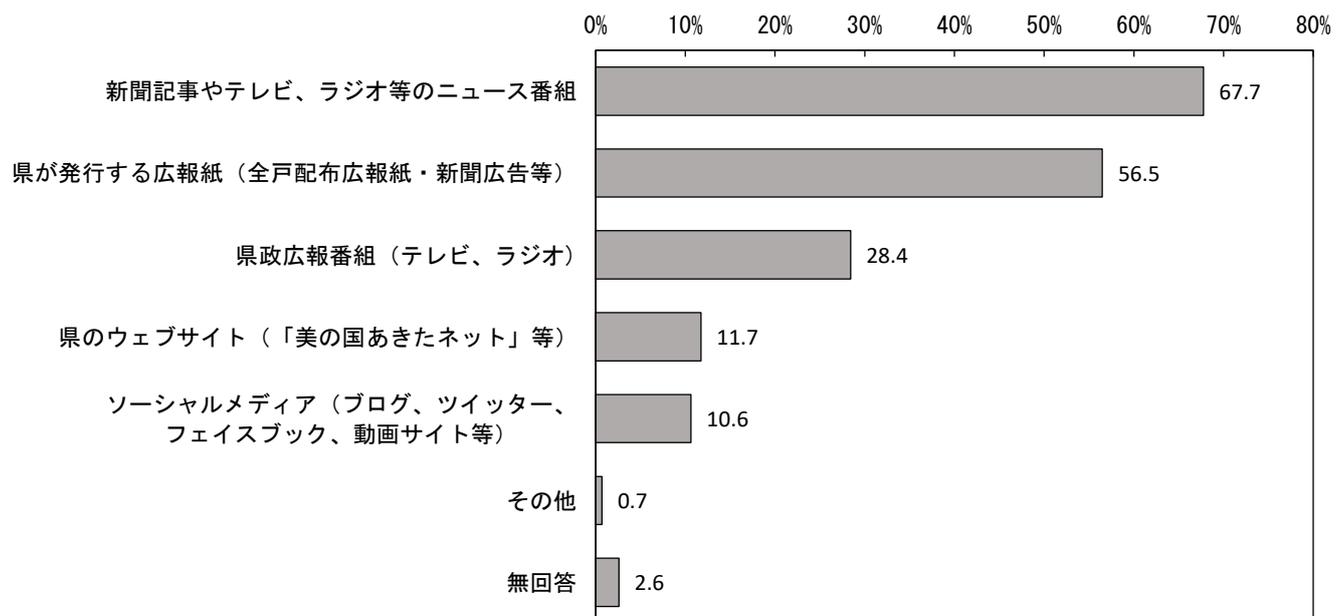
（1）県が発信する情報の取得方法

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（〇はいくつでも）。

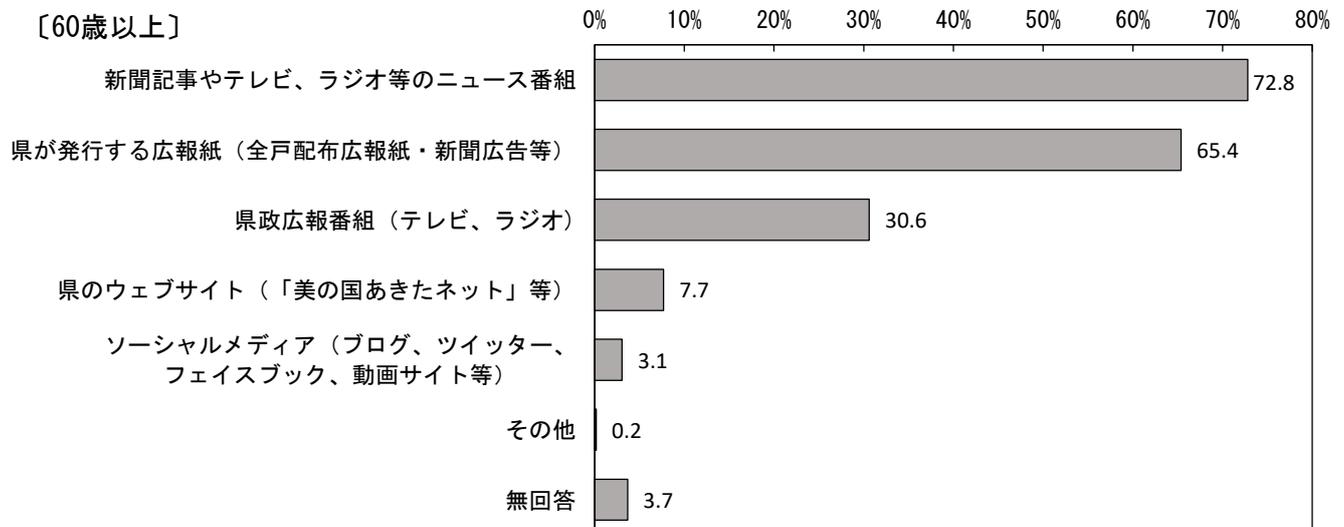
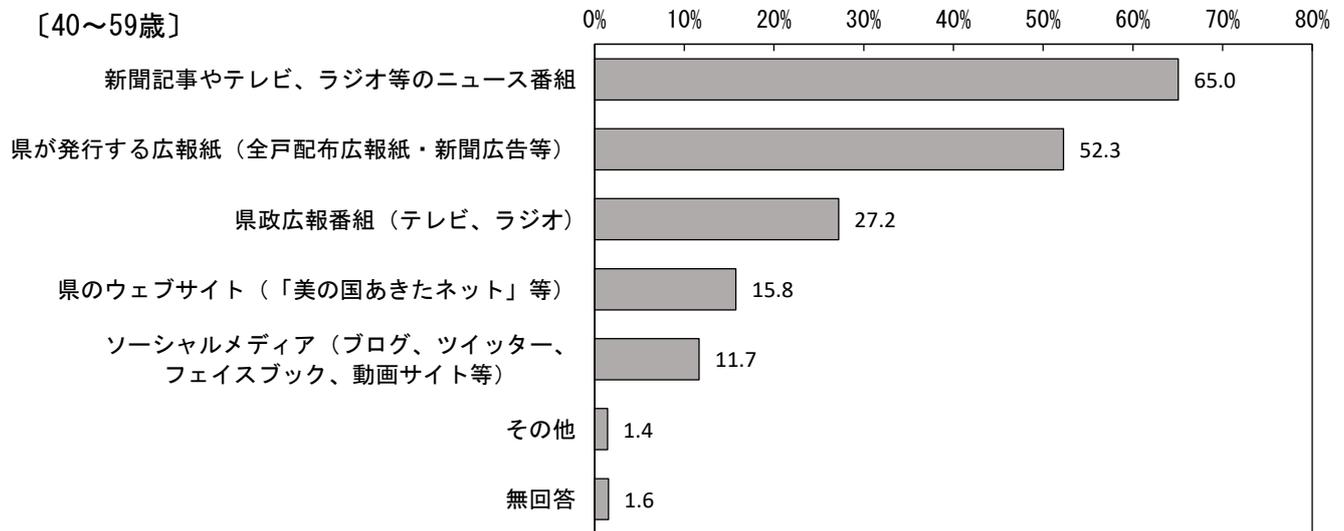
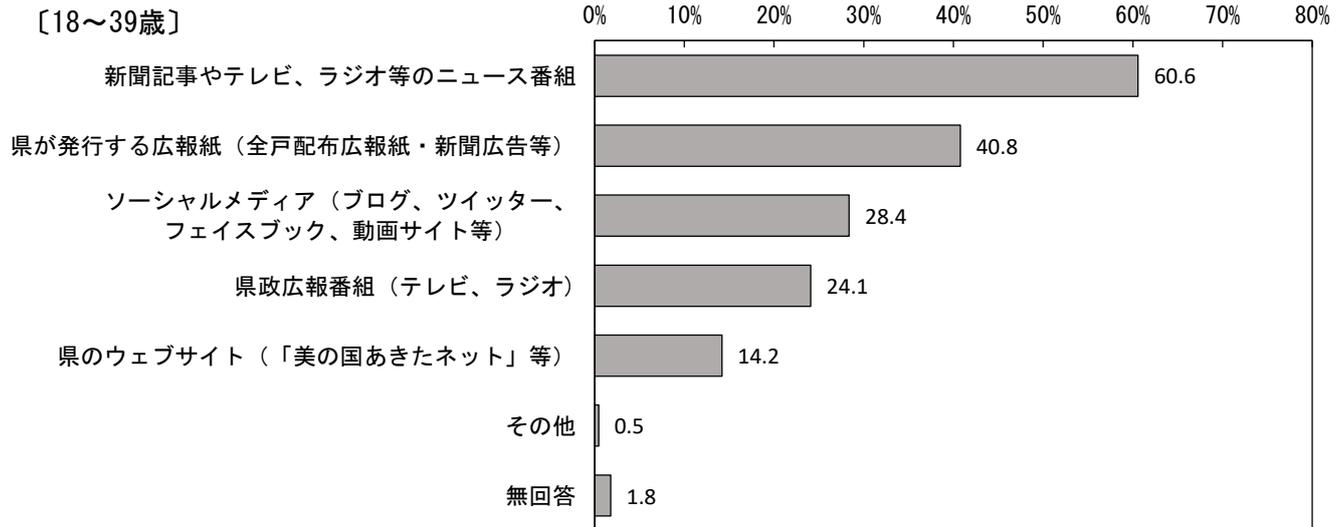
全体では、「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が67.7%と最も高く、次いで「県が発行する広報紙」の56.5%、「県政広報番組」の28.4%と続いている。

年代別では、全年代共通で「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」がトップとなり、これに「県が発行する広報紙」が続いている。また、「ソーシャルメディア」の割合は18～39歳で28.4%と高い割合であった一方、60歳以上では3.1%と低い割合となっている。

【全体】



【年代別】



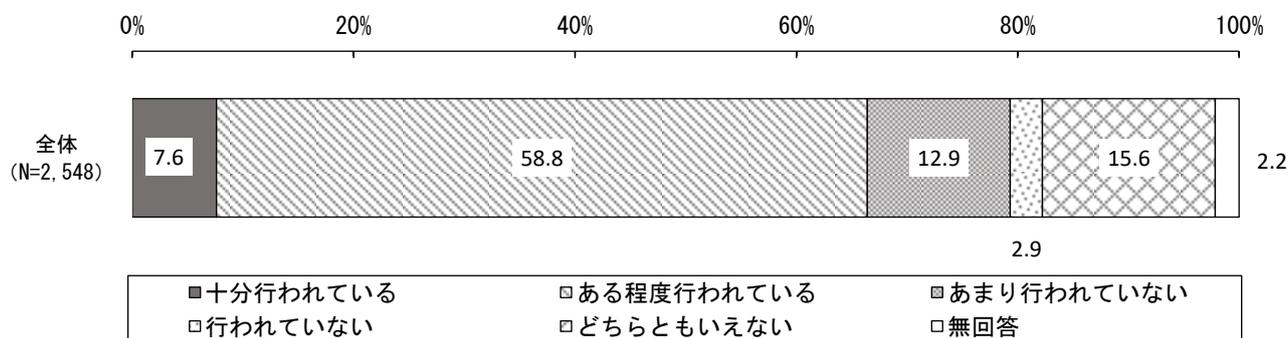
(2) 広報活動の現状評価

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は1つ）。

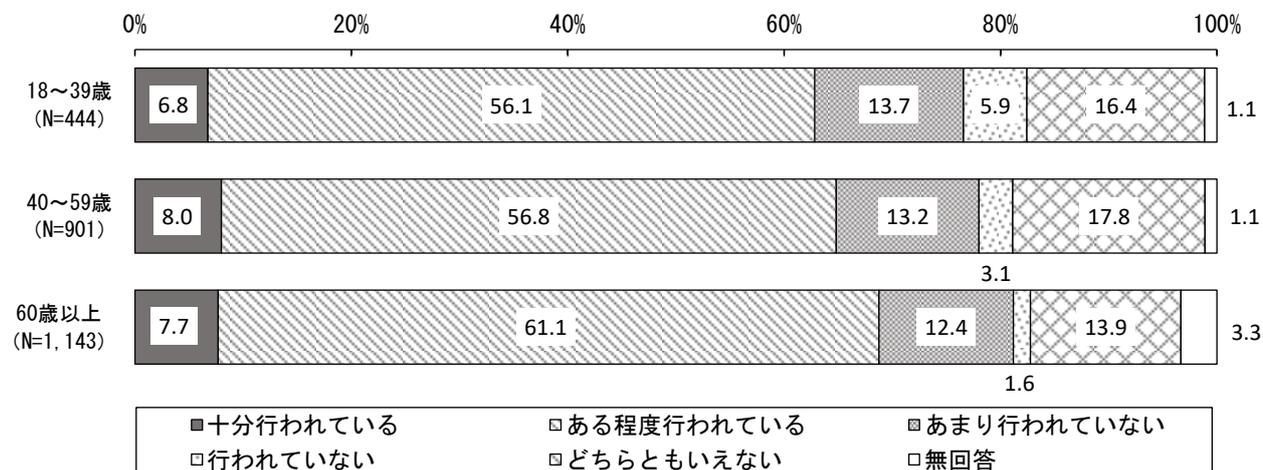
全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は 66.4%で、「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合の 15.8%よりも高い。

年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は、60歳以上の68.8%が最も高い。「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合は、18～39歳の19.6%が最も高い。

【全体】



【年代別】



2 家庭での防災活動について

(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況

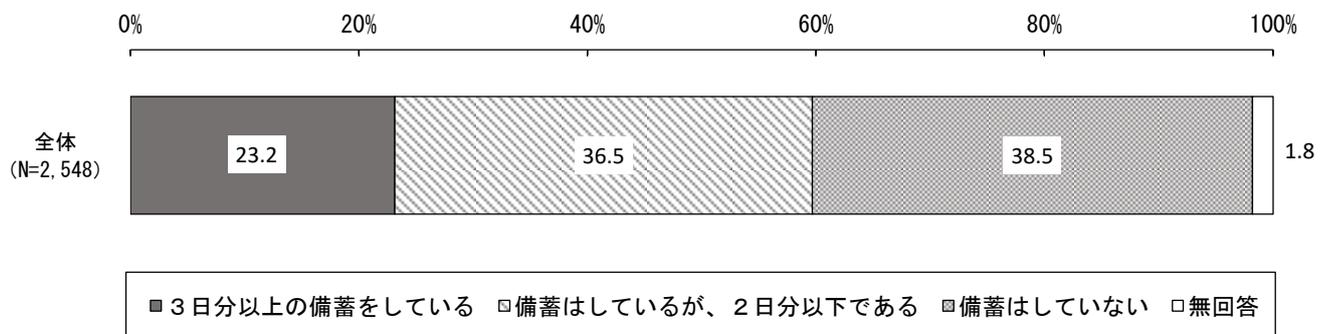
① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家庭人数×3日分）をしていますか（〇は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含まれます。

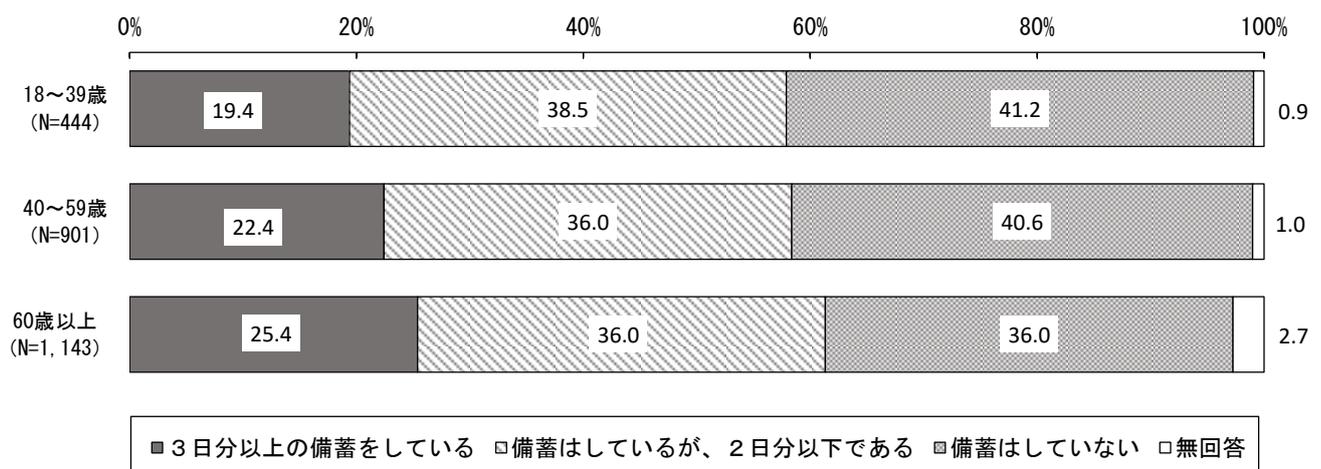
全体では、「3日以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」を合わせた割合は59.7%で、「備蓄はしていない」の割合38.5%よりも高い。

年代別では、「3日以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」を合わせた割合は、60歳以上が61.4%と最も高い。一方、「備蓄はしていない」の割合は、18～39歳が41.2%と最も高い。

【全体】



【年代別】



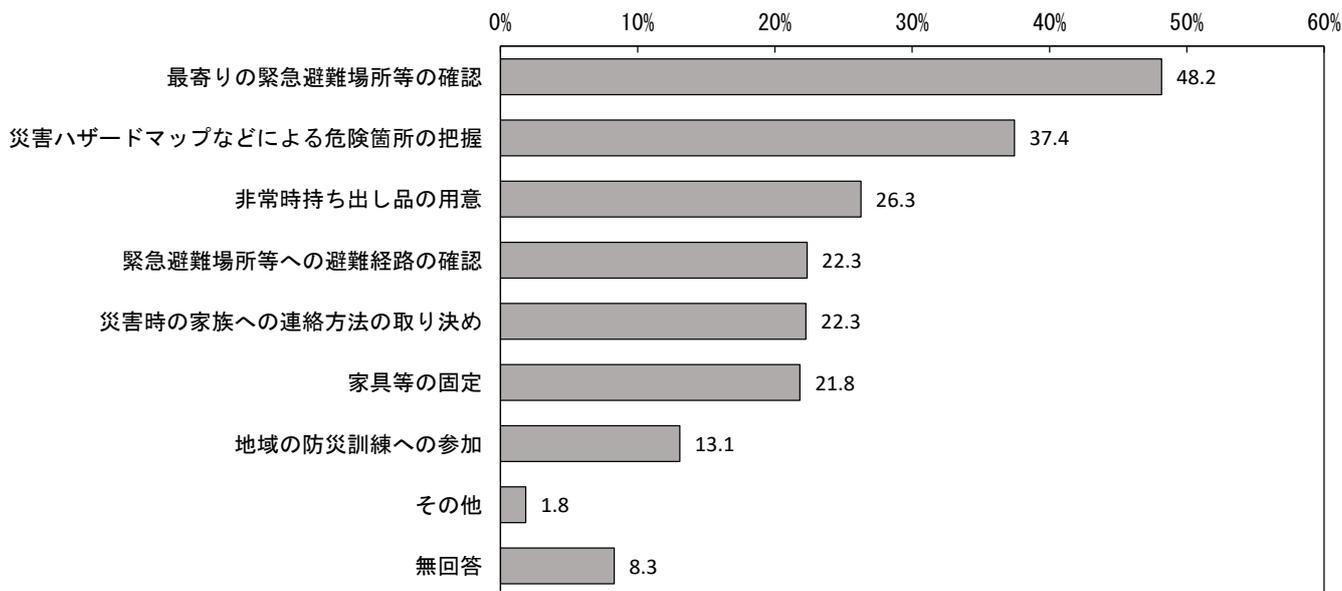
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（〇はいくつでも）。

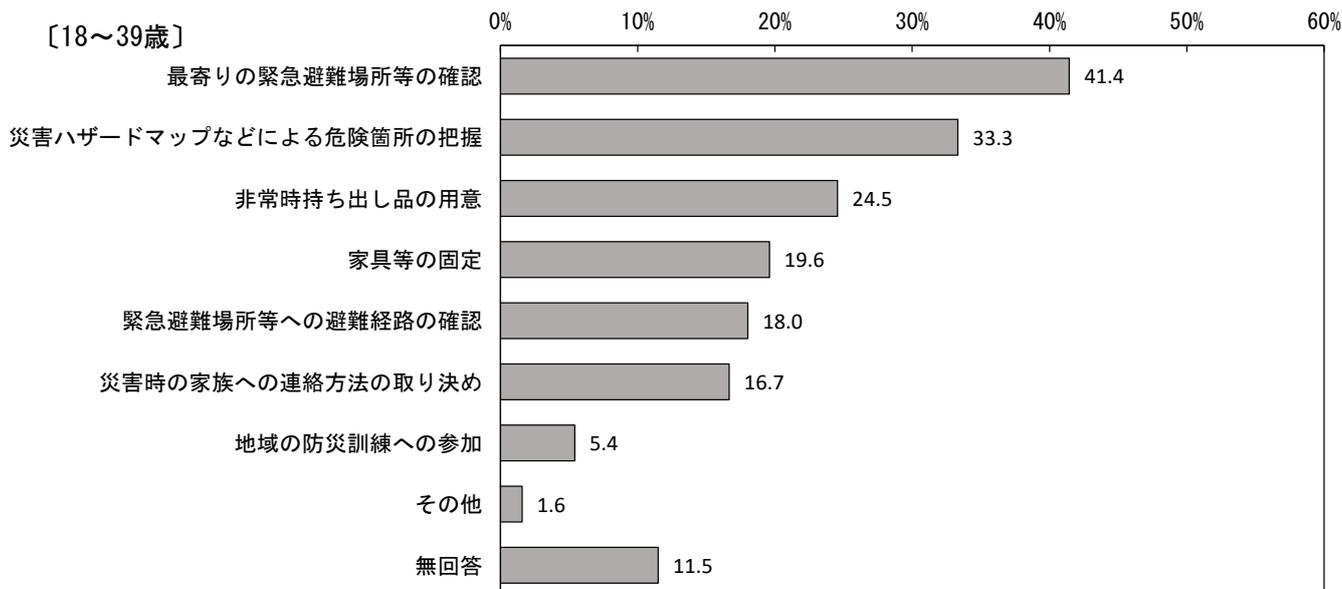
全体では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」の割合が48.2%と最も高く、次いで「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の37.4%、「非常時持ち出し品の用意」の26.3%と続いている。

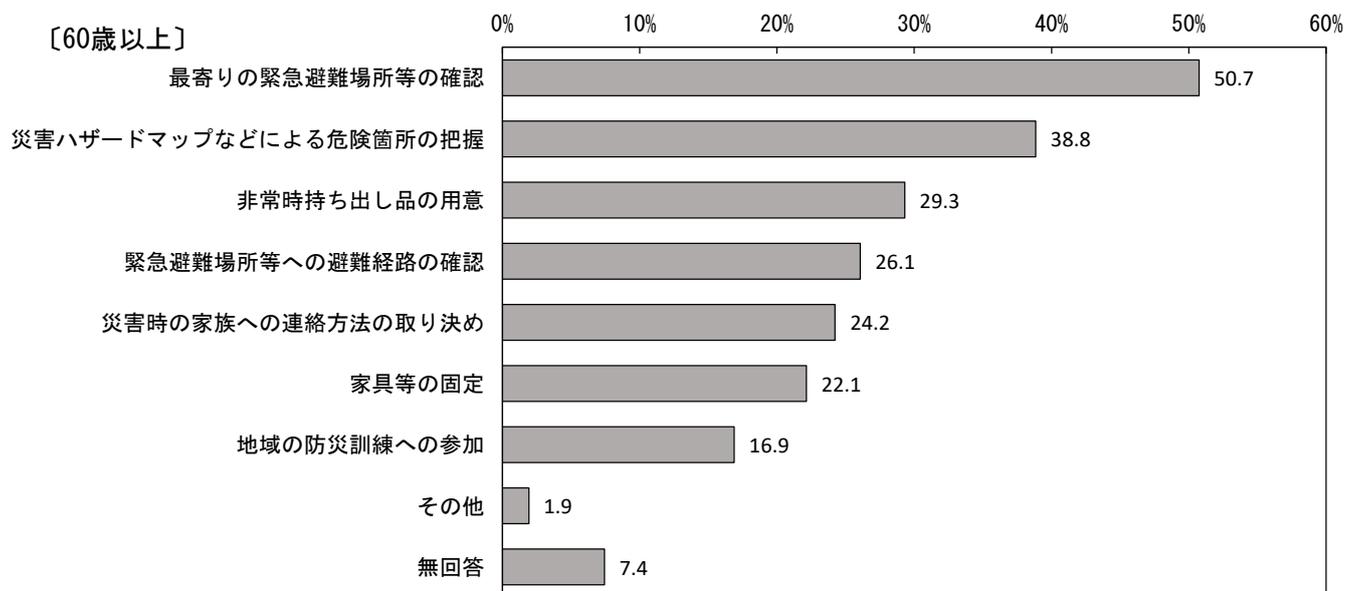
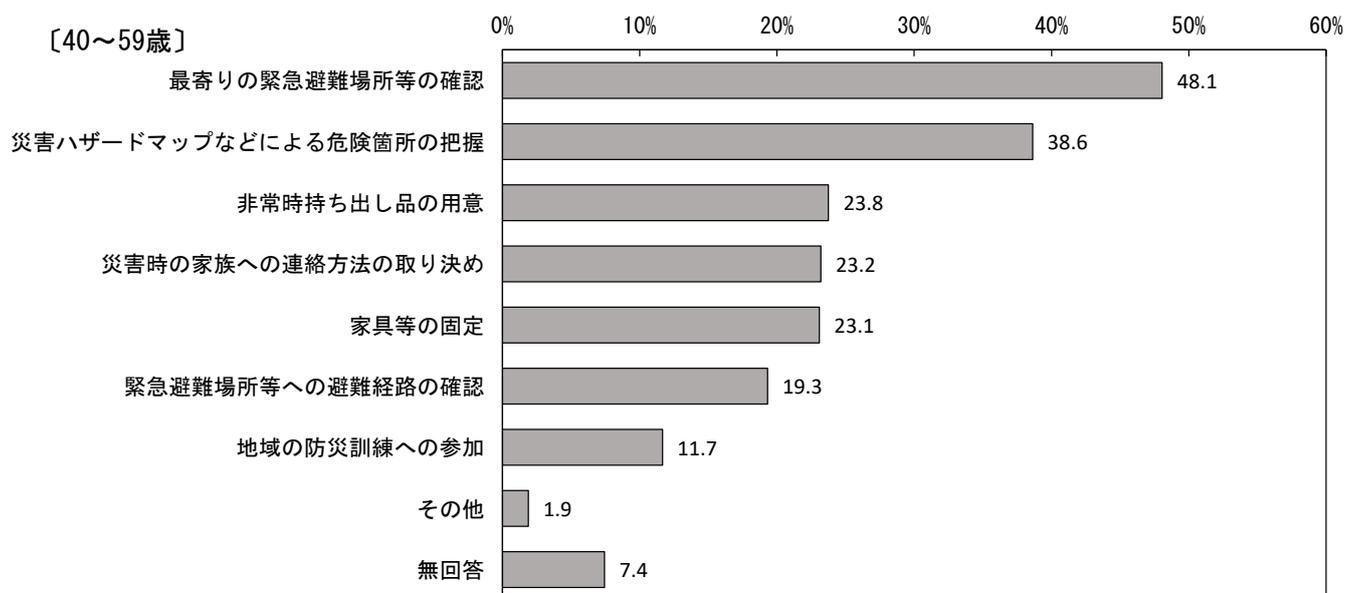
年代別では、全年代共通で「最寄りの緊急避難場所等の確認」がトップとなり、これに「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」が続いており、いずれも年代が上がるにつれて、割合が高くなっている。

【全体】



【年代別】





3 読書活動について

(1) 読書への興味

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞及び雑誌（電子媒体の記事（注1）を含む。）のほか、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注2）も含まれます。

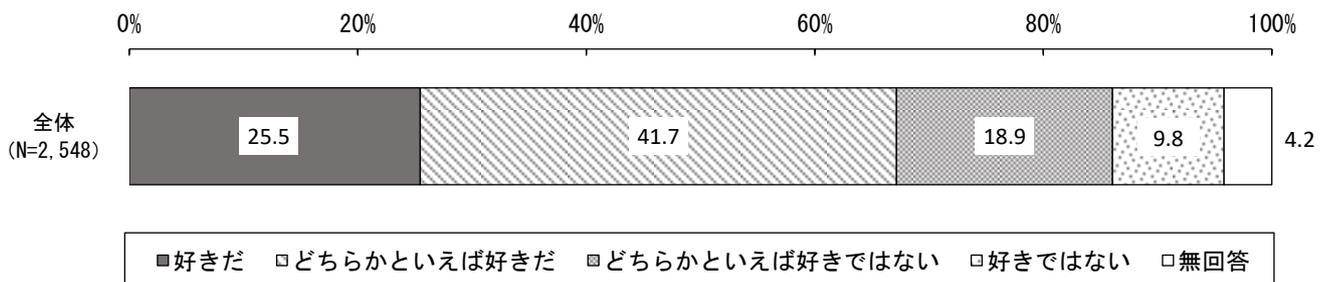
（注1）電子媒体の記事とは、新聞社や出版社等がインターネット上に掲載しているニュースや雑誌記事等のことです。

（注2）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット、インターネット上で提供されている音声コンテンツのことです。

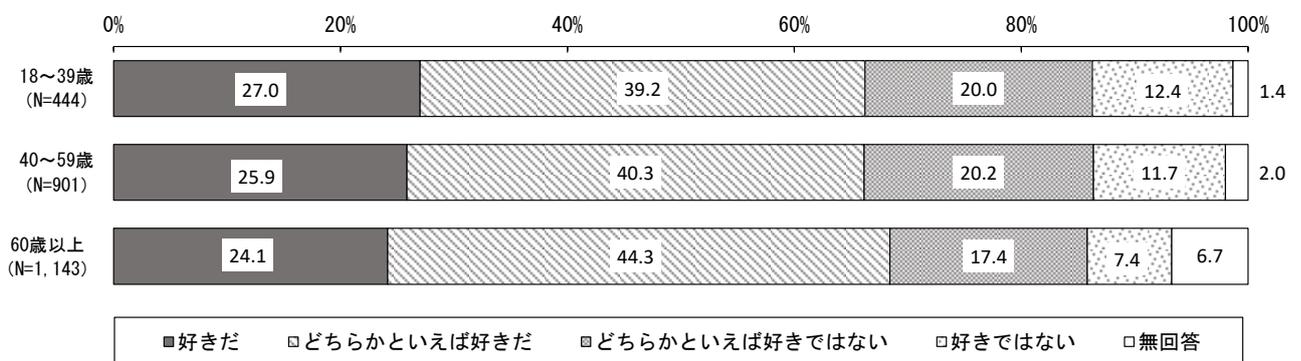
全体では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合（読書を好きと感じている人の割合）は67.2%で、「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合（読書を好きではないと感じている人の割合）28.7%よりも高い。

年代別では、読書を好きと感じている人の割合は、60歳以上が68.4%と最も高い。一方、読書を好きではないと感じている人の割合は、18～39歳が32.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



(2) 1日の平均読書時間

② あなたは1日平均(※)どれくらい読書をしていますか(○は1つ)。

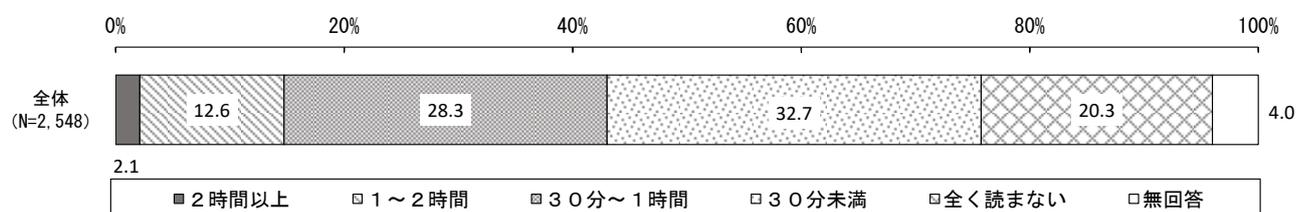
※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめて読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

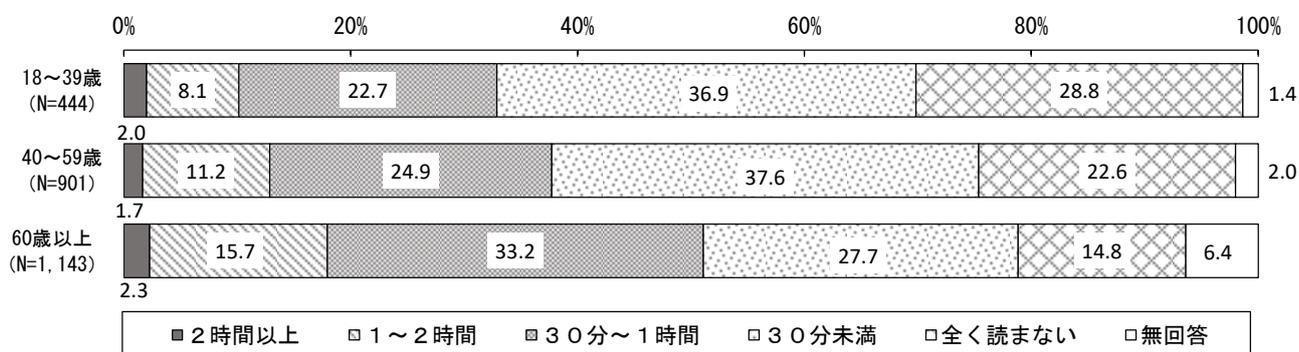
全体では、「2時間以上」、「1～2時間」及び「30分～1時間」を合わせた割合(30分以上読書をする人の割合)は43.0%となっている。一方、「全く読まない」の割合は、20.3%となっている。

年代別では、30分以上読書をする人の割合は、60歳以上が51.2%と最も高い。一方、「全く読まない」の割合は、18～39歳が28.8%と最も高い。

【全体】



【年代別】



4 農業への就業について

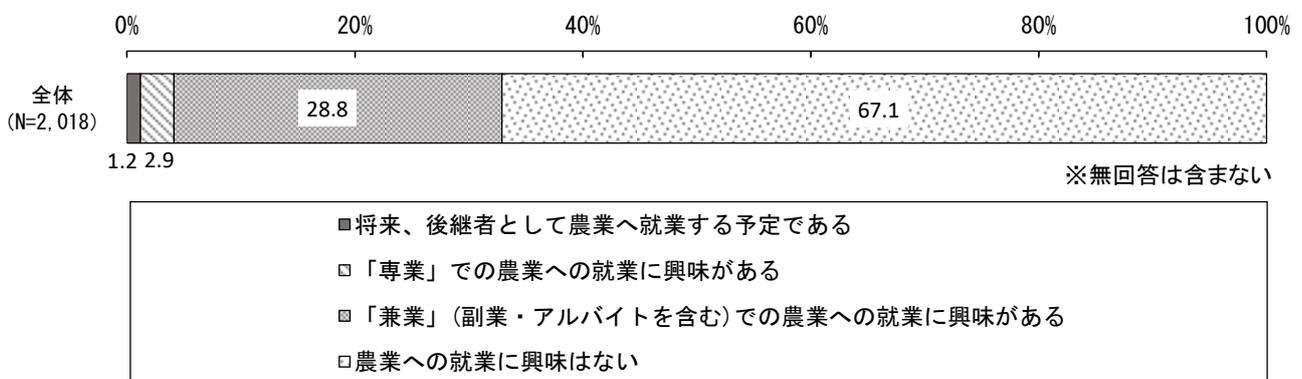
農業への就業についての興味

① 現在、農業へ就業していない方にお聞きします。あなたは、農業への就業について、どのように考えていますか（○は1つ）。

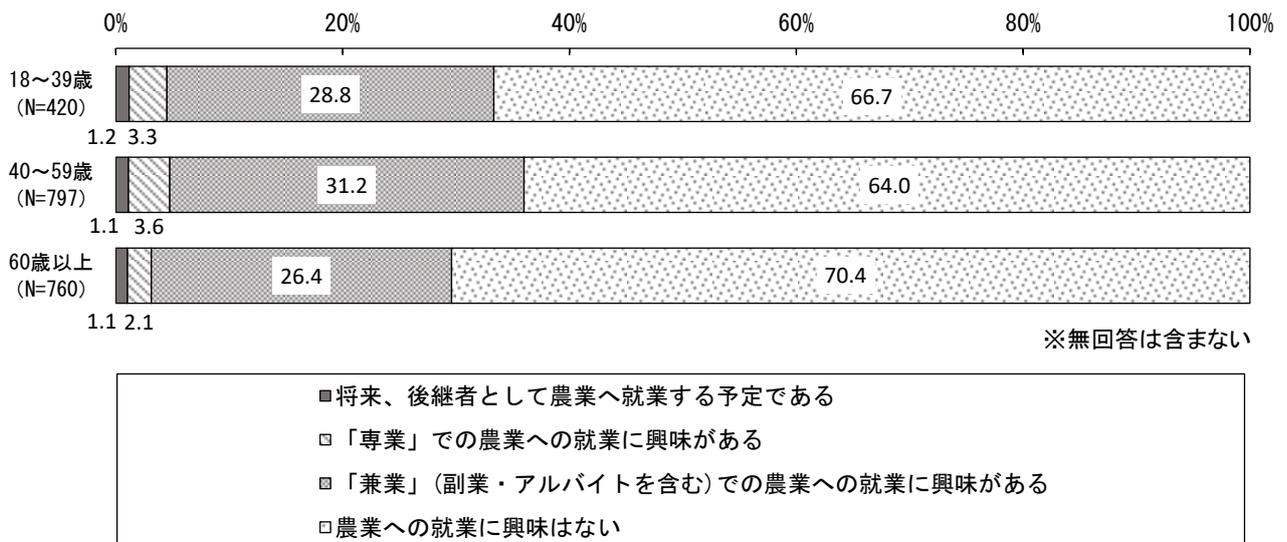
全体では、「農業への就業に興味はない」の割合が67.1%と最も高く、「専業での農業への就業に興味がある」と「兼業（副業・アルバイトを含む）での農業への就業に興味がある」を合わせた割合（農業への就業に興味がある人の割合）の31.7%よりも高い。また、「将来、後継者として農業へ就業する予定である」の割合は1.2%と最も低い。

年代別では、農業への就業に興味がある人の割合は、40～59歳が34.8%と最も高い。一方、「農業への就業に興味はない」の割合は、60歳以上が70.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



5 がん対策について

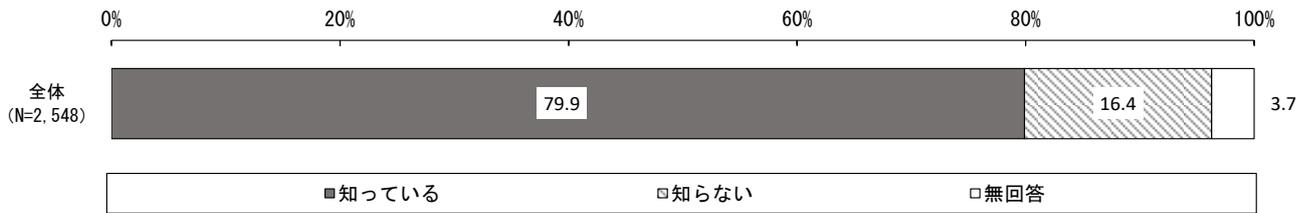
(1) 日本人のがん発症率に関する認知度

① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

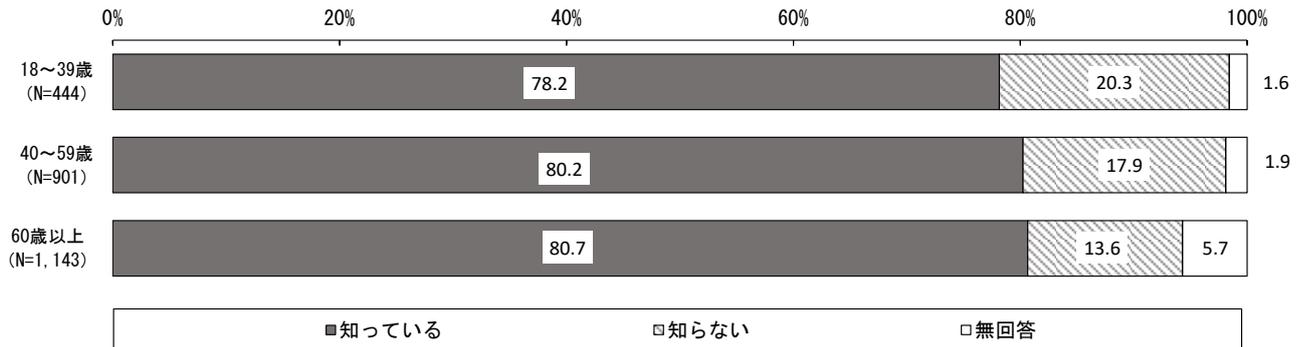
全体では、「知っている」の割合は79.9%で、「知らない」の割合16.4%を大きく上回っている。

年代別では、「知っている」の割合は、全年代で8割前後と高く、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

【全体】



【年代別】



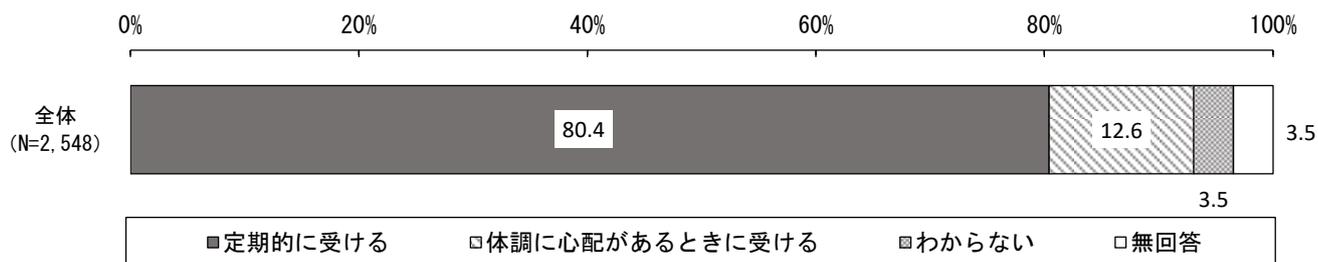
(2) がん検診の受診時期に対する考え方

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（〇は1つ）。

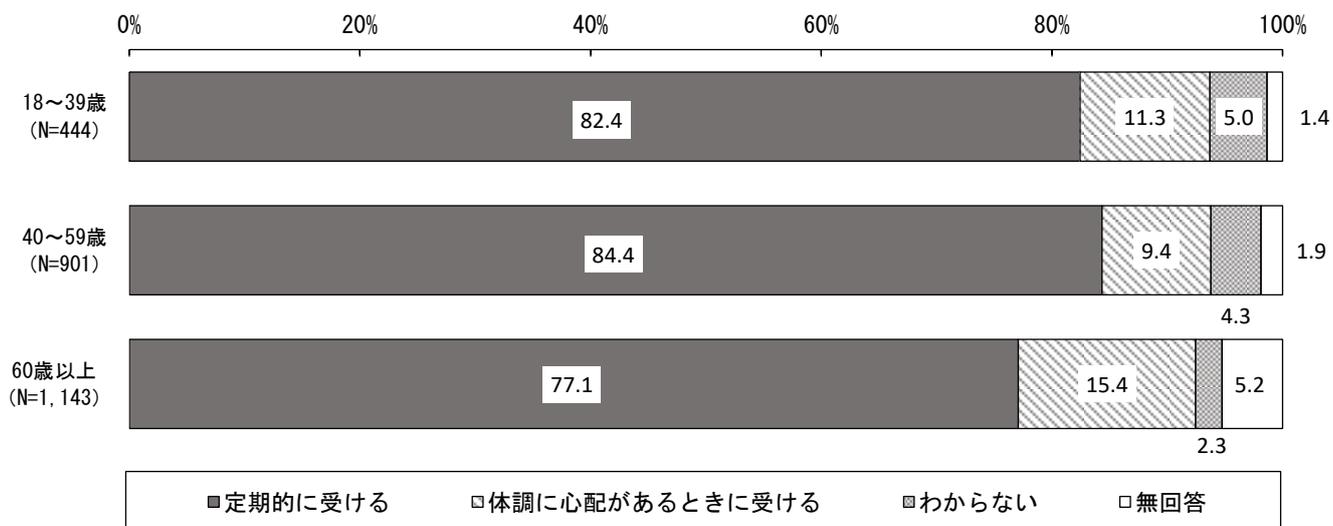
全体では、「定期的に受ける」の割合は 80.4%で、「体調に心配があるときに受ける」の割合は 12.6%となっている。

年代別では、「定期的に受ける」の割合は、40～59歳が 84.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



6 社会活動・地域活動について

社会活動・地域活動への取組の頻度

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」(※)に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか(○は1つ)。

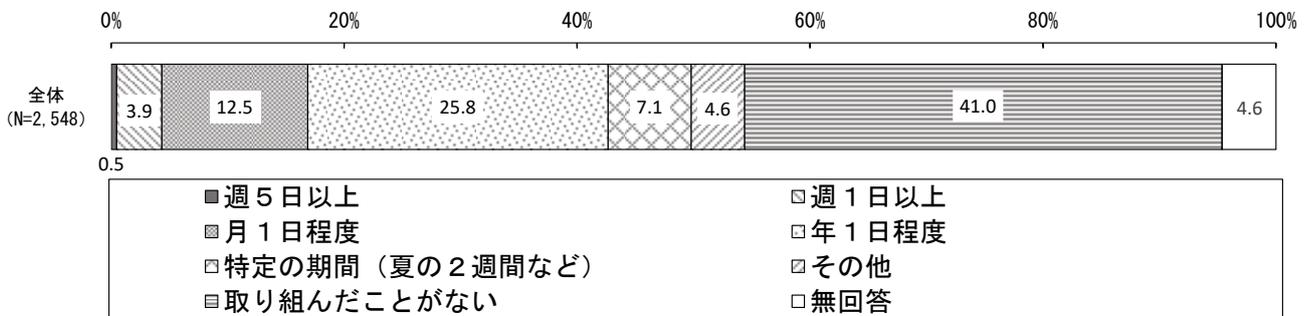
※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

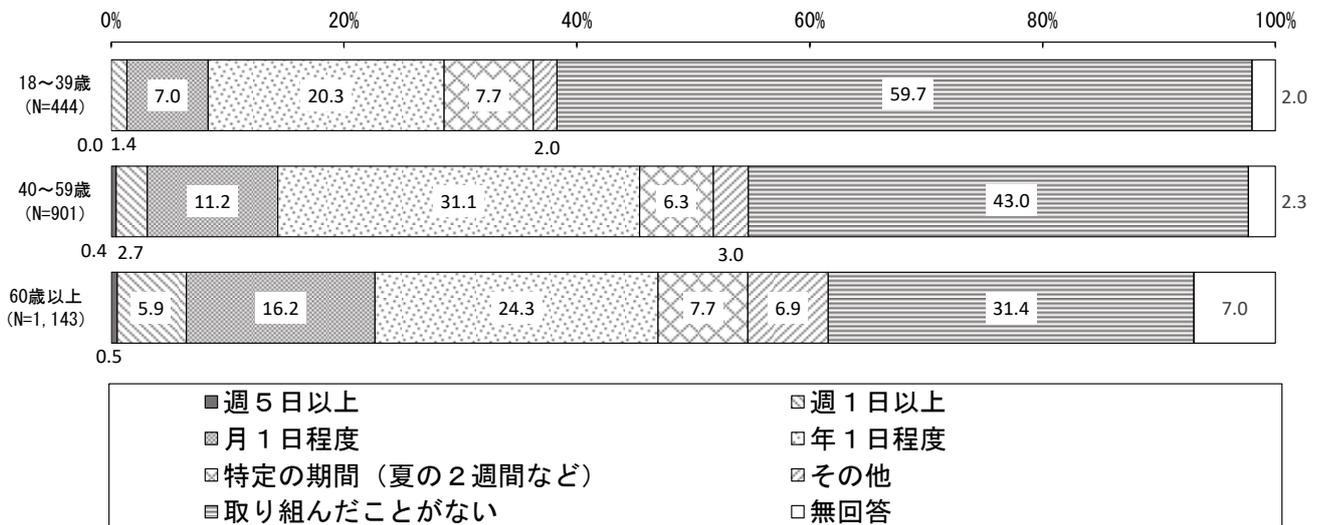
全体では、「取り組んだことがない」の割合が41.0%と最も高く、次いで、「年1日程度」が25.8%、「月1日程度」が12.5%で続いている。

年代別では、「取り組んだことがない」の割合は、18～39歳が59.7%と最も高く、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

【全体】



【年代別】



7 自転車の安全で適正な利用について

自転車損害賠償責任保険への加入状況

① 自転車を利用している人にお聞きします。あなたは「自転車損害賠償責任保険等（※）」に加入していますか（○は1つ）。

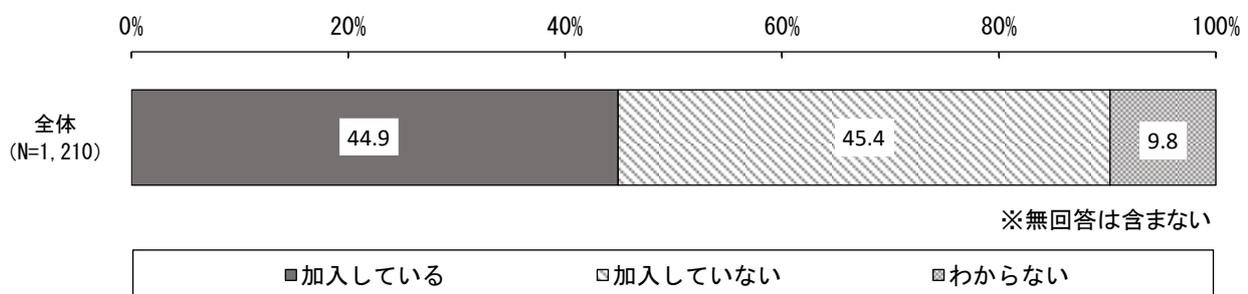
※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。

※自転車保険単独のものや、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約、共済、職場の団体保険などがあります。

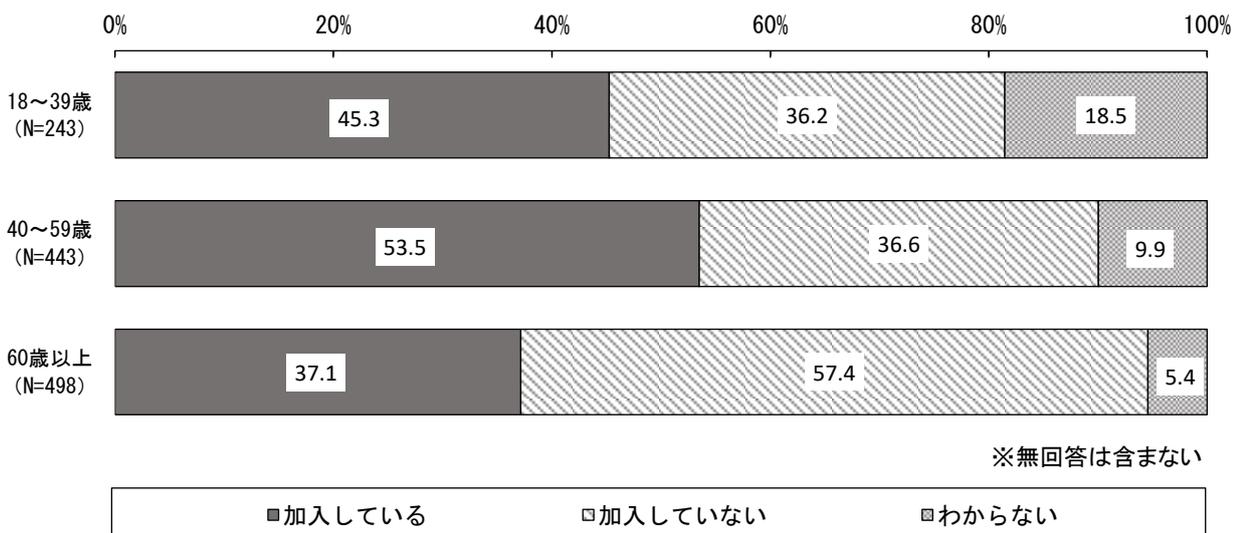
全体では、「加入している」の割合は44.9%で、「加入していない」の割合は45.4%となっている。

年代別では、「加入している」の割合は、40～59歳が53.5%と最も高く、一方「加入していない」の割合は、60歳以上が57.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



8 男女共同参画について

「男は仕事、女は家庭」の考え方

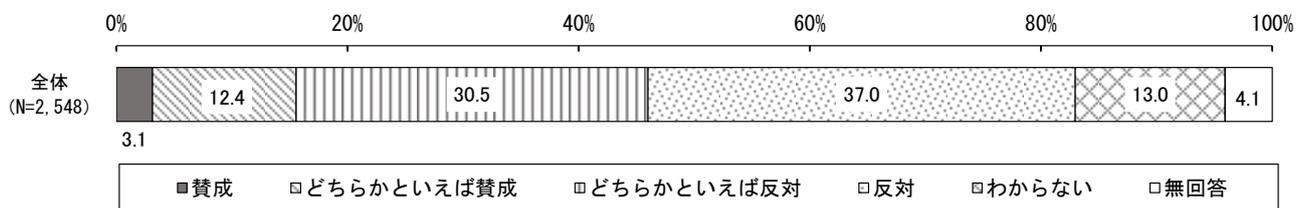
① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（〇は1つ）。

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合（賛成意見の人の割合）は15.5%で、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合（反対意見の人の割合）67.5%よりも低い。

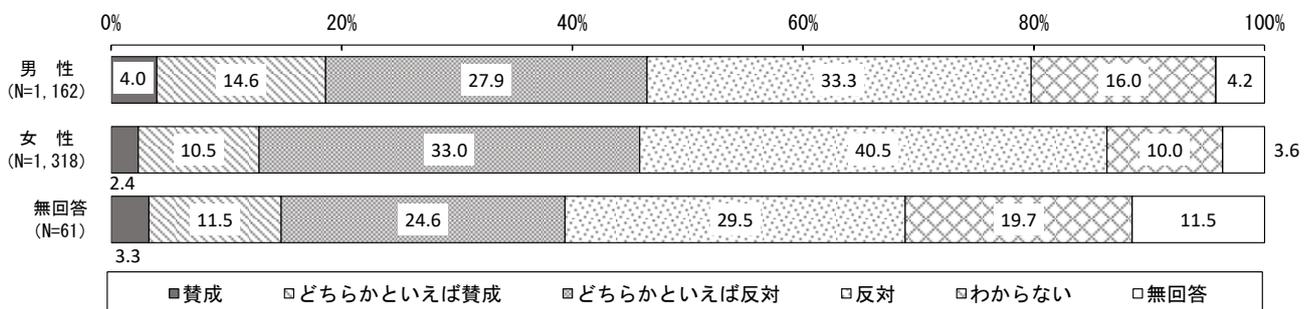
性別では、賛成意見の人の割合は男性が女性よりも高い。

年代別では、賛成意見の人の割合は、60歳以上が18.5%と最も高い。一方、反対意見の人の割合は、18～39歳が75.9%と最も高い。

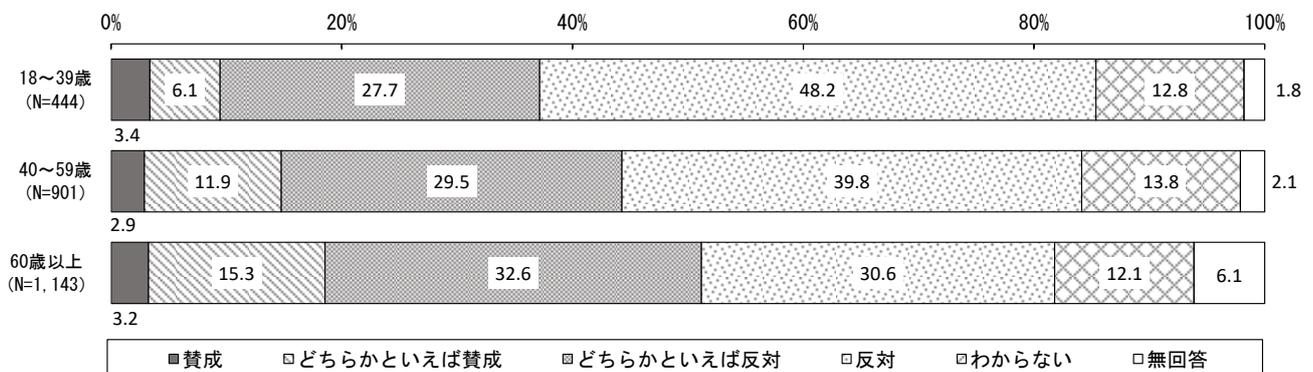
【全体】



【性別】



【年代別】



9 食品ロス問題について

食品ロスへの取組

① あなたは食品ロス（※）が社会問題になっていることを知っており、削減に向けた取組をしていますか（○は1つ）。

※食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられる食品

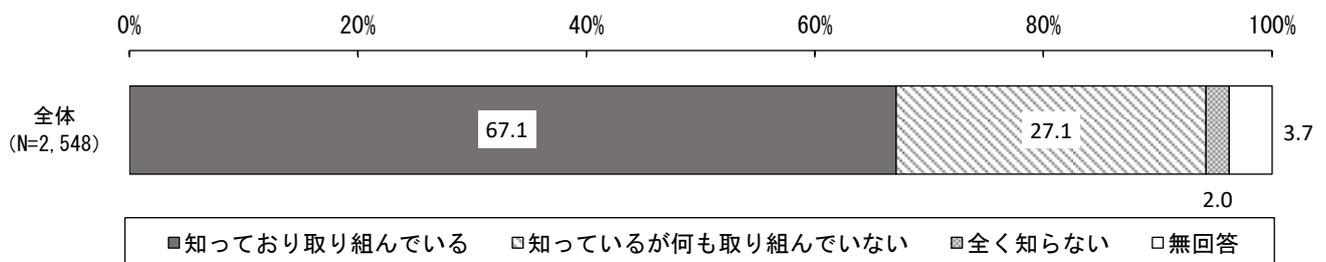
※削減に向けた取組の具体例

料理を作り過ぎない、出された料理は残さず食べる、外食の際は食べきれぬ量を注文、買い物の際は賞味期限や消費期限の近い商品を購入 等

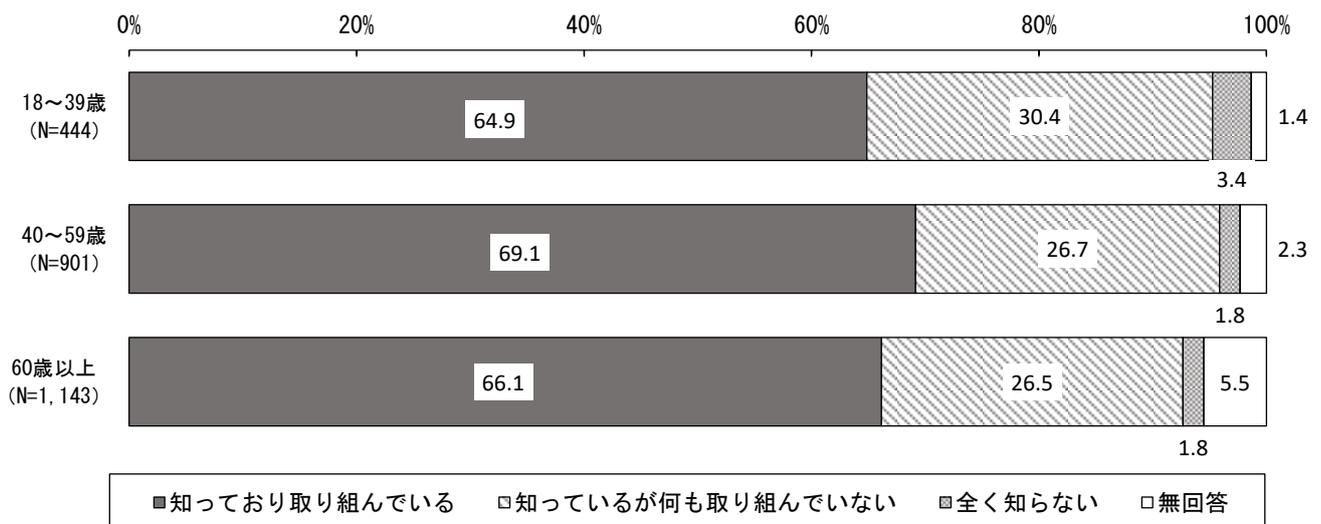
全体では、「知っており取り組んでいる」の割合は67.1%と最も高い。一方、「全く知らない」の割合は2.0%と最も低い。

年代別では、「知っており取り組んでいる」の割合は、40～59歳が69.1%と最も高い。一方、「全く知らない」の割合は、18～39歳が3.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



10 環境保全活動について

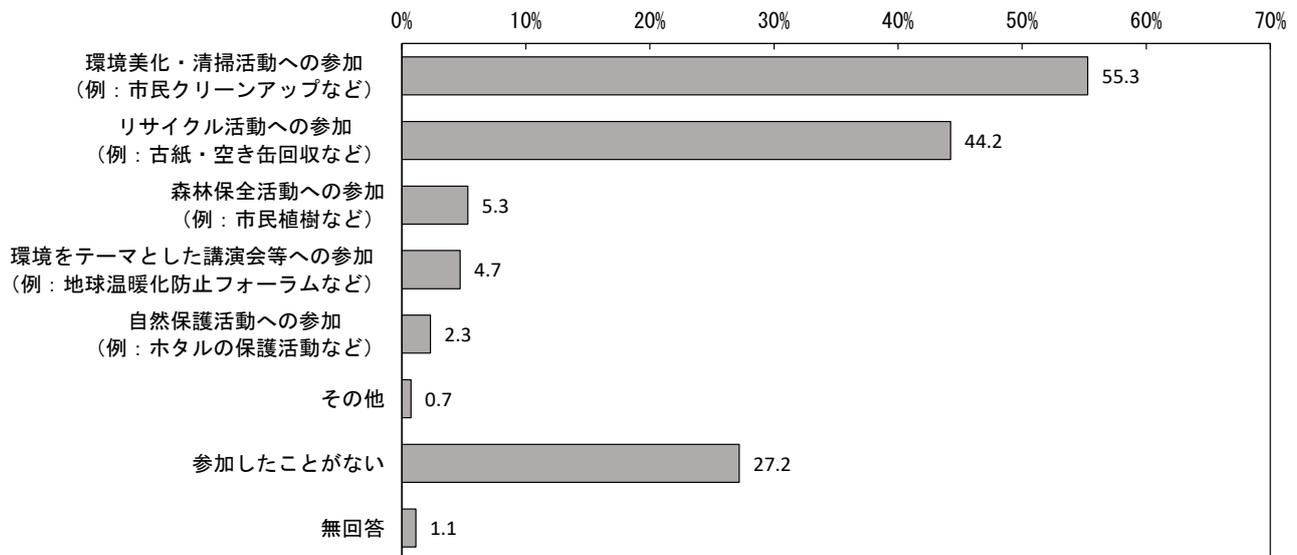
環境保全活動への参加状況

① あなたは、これまで環境保全活動等に参加したことがありますか（〇はいくつでも）。

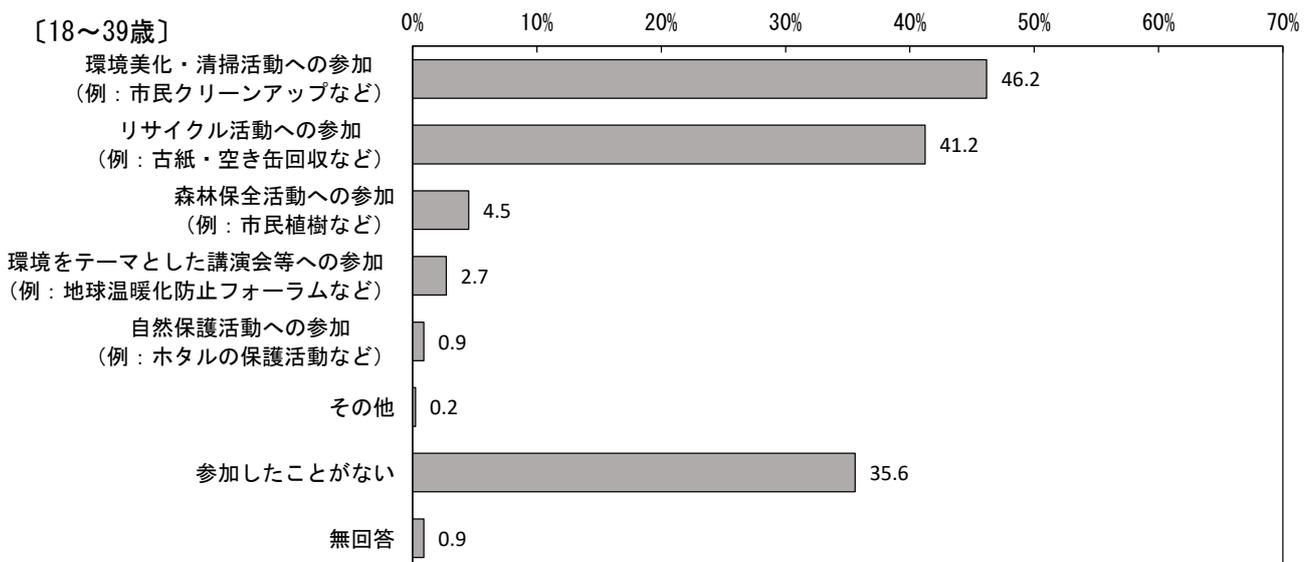
全体では、「環境美化・清掃活動への参加」の割合が55.3%と最も高く、次いで、「リサイクル活動への参加」が44.2%、「参加したことがない」が27.2%が続いている。

年代別では、全年代共通で「環境美化・清掃活動への参加」、「リサイクル活動への参加」の順が続いている。また、年代が低くなるにつれて、「参加したことがない」の割合が高くなっている。

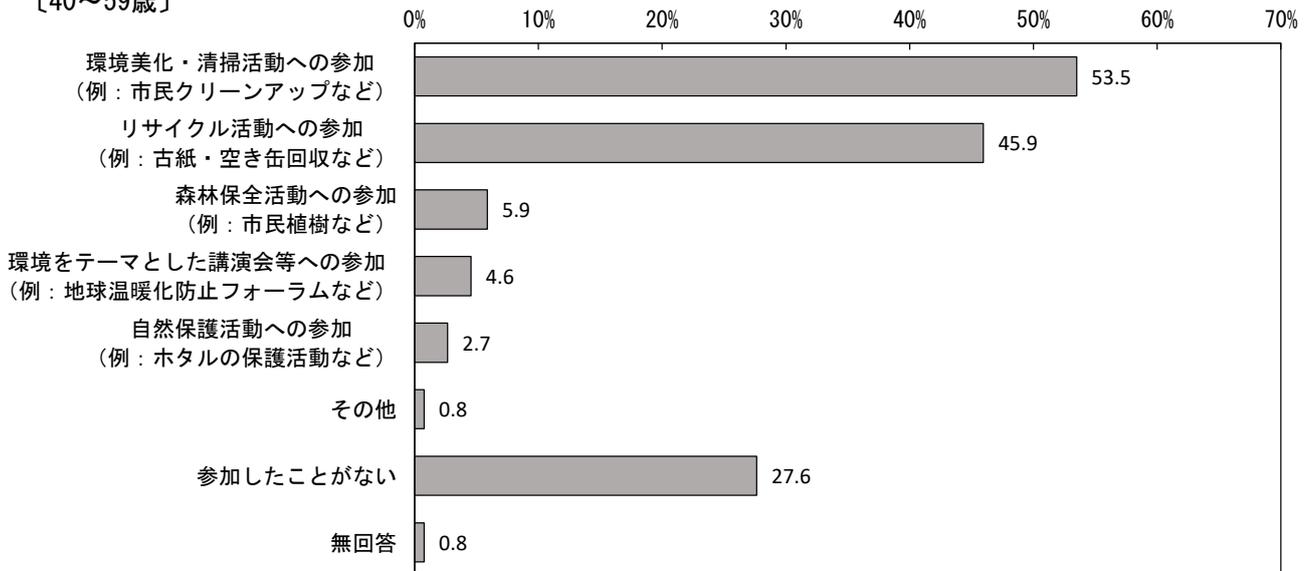
【全体】



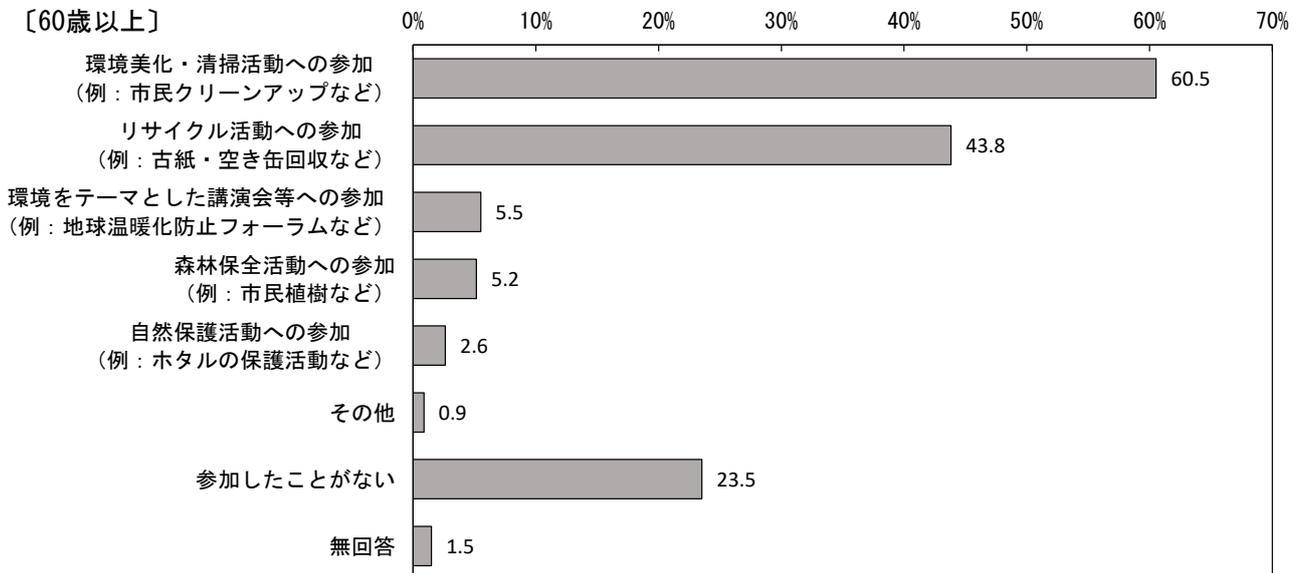
【年代別】



[40～59歳]



[60歳以上]



11 差別等について

(1) 差別等を感じる機会の有無

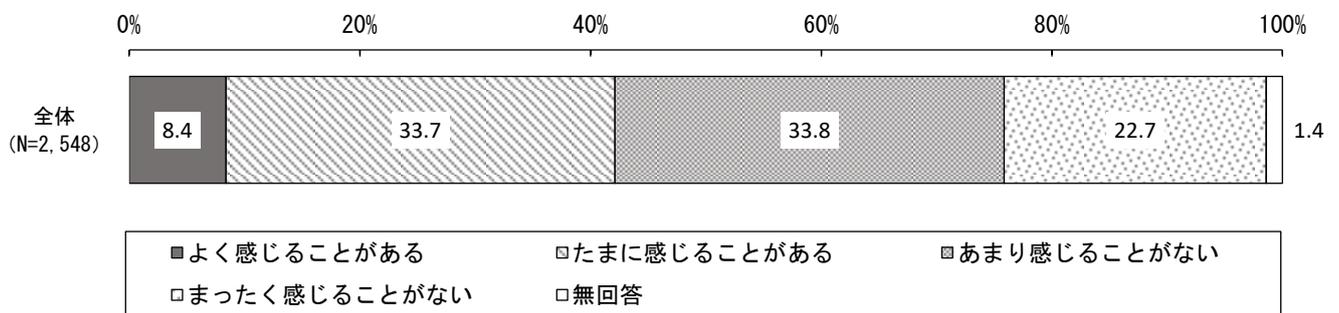
① あなたは、ご自身や身の回りで、差別等を感じることはありませんか（○は1つ）。

全体では、「あまり感じることはない」の割合が33.8%と最も高く、「よく感じることもある」の割合は8.4%となっている。

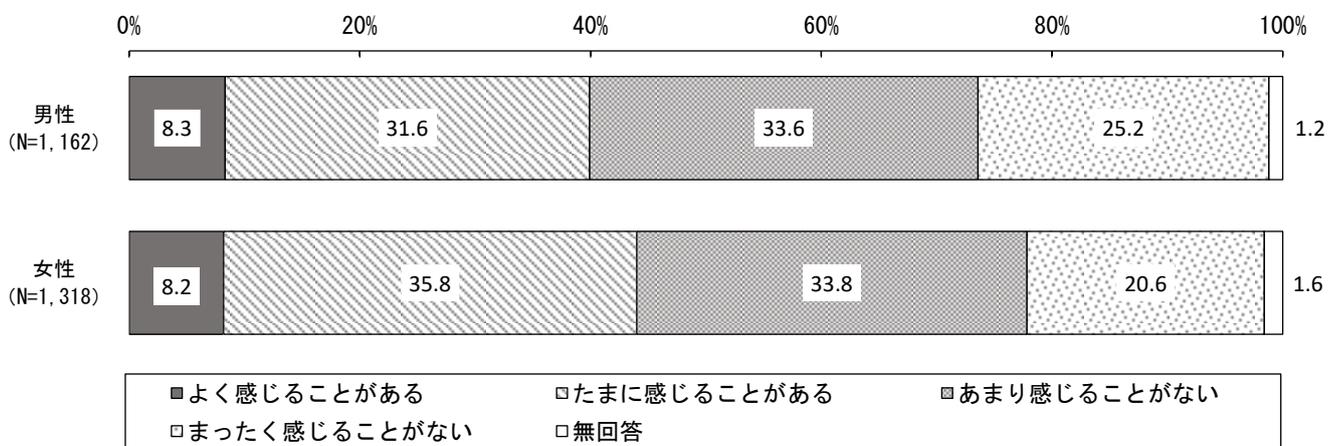
性別では、男性では「あまり感じることはない」が33.6%、女性では「たまに感じることもある」の割合が35.8%でそれぞれ最も高く、「よく感じることもある」の割合は男性で8.3%、女性で8.2%と同程度である。

年代別では、年代が低くなるにつれて「よく感じることもある」の割合が高くなっている。

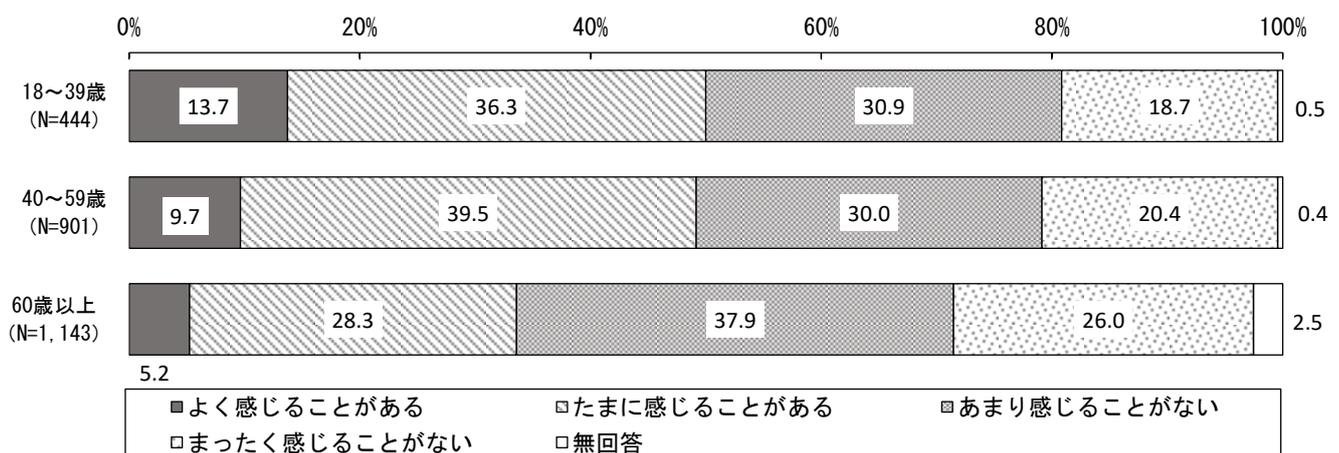
【全体】



【性別】



【年代別】



(2) 感じる差別等の種類

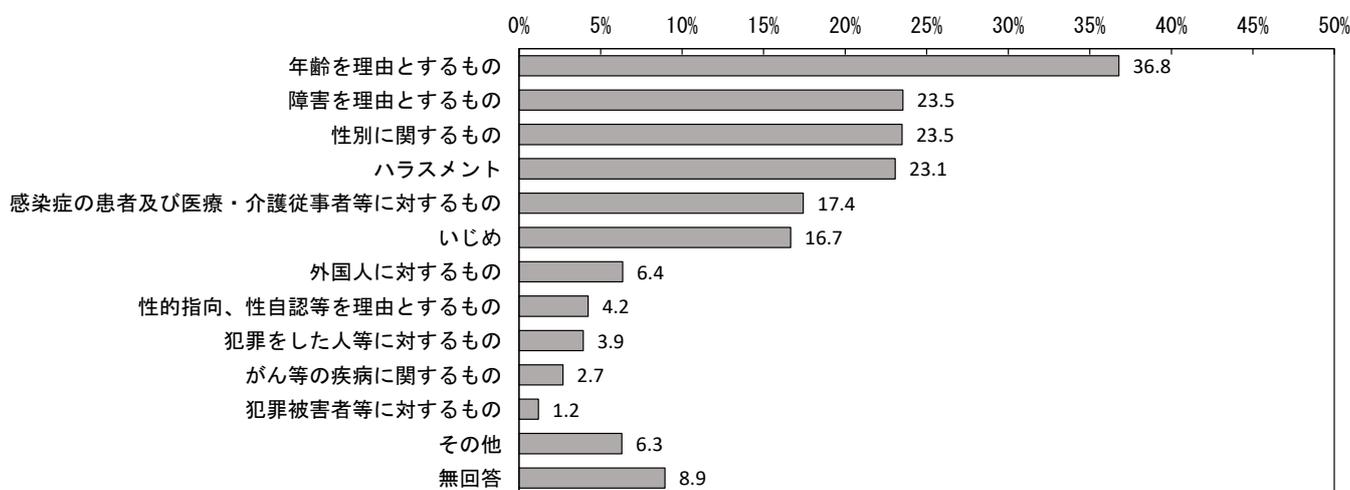
② ①で「1 よく感じることもある」、「2 たまに感じることもある」、「3 あまり感じることはない」を選んだ方にお聞きします。どのような差別等を感じることがありますか（〇はいくつでも）。

全体では、「年齢を理由とするもの」の割合が36.8%と最も高く、次いで、「障害を理由とするもの」、「性別に関するもの」がともに23.5%、「ハラスメント」が23.1%で続いている。

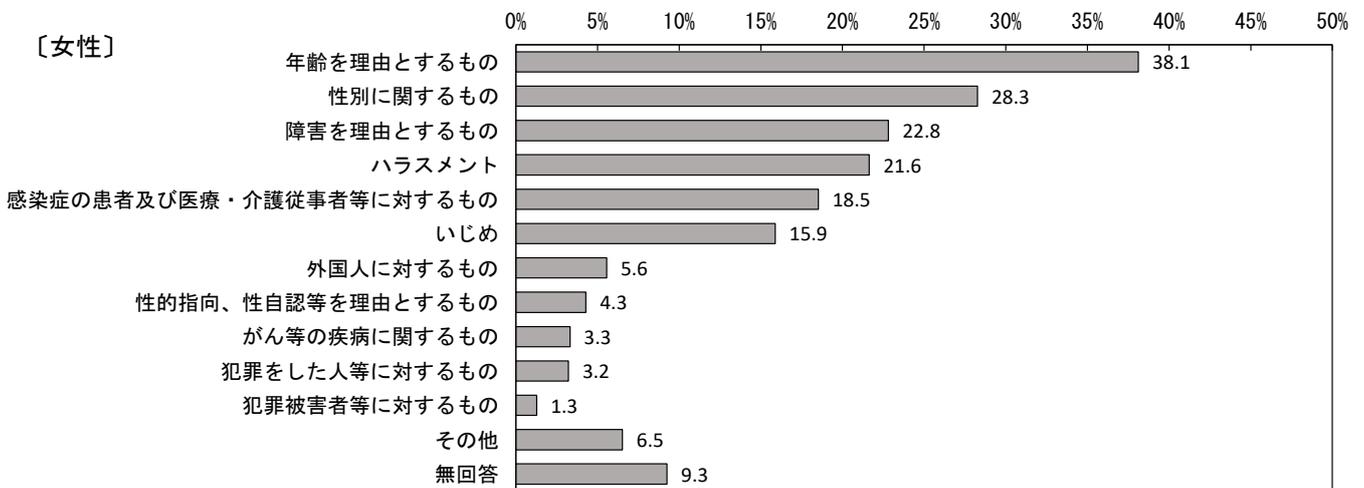
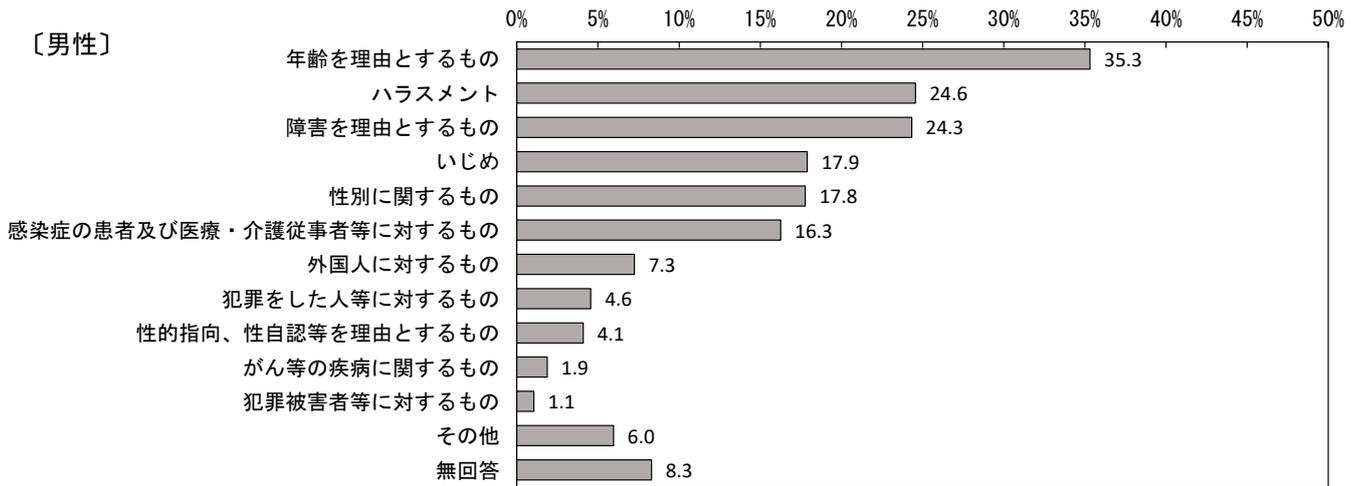
性別では、男女ともに「年齢を理由とするもの」の割合が3割以上で最も高い。次いで、男性では「ハラスメント」が24.6%、女性では「性別に関するもの」が28.3%で続いている。

年代別では、18～39歳では「性別に関するもの」が35.1%、40～59歳では「ハラスメント」が31.6%、60歳以上では「年齢を理由とするもの」が43.8%で最も高くなっている。

【全体】

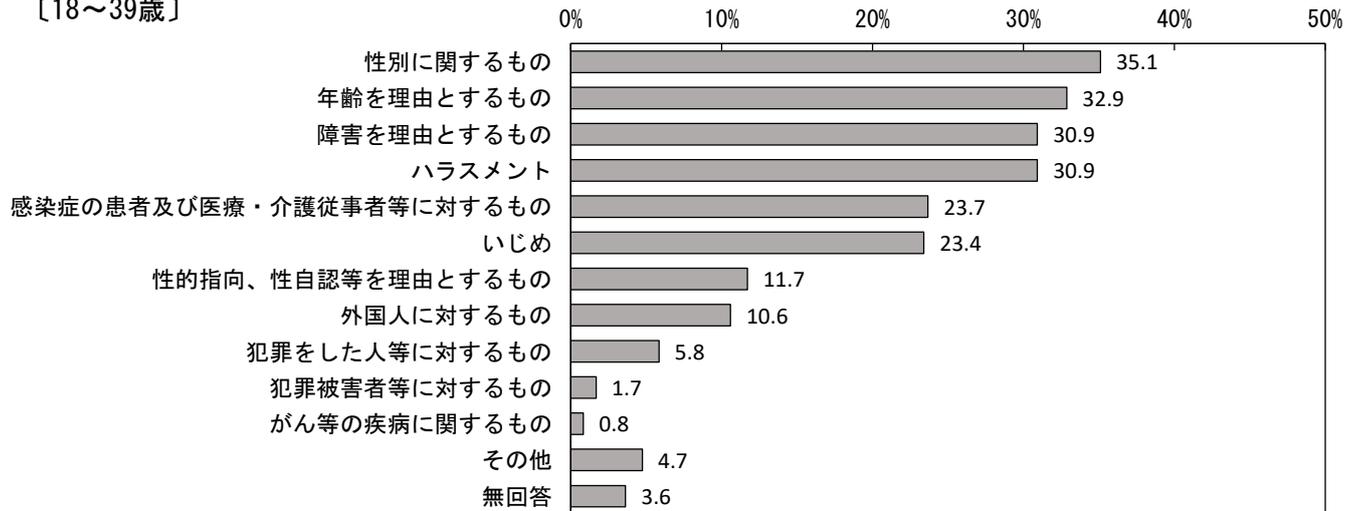


【性別】

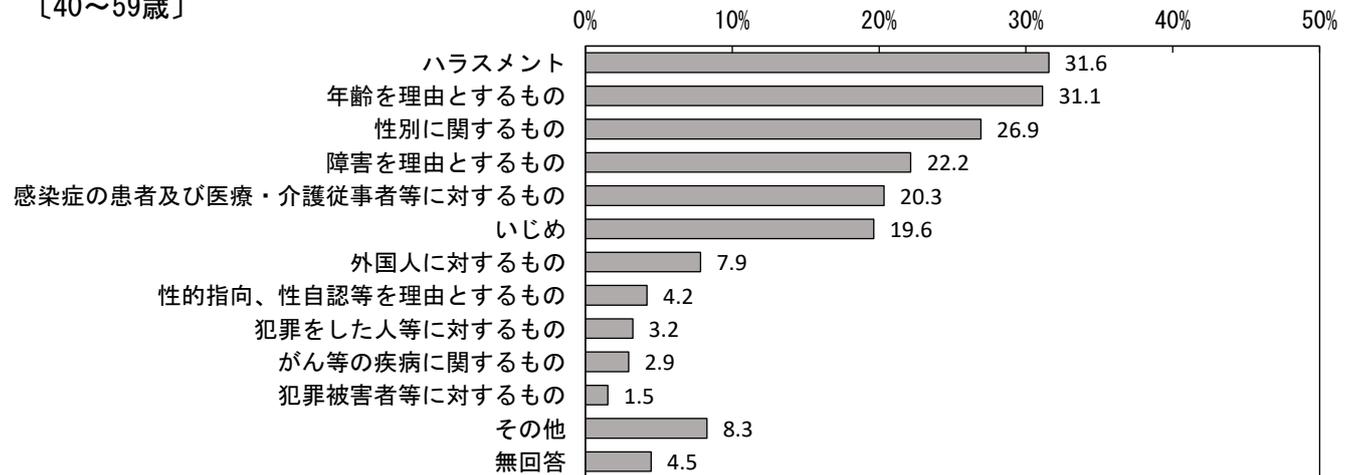


【年代別】

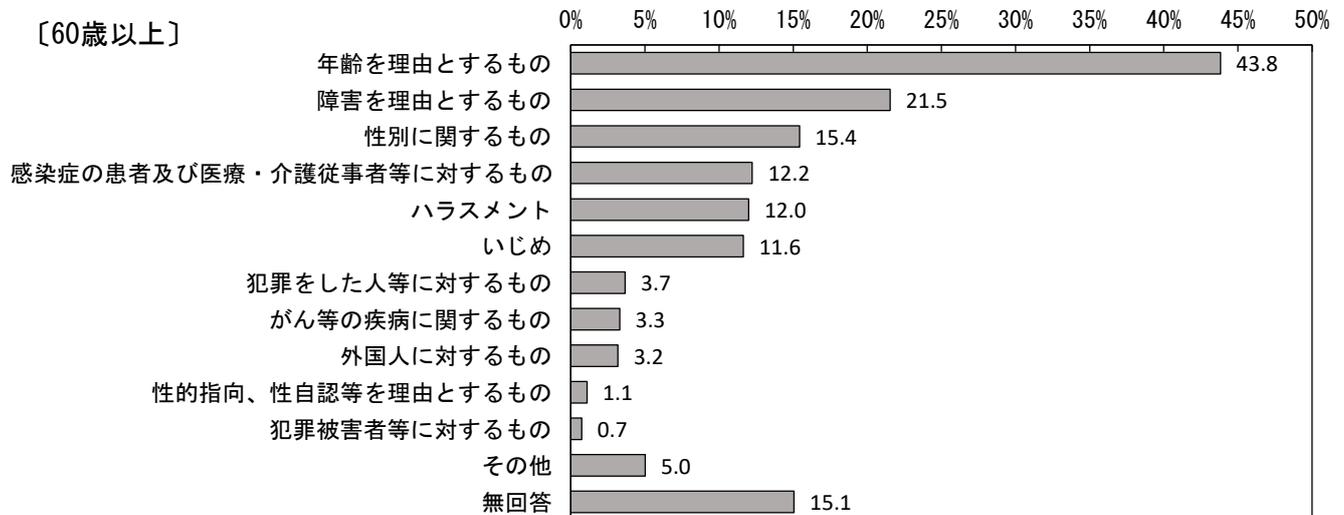
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕



12 高齢者の社会参加について

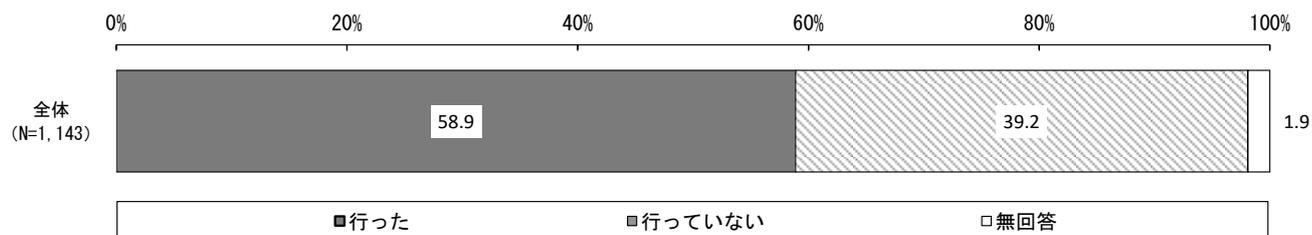
60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和3年度）

① 60歳以上の方にお聞きします。あなたは、令和3年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

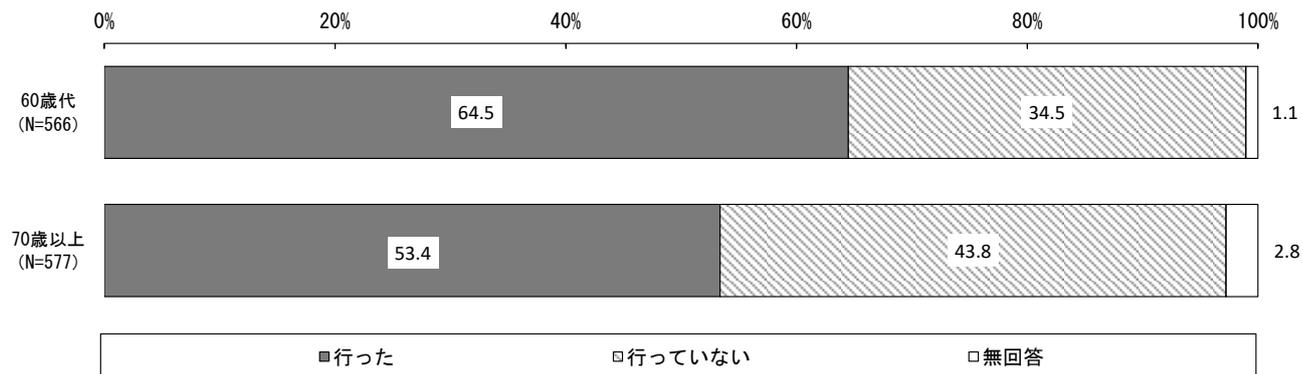
全体では、「行った」の割合は、58.9%で、「行っていない」の割合は39.2%となっている。

年代別では、「行った」の割合は、60歳代で64.5%と70歳以上よりも高い。

【全体】



【年代別】



第4章 県政への自由意見について

県に力を入れてほしいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。(問4)

【集計の方法】

回答は内容からA～Nの14項目に分類した。同一の回答者が複数の意見を記入している場合には、項目を分けて別意見として扱っている。

1 自由意見の項目別件数

項番	項 目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	73
B	移住・定住に関すること	41
C	女性・若者の活躍支援に関すること	27
D	地域社会の維持・活性化に関すること	70
E	商工業・雇用・労働に関すること	131
F	農林水産業に関すること	44
G	観光に関すること	42
H	文化・スポーツに関すること	29
I	道路・交通ネットワークに関すること	63
J	健康・医療・福祉に関すること	74
K	教育に関すること	36
L	県土の保全・防災に関すること	10
M	身近な生活・環境に関すること	46
N	県政全般に対する意見・その他	236
合 計		922

2 主な自由意見

690人から、922件の意見があった。一部を抜粋して掲載する。誤字等は校正しているため、掲載文は回答の原文と異なる場合がある。

A 少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること

- もっと若者向けの政策に力を入れて、秋田で子を産み育ててもらえるように県民一丸となり取り組んでいければと思っています。(女性/40歳代/秋田地域)
- コロナ禍になってから、子育てに関するコミュニティの場所が減ってきているので、また少しずつ増えてくれればと思います。(女性/30歳代/由利地域)
- 若者が結婚・子育てと生活出来る環境づくりに取り組んでほしい。(男性/50歳代/山本地域)
- 子育てをするに当たり、最低賃金の低さの割に、子どもにかかるお金は全国的に同じなのではないかと思うと、これから先の将来が不安です。今以上に子育て支援に手を差し伸べていただけると嬉しいです。(女性/20歳代/秋田地域)
- 行政がわからない母親を感じる不安感に寄り添っていただきたいです。また企業にも、働く母に対してのハラスメントをしてはいけないこと、協働性への理解、育休や看護休暇の整備など、強く働きかけてほしいと切実に感じています。この状況が変わらなければ、子どもを産もう！という気持ちが持てないし、母親が生き生きと仕事と子育てを両立できる社会にならないと思います。(女性/40歳代/秋田地域)
- 人口減少を止めるために、他県から移住して子育てしたくなるような、秋田県独自の子育て支援策等を考えていければ良いなと思っている。(男性/50歳代/由利地域)
- 子育て支援と教育の充実にお金をかけてほしい。高齢者向けの公共サービスが多い一方で、若者向けの政策の少なさを感じる。子育て・教育への投資に成功した自治体を参考に組み込んでほしい。(男性/20歳代/秋田地域)

B 移住・定住に関すること

- 高校を卒業するとほとんどの子どもが地元を離れ県外に出て行く状況。私の住んでいる地域では、若者が少なく以前活動していた子ども会もなくなっている。地元に残りたい、残るといふ気持ちになれる社会を作ってほしいです。(性別不明/年代不明/居住地域不明)
- 若者の定住のために魅力的で高賃金な企業の育成が重要である。首都圏で働く若者達は「秋田に帰りたい」と思っている。しかし秋田には良い職場がないのが実情である。(男性/70歳以上/秋田地域)
- 就職、子どもの教育支援、介護支援など、戻ってきたり移り住んできたりした人たちが相談しやすいサービスやネットワークづくりが必要な気がします。(女性/50歳代/秋田地域)

- 人口を増やすために県外からの移住を促進出来るように、サービスの提供や地域と連携して取り組むのが大事じゃないかと思う。(男性/20歳代/秋田地域)
- 若者に魅力のある職場、女性が安心して働ける場、子育てしやすいサポート体制や補助など、秋田に定住する若い世代が増えていくような施策を考えてほしいと思います。(男性/40歳代/仙北地域)

C 女性・若者の活躍支援に関すること

- 秋田県は女性の地位が低すぎる。そういう環境で育った子どもたちが、将来秋田で働き、結婚し、子育てをしようとは思わないだろう。まず男性の意識の改革からだと思う。(女性/50歳代/秋田地域)
- 若者が秋田県で働きたいと思う職種がないため、若者への支援をもっと手厚くすること。起業したい若者へ支援を続けると県に定住してくれると思います。(女性/30歳代/秋田地域)
- 将来へのステップアップを目指す若者がその希望を叶えるための転職も可能となるように、更に多様な選択肢があれば良いと考える。(男性/60歳代/北秋田地域)
- 若者が、住みやすい地域、働きやすい職場、楽しめる施設を用意してあげるだけで秋田の未来は明るくなると思います。(男性/20歳代/居住地域不明)

D 地域社会の維持・活性化に関すること

- 社会活動、地域活動はいろいろと行っているようだが、一部の人たちだけで盛り上がっている感じがある。もっと広く誰でも参加しやすい工夫が大事。(女性/40歳代/山本地域)
- 少子、高齢化社会時代を国よりも先取りをしている秋田県は負のイメージだけでなくむしろ地方のモデル版としてうまく運用している施策を講じてもらいたい。(女性/70歳代/由利地域)
- 高齢者もどんどん社会活動へ参加させ社会の活動に“私も参加してみたい”という気持ちにさせることが大事だと思います。若い人達との交流等も良いかと思います。(男性/70歳以上/秋田地域)
- ショッピングモールだけではなく楽しめる施設があればと思います。コロナであちこち自然に触れる機会が多かったのですが、アクセスしづらいところも問題でした。(女性/40歳以上/平鹿地域)

E 商工業・雇用・労働に関すること

- 秋田県は空地が多いのですから、人口が少ない地域には特に積極的な誘致活動してほしい。(女性/70歳以上/北秋田地域)
- 若者が働ける、働きやすいような職場がこれとってないのが事実。一度県外に出た人が、地元に戻って働きたくなるような環境をつくるべきだと思う。(女性/20歳代/仙北地域)

- 首都圏での大学を終えた有能な学生が、そのまま就職し秋田へ戻ってこない方が多くとてももったいない気持ちになります。秋田にもっと大きな企業が出来れば良いと思う。(女性/70歳以上/秋田地域)
- ワーク・ライフ・バランスや、子育てしている女性に配慮することは素晴らしいことですが、それが男性や独身女性、子どもがいない女性に負担がかからないような制度、あるいは、心がまえをセミナーなどで伝えてほしいです。すべての人が希望通りに働ける、貢献できる社会を目指してほしいです。(女性/30歳代/秋田地域)
- セカンドキャリア、就労の確保、労働賃金の地方格差是正(賃上げ)。(男性/50歳代/由利地域)
- 非正規雇用で働いている人が多いと思うので、安心して生活していける職場や、企業誘致などをして正規雇用で雇ってもらえるようになってほしい。(女性/40歳代/由利地域)
- 若者が仕事にやりがいと希望を持てるように賃金の見直しや働く場所を増やしてほしい。(男性/30歳代/仙北地域)
- 老若男女問わず県民が安心して生活できるような賃金にしてほしい。労働に対してきちんとした対価がもらえるような環境を整えてほしい。(男性/20歳代/秋田地域)
- 秋田の企業で県外に出ているところはあるが、そもそも県内企業が弱小であり、この企業が合併しながら大きくなり他県に進出することができるように後押しすると良いと思う。(男性/50歳代/秋田地域)

F 農林水産業に関すること

- 以前ニュースでみたスマート農業に関心があります。農地の区画整理をして大規模農業ができないものかと思いました。秋田にはスマート農業先進県になってもらいたいです。(女性/40歳代/秋田地域)
- 農業をやっていくのに機械、設備等が高額なので生活していくのが大変です。農業でやっていける基盤作り、政策をこれから実行してほしいです。(女性/60歳代/雄勝地域)
- 県産品のブランド化、PRをお願いします！お土産で渡すようなものも、パッケージなどオシャレなものをもっと作ってほしいです。(女性/40歳代/仙北地域)
- 米以外の作物(野菜等)の販売も力を入れる。秋田県はコメに頼っているところがあるから、別品目への転換等に対して補助金を出して背中を押してほしい。(男性/20歳代/仙北地域)
- 農業の大規模化をもっともっと進める必要があります。今でもまだまだ個人事業としての農業が多すぎます。(男性/50歳代/山本地域)

G 観光に関すること

- 観光や食など、魅力的な部分は多くあると思うが、アピールが不十分のように感じることもある。県外だけでなく、県内に住んでいる人でもまだまだ知らない秋田の良い部分はあると思っているので、特に若者へのアピール（SNSなどの活用）はもっと力を入れて取り組んでもいいのではないかと。（女性／20歳代／秋田地域）
- 自然も多く、食べ物もおいしいのに観光やおみやげも残念で仕方ありません。若い人の発想を生かしてもっと積極的にアピールしてほしいと思います。（女性／50歳代／秋田地域）
- 道の駅が魅力不足のところがあるが県内に何ヵ所もあります。活気あふれる道の駅を増やして秋田県をより一層魅力ある県として人々の往来を増やしてほしいかと。（女性／30歳代／北秋田地域）
- コロナウイルスの影響でお祭りなど各地域が開催する行事が減っているため、これから秋田を活気づけるためにそのような行事ができることに期待している。（女性／20歳代／平鹿地域）
- 専門家を呼んで、どうしたら県外からの観光客が宿泊してくれるか、考えてもらったらいいと思います。（女性／50歳代／仙北地域）

H 文化・スポーツに関すること

- 県立体育館の建替えについて防災や減災、ボランティア活動を支援する機能も備えたアリーナであれば、地域活性化以外の役割も果たすことができる、より多くの人に必要とされる施設になるのではないかと思います。（女性／50歳代／秋田地域）
- せっかくミルハスを建てたのだから有名な人をたくさん呼んでほしい。（女性／40歳代／秋田地域）
- 色々なスポーツに小さい頃のうちに触れ合える機会を作ってほしいです。もっと若者が簡単に施設を借りられるように、アプリとか導入してほしい。（女性／20歳代／由利地域）
- 秋田市や県南は子どもに関するイベントや、体験活動を沢山しているイメージだが、県北であまりそれらを感じる機会がない。県北の人間にもっと県南の文化などを触れ合う機会があればうれしい。（逆もしかり）（女性／30歳代／北秋田地域）

I 道路・交通ネットワークに関すること

- 高齢者が免許証を返納することがこれからますます増えるので、公共交通の便をもっと良くする方法を考えて、実行に移してほしい。（女性／70歳以上／秋田地域）
- やはり交通手段です。交通の一番は車。公共のバス路線がなく、免許返納したあとの事が、とても不安です。デマンド交通等もありますが、毎日の食、日用品の購入手段は車です。高齢者向けのサポカーに補助金も出ていますが、優良運転者に県独自で補助金を出して、免許返納を進めるだけでなく安全に運転できるようにしてほしい。（女性／70歳以上／平鹿地域）

- 運転ができない高齢者が気軽に利用できるよう、市のバスなど、もっと本数を増やしてほしい。市の中心地ではない地域に住んでいる人たち、高齢者のみで生活している人たちは、どうしても自力で買い物をしなければならない。通常であれば免許を返納するような年齢であっても、生活するために、車を手放せない人たちが周りにたくさんいる。(女性／20 歳代／平鹿地域)
- 県主導でコミュニティバスの運営や、運転士育成事業を進めてはどうか。(男性／40 歳代／由利地域)

J 健康・医療・福祉に関すること

- 不妊治療で仕事を休みがちの人達へのサポート。休みやすいように企業への働きかけ。(男性／50 歳代／秋田地域)
- 福祉の充実を願いますが、同時に現場でその仕事に従事されている方への手厚いフォローもしてほしいと思います。(女性／50 歳代／秋田地域)
- 少子高齢化がますます増加の秋田。それに伴い老人施設が増え、不足する介護者。介護の大変さにもう少し賃金をアップし、魅力のある仕事と思わせるように力を入れてほしいと切に思います。(女性／70 歳以上／秋田地域)
- 病院の少なさ、特に小児科や産婦人科。産める所が限られ、更に子どもが生まれてからも受診できる所が少なすぎる。(男性／40 歳代／北秋田地域)
- ヤングケアラーへ支援。(女性／50 歳代／鹿角地域)
- コロナで県外の往来が制限されていたが、少しずつ緩和してきている。しかし、医療従事者や施設等で働く人たちは、職場の規定でいまだに県外の往来や接触を厳しく制限されている。病院や事業所などに、職場の規制を緩和するよう、県から強く呼びかけてほしい。(女性／30 歳代／仙北地域)
- 子どもや子どものいる家庭への支援はもう充分と感じている。それより一人暮らしの中老年への支援をもっと積極的に行ってほしい。(女性／50 歳代／鹿角地域)
- ガン患者が多いとばかり言っていますが、ガンの専門病院、ガンセンターみたいなものが秋田にない。ガンの専門病院があったら良いと思います。(女性／60 歳代／秋田地域)
- コロナの発症者への支援は大変良いのですが、その時に同居家族が濃厚接触者になったとしても、濃厚接触者には何も支援が無いので何とかしてほしい。(男性／40 歳代／秋田地域)

K 教育に関すること

- 高校卒業後、多くは県外の大学へ進学している。もっと魅力がある進学先を確保出来ればと思う。(女性／40 歳代／北秋田地域)

- 秋田県や地元にもっと愛着を持つ授業をしてほしい。また、この情報社会で、端末を使ってこの地元にもできることを教え、職種の選択肢を増やしてほしい。(女性/60歳代/由利地域)
- 県立の専門学校、職業訓練校を充実させて高卒の県内への就職率をアップさせてもらいたい。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 様々な資格があるが学習できる施設、専門学校、学校がない。試験も秋田では実施しない資格が多い。もっとスキルを高められるといいのでは。(女性/40歳代/仙北地域)
- 学力向上ばかりにとらわれず柔軟性のある教育を望みます。(女性/60歳代/秋田地域)

L 県土の保全・防災に関すること

- 防災訓練も行ってほしいです。緊急避難場所が指定された場所として適していないのがありますので、再度、検討を希望します。(女性/60歳代/由利地域)
- 最近、防災無線を使って情報提供をしているのは良いと思うので、それは続けてほしいが、聞き取りにくい時もあるので、改善してほしい(女性/30歳代/雄勝地域)
- ここ数年、大雨災害が多くなっていることから、市町村とも連携し、河川の治水整備に力を入れてほしい。(男性/40歳代/平鹿地域)

M 身近な生活・環境に関すること

- 道路の街灯を増やしてほしい。運転していても、自転車通勤しても暗くて危険です。(女性/50歳代/秋田地域)
- 脱炭素社会に向けて、車の保有が多い秋田県民に対し、電気自動車への導入促進のため補助金を活用した政策を期待したい。(男性/40歳代/秋田地域)
- 地域差はありますが除雪が荒いという声をよく聞くので改善して行ってほしいです。生活のしやすさが地元好きに繋がると思います。(女性/20歳代/北秋田地域)

N 県政全般に対する意見・その他

- 秋田の未来のために、長期的な視点で、いろいろな取組を行ってほしい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 人口減少、少子高齢化でも行政支援が成り立つように、業務をスマート化し、サービスに注力できる改革が必要ではないかと思えます。(女性/40歳代/秋田地域)
- 空き家や空き地の有効活用。(女性/50歳代/秋田地域)
- いいもの・場所があるのにPR、やり方がいまいちという声も聞きます。(女性/20歳代/北秋田地域)

- よく、秋田には何もないという話を聞きますが、よくよく考えれば、これは自分で何かを始めたいという人には起業のチャンスがゴロゴロ転がっているということでもあり、秋田生まれの人間は、そのところに気付かないし、東京にしか自分の夢がかなえられる場所がないのだと思い込んでしまいがちです。しかし、縁があつて秋田に来られた方で、秋田の可能性に気づかれた方は、秋田県人にはない行動力で夢をかなえてしまいます。秋田に新しい風を吹かせてくれる人材が多数おられると思います。この方々に起業の意志があるのであれば、それを公的にサポートしてあげられる（補助・助成金、許認可他）体制をとれないものでしょうか。（男性／50歳代／由利地域）
- 洋上風力発電を推し進めエネルギー分野で存在感を出してほしい。（男性／30歳代／秋田地域）
- あまりにも多い風力発電（洋上を含む）は反対です。（女性／60歳代／秋田地域）
- 盲導犬育成や動物保護活動を県民として応援したいです。点字ブロック、バリアフリーゾーンの見直し。実際、車イスを押して秋田市中心部に行くと不便さを感じます。（女性／50歳代／秋田地域）
- 専門性の高い分野に特化した施設、人材の確保等、秋田には「ここがある」「これがある」という分野に力を入れるべきではないか。（女性／50歳代／秋田地域）
- 秋田市以外の地域でも、秋田県全体で同等のサービスを受けられるような仕組みを作り、県民の暮らしの質を上げてほしい。（女性／40歳代／北秋田地域）
- デジタル社会になり、高齢者は対応に苦慮しています。県民への講習をお願いします。（女性／70歳以上／由利地域）
- 交通だけでなく、銀行や郵便局など今まで当たり前にあったものがどんどん減っていて、不安を感じています。コストカットや効率化、キャッシュレスなど、そうした流れなのだと思いますが、利用する側の選択肢を残してほしい。（女性／40歳代／秋田地域）
- 高齢者がもっと積極的にスマホ等 IT 関連に興味を持てるような取組を行ってほしい。現状だと今の世の中から取り残されてしまい、適切なサービスが受けられなくなる。（男性／60歳代／雄勝地域）
- 各種ハラスメント対策。相手を思いやる気持ちを育む教育に力を入れてほしい。（女性／50歳代／由利地域）
- 病気で新型コロナワクチンを接種しなかった人への差別排除。（男性／60歳代／秋田地域）
- 障害をもつ人への理解を高める取組に力を入れてほしい。差別や偏見のない世の中になってほしい。（女性／40歳代／秋田地域）
- もっと若い人の意見を聞いてほしい。会議の場にもっと若い人の意見が通るような仕組みを作ってほしい。（女性／40歳代／雄勝地域）
- 各ジャンルの若者を対象とした職場アンケートを実施したらもっと意見をくみ取れるのではないかと。（男性／30歳代／鹿角地域）

付属資料：調査票

令和4年度 県民意識調査

令和4年5月

調 査 票

【調査の目的】

◇この調査は、秋田県が実施する調査で、県の取組に関する皆様の満足度やご意見等をお伺いし、各種政策の立案や政策評価等に反映させることを目的としています。

【調査票の取扱い】

◇調査結果は、全て統計的に処理しますので、回答内容が個人情報と結びついた形で公表されることはありません。電子回答IDは、重複回答の防止及び電子回答での多重回答を防止するために付しているものであり、回答者個人の回答内容を把握する趣旨のものではありません。

【回答に当たってのお願い】

- ◇この調査には、宛名のご本人がお答えください。
※ご本人が何らかの事情により回答できない場合、代理の方の回答や連絡は不要ですので、封筒及び調査票は破棄していただいて構いません。
- ◇ボールペンや鉛筆等で記入してください。
- ◇回答を1つだけ選んでいただく質問と、複数選んでいただく質問があります。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

6月10日(金)までに投函してください。

なお、返信用封筒に住所、氏名等の記入は不要です。

※返信用封筒の宛先は、秋田県が調査を委託した「株式会社フィデア情報総研」となっております。



©2015 秋田県んだッチ

- ◆左下のQRコードまたは「秋田県 電子申請・届出サービス」(https://s-kantan.jp/pref-akita-u/offer/offerList_initDisplay.action) から、パソコン、スマートフォン、タブレット等を利用したインターネット回答が可能です。
※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です。

【問い合わせ先】



◇この調査に関する質問等は、以下までお問い合わせください。
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号
秋田県企画振興部 総合政策課 計画・評価班
電 話：018(860)1217(直通)
FAX：018(860)3873
メール：seisaku@pref.akita.lg.jp

問1 県では、『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』(※)に基づき、様々な取組を進めてきましたが、次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。

ご自身の実感に近いものを「5」～「1」の5段階から選んでお答えください。

また、お答えが「2」または「1」の場合は、よろしければその理由や、県が取り組むべきだと思うことについて、お聞かせください。

※『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』とは、平成30年度からの4年間に、県が取り組むべき政策等を取りまとめた県政運営の指針です。令和4年度からは、新たなプランである「～大変革の時代～新秋田元気創造プラン」を策定し、施策を推進しています。

項目		あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		5	4	3	2	1	N
1	若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
2	高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	[自由記述]					
3	安心して子育てができる社会になっている。	[自由記述]					
4	女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	[自由記述]					
5	地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	[自由記述]					

若者の定着や地域の活力維持に関する取組の状況

1 社会減の抑制に向けた

雇用の場の創出、人材育成・確保

- ・将来にわたり拡大が見込まれる成長分野(輸送機関連、新エネルギー関連、医療福祉関連、情報関連)への県内企業の参入を促進するとともに、同分野の企業誘致を重点的に推進
- ・IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の技術革新の進展により求められるICT人材の確保・育成に向けた、県内ICT企業のPRや、中高校生を対象とした情報教育を実施
- ・啓発セミナー等の開催により働き方改革を推進するとともに、就労環境の整備や女性の復職を支援

◎雇用創出数(企業誘致や成長産業の振興、農林水産業や観光産業による新規雇用創出)
2,552人(H28) ⇒ 1,898人(R2)

2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による

秋田への人の流れづくり

- ・高校生や大学生等が県内企業の魅力に触れることができる職場見学や企業ガイダンス、合同企業説明会等を開催
- ・県内就職への意識醸成を図るため、高校生や大学生等、保護者に対し、情報誌やWebにより秋田暮らしの魅力を発信したほか、県内就職者への経済的支援として奨学金返還に対する助成を実施
- ・市町村等と連携し、移住相談や、Aターンフェアを開催し、「暮らし」と「仕事」の情報を総合的に提供
- ・リモートワークによる移住とワーケーションを促進



移住・定住総合ポータルサイト
(<https://www.a-iju.jp>)

◎人口の社会減

△4,100人(H27) ⇒ △2,992人(R2)

3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

- ・あきた結婚支援センターの運営支援を通じて結婚を希望する独身者をサポート
- ・市町村が地域の実情やニーズに応じて行う子ども・子育て支援事業に対して支援
- ・保育料や副食費への助成など、子育て世帯への経済的支援



園庭で楽しく遊ぶ園児たち

◎婚姻件数

3,510組(H28) ⇒ 2,686組(R2)

◎出生数

5,666人(H28) ⇒ 4,499人(R2)

4 女性や若者の活躍推進と

ワーク・ライフ・バランスの実現

- ・経済団体等と連携した普及啓発や企業表彰の実施等により、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた気運を醸成
- ・「あきた女性活躍・両立支援センター」を設置し、企業訪問やアドバイザーの派遣等により企業の取組を支援

◎女性の活躍に関する行動計画を策定した企業数

64社(H28) ⇒ 335社(R2)

◎従業員の仕事と子育てに関する行動計画を

策定した企業数 262社(H28) ⇒ 518社(R2)

5 活力にあふれ、安心して暮らすことが

できる地域社会づくり

- ・集落機能を維持するため、複数集落単位で地域の将来をデザインする「コミュニティ生活圏」の形成を支援



地域の将来についての検討会

- ・地域課題の解決に向けた多様な主体との連携・協働を推進

◎社会活動・地域活動に参加した人の割合

62.1%(H30) ⇒ 57.3%(R2)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね 十分	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓

6	地域経済を牽引することができる競争力を持った企業が増えている。
7	中小企業の安定した経営が確保されている。
8	企業誘致が進んでいる。
9	産業人材の確保・育成が進んでいる。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

産業の振興に関する取組の状況

6 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

・航空機・自動車関連分野における加工技術の向上や販路開拓を支援

・本県の多様で豊富な資源を活用し、再生可能エネルギーの導入拡大を図るとともに、関連産業への県内企業の参入を促進



洋上風力発電設備（イメージ）

・医療機関のニーズに沿った新製品の開発や医療福祉関連産業への県内企業の参入を促進

・IoT、AI等の普及啓発やICT人材育成等を通じて、県内企業の先進技術導入を促進

◎輸送用機械器具製造業の製造品出荷額

1,124億円（H28）⇒1,212億円（R2）

◎医療機器関連製造業の製造品出荷額等

548億円（H27）⇒615億円（R1）

7 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

・新型コロナウイルスの感染拡大により経営状況が悪化している事業者に対し、無利子・無保証料の制度融資をはじめとした資金繰り支援を実施

・商業・サービス業者等の業態転換、新分野進出、新商品・新サービスの開発等の取組を支援

・中小企業の円滑な事業承継に向け、商工団体や「事業承継・引継ぎ支援センター（旧秋田県事業引継ぎ支援センター）」と連携したマッチング支援等を実施



秋田県中小企業応援キャラクター「がんばっけさん」

◎製造品出荷額等（従業員4人以上の事業所）

1兆2,153億円（H27）⇒1兆2,862億円（R1）

◎製造品付加価値額（従業員4人以上の事業所）

4,739億円（H27）⇒4,942億円（R1）

8 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

・企業の海外展開に向けた活動経費を支援

・世界への物流の玄関口となる港湾施設を整備

・首都圏における積極的な誘致活動等により、成長産業の企業や若者定着の受け皿として期待される企業を誘致



企業の進出が進む大館工業団地

◎秋田港国際コンテナ取扱量（実入り）

50,776TEU（H28）⇒41,539TEU（R3）（速報値）

※「TEU」＝貨物コンテナの量を表す単位

◎企業の誘致件数及び誘致済企業の施設・設備の拡充件数 22件（H28）⇒25件（R2）

9 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

・企業の多様な働き方の導入に向け、セミナーや専門家の派遣指導、先進事例の紹介等による支援を実施

・結婚や出産等で離職した女性の就業を支援するため、セミナーやイベント等を実施



女性の再就職を応援する「SHE Project AKITA」

・県技術専門校において、デジタル技術等を習得するための職業訓練を実施

◎成長産業等における雇用創出数

1,691人（H28）⇒1,215人（R2）

◎若者や女性等の働きやすい環境の整備に取り組む企業数 330社（H28）⇒926社（R2）

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	十分 おおむね	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない

10	農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。
11	えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。
12	あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。
13	飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。
14	秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。
15	ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。
16	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

農林水産業の振興に関する取組の状況

10 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

- ・生産規模の拡大を目指す意欲的な経営体を育成
- ・県外からの移住者や新規卒者・Uターン者など、多様なルートと幅広い年代から新規就業者を確保・育成



オンラインでの移住就農相談

- ◎農業法人数(認定農業者) 576 法人 (H28) ⇒ 820 法人 (R3)
- ◎担い手への農地集積率 73.2% (H28) ⇒ 76.2% (R2)

11 複合型生産構造への転換の加速化

- ・ねぎやキクなどの園芸メガ団地や大規模畜産団地を整備
- ・「えだまめ出荷量日本一」や「しいたけ三冠王(量・額・単価)」に向け、生産拡大を支援
- ・「秋田牛」や「比内地鶏」のブランド力強化に向けた取組を推進



大規模団地のねぎ収穫作業

- ◎主要園芸品目の系統販売額 160 億円 (H28) ⇒ 167 億円 (R2)
- ◎畜産産出額 352 億円 (H27) ⇒ 365 億円 (R2)

12 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

- ・秋田米の安定生産やブランド力の向上を促進するとともに、食味が特に優れた新品種(サキホコレ)の市場デビューに向けた取組を実施
- ・水田の大区画化や排水対策を図るほ場整備を実施

- ◎全国に占める秋田米のシェア 5.47% (※) ⇒ 6.29% (R2)
- ※ H23~27 の最高値と最低値を除いた3年平均
- ◎米の生産費 10,500 円/60kg (H27) ⇒ 10,100 円/60kg (R1)

13 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

- ・県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売を促進
- ・食品メーカーなど異なる業種との連携による新商品の開発や新ビジネスの創出を促進
- ・台湾・タイへのリンゴや桃の輸出を促進



加工品の販売

- ◎6次産業化事業体販売額 143 億円 (H27) ⇒ 164 億円 (R2)

14 「ウッドファーストあきた」による 林業・木材産業の成長産業化

- ・資源の循環利用を図るため、低コスト再造林を推進
- ・林内路網の整備や高性能な林業機械の導入などにより、低コストな素材供給体制づくりを促進
- ・新たな木質部材の開発と非住宅建築への活用を促進

- ◎素材生産量(燃料用含む) 1,470 千³m (H28) ⇒ 1,425 千³m (R2)
- ◎スギ製品出荷量 591 千³m (H28) ⇒ 530 千³m (R2)

15 つくり育てる漁業と広域浜プラン推進による 水産業の振興

- ・つくり育てる漁業の対象魚種(ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケ、トラフグなど)の稚魚を育成・放流
- ・県産水産物の消費拡大に向け、量販店での地魚レシピ配布等のキャンペーンを展開



マダラのレシピ

- ◎海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額 288.0 万円 (H28) ⇒ 293.7 万円 (R2)
- ◎つくり育てる漁業の対象魚種の漁業生産額 9.7 億円 (H27) ⇒ 6.9 億円 (R2)

16 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

- ・リンドウやセリなど中山間地域の特性を生かした農産物の生産や加工の取組を促進
- ・農山漁村での都市住民との交流活動や農家民宿・レストランの起業等の取組を促進
- ・草刈りや植樹など地域住民による農地、森林を守る活動を促進

- ◎中山間地域資源活用プラン策定地域数(累積) 37 地域 (H28) ⇒ 57 地域 (R3)
- ◎水と緑の森づくり推進事業参加者数 12,758 人 (R2)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね 十分	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
17	国内外から観光誘客が進んでいる。				
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。				
[自由記述]					
19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。				
[自由記述]					
20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。				
[自由記述]					
21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。				
[自由記述]					
22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。				
[自由記述]					

観光・文化・スポーツの振興に関する取組の状況

17 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

- ・県民による県内流動の促進のため「あきた県民割事業」等の支援事業を実施
- ・デジタル技術を活用しアフターコロナを見据えた観光プロモーションを実施
- ・宿泊施設の整備など、観光客の旅の満足度の向上に向けた受入環境の充実を支援

◎観光地点等入込客数(延べ人数)

3,159万6千人(H28) ⇒ 1,836万人(R2)



秋田県公式観光サイト
[アキタファン]

18 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

- ・日本酒や発酵食品等の更なる高品質化とブランド力の強化を促進
- ・発酵食など本県独自の食文化を観光コンテンツとして磨き上げ、誘客へ活用



あきた発酵ツーリズム
拠点施設「石孫本店」

◎食料品・飲料等製造品出荷額等

1,205億円(H27) ⇒ 1,335億円(R1)

20 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

- ・ジュニア層の強化を競技力向上の柱に据えた一貫指導体制を確立
- ・ノーザンハピネッツやブラウブリッツ、ノーザンブレッツの活動を支援
- ・モーグルワールドカップ秋田たざわ湖大会等の開催により交流人口を拡大



モーグルワールドカップ
秋田たざわ湖大会

◎成人の週1回以上のスポーツ実施率

49.5%(H28) ⇒ 58.0%(R3)

21 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

- ・国道105号大曲鷹巣道路「大覚野峠区間」の直轄権限代行による新規事業化
- ・重要港湾秋田港と秋田自動車道秋田北ICを結ぶ「秋田港アクセス道路」の事業を推進

◎県内高速道路の供用率

90%(H28) ⇒ 92%(R3)



秋田港アクセス道路
(イメージ図)

22 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

- ・羽田空港発着枠コンテストにおいて大館能代空港の3往復運航が実現
- ・秋田新幹線新仙岩トンネルについて、JR東日本の調査への協力や国への積極的な要望活動等を実施し、実現に向けた取組を推進
- ・国や市町村と連携し、乗合バスや三セク鉄道の着実な運行を確保



◎秋田県と県外間の旅客輸送人員数

539万2千人(H27) ⇒ 167万6千人(R2)

19 文化の発信力強化と

文化による地域の元気創出

- ・伝統芸能をはじめとする多彩な文化事業の実施や、オンラインを活用した映像配信などにより、秋田ならではの文化の魅力を国内外に発信
- ・青少年音楽コンクールやあきたの文芸など若者から高齢者まで多くの県民が楽しめる文化事業を実施
- ・地域で活動する文化団体の活動を支援
- ・本県文化の中核拠点となる「あきた芸術劇場ミルハスの整備を推進(令和4年6月開館予定)



あきた芸術劇場(イメージ図)

◎文化事業への来場者数

44万9,311人(H28) ⇒ 5万4,435人(R2)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね 十分	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
23	食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。				
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
24	誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。				
[自由記述]					
25	どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。				
[自由記述]					
26	高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。				
[自由記述]					
27	全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。				
[自由記述]					

健康づくりや医療・福祉の充実に関する取組の状況

23 健康寿命日本一への挑戦

- ・市町村や経済団体、保健医療団体、報道機関等、多様な主体と連携した健康づくり県民運動を推進



あきた健康応援大使とあきた健康チャレンジ大使による健康づくりに関する情報発信

- ・健康づくり県民運動のスローガンである「減塩」や「野菜・果物摂取」を推進するため、見た目でもわかりやすい「秋田スタイル健康な食事」メニュー認証制度の普及に努めたほか、「新・減塩音頭」を制作し、県民一人ひとりの健康意識を促進



新・減塩音頭

- ・たばこによる健康被害を防止するため、相談窓口の設置や事業所訪問等による受動喫煙防止と、医師による講話などの禁煙支援を実施

◎健康寿命

男性 71.21 年、女性 74.53 年 (H28)
⇒ 男性 72.61 年、女性 76.00 年 (R1)

26 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

- ・職員の処遇改善や育成等に積極的な事業所を県が認証する「介護サービス事業所認証評価制度」の普及を推進
- ・市町村のひきこもり相談窓口機能を強化するモデル事業の実施など、ひきこもり当事者の身近な地域における相談支援体制の整備を促進

◎介護施設等の介護職員数

20,891 人 (H28) ⇒ 23,283 人 (R2)

24 心の健康づくりと自殺予防対策

- ・民・学・官・報の連携による自殺予防街頭キャンペーン等の普及啓発活動を推進
- ・県立高校でのSOSの出し方講座、教職員のSOSの受け方研修会などを実施
- ・若者を中心に多くの県民が利用しているSNSによる相談体制を整備

◎自殺による人口 10 万人当たり死亡率

23.8 (H28) ⇒ 18.0 (R2)

25 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

- ・脳卒中や心臓病の予防、医療提供体制等に関する「秋田県循環器病対策推進計画」を策定
- ・不整脈治療を集中的に行う医療機関の機器整備を支援

- ・秋田大学医学部附属病院に高度救命救急センターを整備・指定するなど、三次救急医療体制を拡充



高度救命救急センター

◎脳血管疾患による人口 10 万人当たり年齢調整死亡率

37.9 (H28) ⇒ 34.7 (R2)

◎がんによる人口 10 万人当たり 75 歳未満年齢調整死亡率

87.4 (H28) ⇒ 76.8 (R2)

27 次代を担う子どもの育成

- ・子どもの貧困対策に取り組む支援者によるネットワークの連携強化・拡充を支援
- ・児童虐待を行った保護者等へのカウンセリングや、「秋田県児童虐待防止宣言」の策定など、児童虐待防止についての取組を強化

- ・里親制度の普及啓発から、里親の育成、養育開始後のサポートまでを包括的に支援する体制を整備し、里親委託を促進



秋田県里親PRキャラクター

◎里親委託児童数

16 人 (H28) ⇒ 36 人 (R2)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	十分 おおむね	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。	[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。			
29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	[自由記述]			
30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。	[自由記述]			
31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。	[自由記述]			
32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。	[自由記述]			
33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。	[自由記述]			
34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。	[自由記述]			

教育・人づくりに関する取組の状況

28 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成



産業教育フェアでの販売体験

- ・起業体験やボランティア活動など、地域の活性化に貢献する体験活動や地域の伝統を受け継ぐ活動を推進
- ・県立高校等に就職支援員や職場定着支援員等を配置し、就職支援、県内就職の促進、職場への定着支援等の取組を実施

◎高校生の県内就職率 65.2% (H28) ⇒ 75.4% (R3)

29 子ども一人一人に応じた教育の充実と 確かな学力の定着

- ・主体的に問題を解決する「探究型授業」の充実を図るため、学校訪問等により授業改善を推進
- ・少人数学級によるきめ細かな教育や社会人等外部人材の活用による専門性の高い教育を展開

◎授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合(小4～中2)

91.0% (H28) ⇒ 90.0% (R2)

30 世界で活躍できるグローバル人材の育成

- ・英語コミュニケーション能力の育成に向け、外国語指導助手や外部試験を活用
- ・小学校3年生から高校3年生までを対象に県内各地でイングリッシュキャンプを開催

◎英検3級以上相当の英語力を有する
中学3年生の割合

37.1% (H28) ⇒ 53.1% (R3)

31 豊かな人間性と健やかな体の育成

- ・スクールカウンセラー等の専門家の配置により教育相談体制を充実
- ・地域人材を活用し、授業の充実を図るとともに部活動を支援



地域人材を活用した体育授業

◎自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合(小6・中3)

83.0% (H29) ⇒ 83.5% (R3)

◎運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合(小5・中2)

65.6% (H29) ⇒ 61.6% (R3)

32 子どもの成長を支える魅力的で良質な 学びの場づくり

- ・学校と地域の協働活動を推進する人材の育成や、地域と連携した安全教育活動を展開
- ・学校でのICTの活用促進に向け、教職員のICT活用指導力向上のための研修を実施



地域での見守り活動

◎授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合(小6・中3)

83.8% (H29) ⇒ 85.9% (R3)

33 地域社会と産業の活性化に資する 高等教育機関の振興

- ・各大学等の多様な資源を活用し、地域社会や産業の課題解決に向けた取組を推進
- ・高校教育と大学教育の連携など学生の確保に向けた多様な取組を推進

◎県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数

89件 (H28) ⇒ 116件 (R2)

◎県内高卒者の県内大学・短大への進学率

28.4% (H29) ⇒ 30.7% (R3)

34 地域を元気にする住民参加の学びの場と 芸術・文化に親しむ機会の提供

- ・県生涯学習センターや公民館、学校などで様々なテーマの生涯学習講座を開催
- ・地域の歴史・文化を活かしたまちづくりに向け、文化財の総合的な保存・活用の方針などを示した「秋田県文化財保存活用大綱」を策定

◎芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した

小・中学生の割合 26.6% (H28) ⇒ 15.8% (R3)

問2 県の重要課題について、お伺いします。

今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。
下から5つまで選択して番号を記入してください。

--	--	--	--	--

<p>◆若者の定着や地域の活力維持</p> <p>1 若者に魅力的な働く場の確保</p> <p>2 高校生や大学生の県内就職の促進</p> <p>3 県内への移住の促進</p> <p>4 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備</p> <p>5 女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援</p> <p>6 安心して生活できる地域コミュニティの維持</p> <p>◆産業の振興</p> <p>7 企業の成長分野への参入促進</p> <p>8 地域経済をけん引する企業の創出・育成</p> <p>9 中小企業の安定的経営の確保と競争力強化</p> <p>10 企業の東アジア市場等への進出の促進</p> <p>11 企業が必要とする専門人材の確保</p> <p>12 誰もが働きやすい職場環境の整備</p> <p>13 I o T、A I 技術等の産業への導入の促進</p> <p>◆農林水産業の振興</p> <p>14 農林水産業の担い手の確保</p> <p>15 野菜や果樹、畜産物等の生産の拡大</p> <p>16 産地間競争に打ち勝つ米づくりと販売の強化</p> <p>17 水田の大区画化や汎用化の促進</p> <p>18 農林水産物の加工・販売の促進</p> <p>19 秋田スギや木製品の生産・加工・販売の促進</p> <p>20 水産資源の維持・増大による水産業の振興</p> <p>21 農山漁村地域の活力向上</p> <p>◆観光・文化・スポーツの振興</p> <p>22 国内外からの観光誘客の強化</p> <p>23 新商品の開発や販路拡大による食品産業の振興</p> <p>24 秋田ならではの文化の振興と発信</p> <p>25 スポーツの振興による地域の活力向上</p>	<p>26 道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上</p> <p>27 鉄道や航空・地域交通などの整備</p> <p>◆健康づくりや医療・福祉の充実</p> <p>28 健康寿命の延伸に向けた取組の推進</p> <p>29 自殺予防対策の推進</p> <p>30 医療提供体制の整備</p> <p>31 介護・福祉サービスの充実</p> <p>32 貧困や虐待等、複雑な事情を抱える子どもへの支援</p> <p>◆教育・人づくり</p> <p>33 ふるさと教育やキャリア教育の充実</p> <p>34 学力向上に向けた取組の充実</p> <p>35 英語教育と国際教育の充実</p> <p>36 豊かな人間性を育む教育の充実</p> <p>37 健やかな体を育む教育の充実</p> <p>38 教員の指導力向上</p> <p>39 学校施設の整備</p> <p>40 大学等の地域貢献活動の強化</p> <p>41 生涯学習機会の充実と学習効果の社会への還元</p> <p>42 文化遺産等の保存・活用の促進</p> <p>◆安全・安心な生活環境の確保</p> <p>43 治山治水対策の充実</p> <p>44 地域防災活動の充実</p> <p>45 温暖化防止活動や自然環境保全対策の推進</p> <p>46 犯罪や交通事故の少ない地域づくり</p> <p>47 食品や水道などの安全・安心の確保</p> <p>48 動物愛護活動の推進</p> <p>49 快適で安らげる生活基盤の整備</p> <p>50 I C Tによる便利な暮らしの実現と地域の活性化</p>
--	---

問3 県の特定期間について、お伺いします。

以下の質問について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

県の広報活動について

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（○はいくつでも）。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 県が発行する広報紙（全戸配布広報紙・新聞広告等） |
| 2 | 県のウェブサイト（「美の国あきたネット」等） |
| 3 | 県政広報番組（テレビ、ラジオ） |
| 4 | 新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組 |
| 5 | ソーシャルメディア（ブログ、ツイッター、フェイスブック、動画サイト 等） |
| 6 | その他（ ） |

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は1つ）。

- | | | | |
|---|------------|---|------------|
| 1 | 十分行われている | 2 | ある程度行われている |
| 3 | あまり行われていない | 4 | 行われていない |
| 5 | どちらともいえない | | |

家庭での防災活動について

① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×3日分）をしていますか（○は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含みます。

- | | | | |
|---|---------------|---|-------------------|
| 1 | 3日分以上の備蓄をしている | 2 | 備蓄はしているが、2日分以下である |
| 3 | 備蓄はしていない | | |

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（○はいくつでも）。

- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------------------|
| 1 | 地域の防災訓練への参加 | 2 | 災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握 |
| 3 | 最寄りの緊急避難場所等の確認 | 4 | 緊急避難場所等への避難経路の確認 |
| 5 | 災害時の家族への連絡方法の取り決め | 6 | 非常時持ち出し品の用意 |
| 7 | 家具等の固定 | 8 | その他（ ） |

読書活動について

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞及び雑誌（電子媒体の記事（注1）を含む。）のほか、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注2）も含まれます。

（注1）電子媒体の記事とは、新聞社や出版社等がインターネット上に掲載しているニュースや雑誌記事等のことです。

（注2）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット、インターネット上で提供されている音声コンテンツのことです。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 好きだ | 2 どちらかといえば好きだ |
| 3 どちらかといえば好きではない | 4 好きではない |

② あなたは1日平均（※）どれくらい読書をしていますか（○は1つ）。

※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめ読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

- | | |
|-----------|---------|
| 1 2時間以上 | 2 1～2時間 |
| 3 30分～1時間 | 4 30分未満 |
| 5 全く読まない | |

農業への就業について

① 現在、農業へ就業していない方にお聞きします。あなたは、農業への就業について、どのように考えていますか（○は1つ）。

- | |
|---|
| 1 将来、後継者として農業へ就業する予定である |
| 2 「専業」での農業への就業に興味がある（1に該当する方を除く） |
| 3 「兼業」（副業・アルバイトを含む）での農業への就業に興味がある（1に該当する方を除く） |
| 4 農業への就業に興味はない（1に該当する方を除く） |

がん対策について

① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（○は1つ）。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 定期的に受ける | 2 体調に心配があるときに受ける |
| 3 わからない | |

社会活動・地域活動について

- ① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」(※)に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか (○は1つ)。

※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 週5日以上 | 2 週1日程度 |
| 3 月1日程度 | 4 年1日程度 |
| 5 特定の期間 (夏の間2週間など) | |
| 6 その他 (具体的に) | |
| 7 取り組んだことがない | |

自転車の安全で適正な利用について

- ① 自転車を利用している人にお聞きします。あなたは「自転車損害賠償責任保険等 (※)」に加入していますか (○は1つ)。

※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。

※自転車保険単独のものや、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約、共済、職場の団体保険などがあります。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 加入している | 2 加入していない |
| 3 わからない | |

男女共同参画について

- ① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか (○は1つ)。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 |
| 3 どちらかといえば反対 | 4 反対 |
| 5 わからない | |

食品ロス問題について

- ① あなたは、食品ロス (※) が社会問題になっていることを知っており、削減に向けた取組をしていますか (○は1つ)。

※食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられる食品

※削減に向けた取組の具体例

料理を作り過ぎない、出された料理は残さず食べる、外食の際は食べきれぬ量を注文、買い物の際は賞味期限や消費期限の近い商品を購入 等

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 知っており取り組んでいる | 2 知っているが何も取り組んでいない |
| 3 全く知らない | |

環境保全活動について

① あなたは、これまで環境保全活動等に参加したことがありますか（○はいくつでも）。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 環境美化・清掃活動への参加（例：市民クリーンアップなど） |
| 2 | 自然保護活動への参加（例：ホタルの保護活動など） |
| 3 | 森林保全活動への参加（例：市民植樹など） |
| 4 | リサイクル活動への参加（例：古紙・空き缶回収など） |
| 5 | 環境をテーマとした講演会等への参加（例：地球温暖化防止フォーラムなど） |
| 6 | その他（ <input type="checkbox"/> ） |
| 7 | 参加したことがない |

差別等について

① あなたは、ご自身や身の回りで、差別等を感じることはありますか（○は1つ）。

- | | | | |
|---|-------------|---|--------------|
| 1 | よく感じることもある | 2 | たまに感じることもある |
| 3 | あまり感じることはない | 4 | まったく感じることはない |

② ①で「1」～「3」を選んだ方にお聞きします。どのような差別等を感じることはありますか（○はいくつでも）。

- | | | | |
|----|-------------------------|----|---------------------------------|
| 1 | 性別に関するもの | 2 | 障害を理由とするもの |
| 3 | 感染症の患者及び医療・介護従事者等に対するもの | 4 | がん等の疾病に関するもの |
| 5 | 性的指向、性自認等を理由とするもの | 6 | 外国人に対するもの |
| 7 | 年齢を理由とするもの | 8 | 犯罪被害者等に対するもの |
| 9 | 犯罪をした人等に対するもの | 10 | ハラスメント |
| 11 | いじめ | 12 | その他（ <input type="checkbox"/> ） |

高齢者の社会参加について

① 60歳以上の方（※）にお聞きします。あなたは、令和3年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

※60歳未満の方は次の質問に進んでください。

- | | | | |
|---|-----|---|--------|
| 1 | 行った | 2 | 行っていない |
|---|-----|---|--------|

問4 【自由記述】 県に力を入れてほしいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。



©2015 秋田県んだッチ

問5 あなたご自身について、お伺いします。

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお聞かせください。
(最も近いと感じる選択肢の番号1つに○をつけてください。)

① あなたの性別

1 男性 2 女性 3 その他

② あなたの年齢

1 18～19 歳 2 20～29 歳 3 30～39 歳 4 40～49 歳
5 50～59 歳 6 60～69 歳 7 70 歳以上

③ 18歳未満の子どもの有無

1 現在18歳未満の子どものを養育している 2 していない

④ あなたのご出身

1 秋田県の出身 2 秋田県以外の出身

⑤ あなたのお住まいの地域

1 鹿角地域（鹿角市、小坂町）
2 北秋田地域（大館市、北秋田市、上小阿仁村）
3 山本地域（能代市、藤里町、三種町、八峰町）
4 秋田地域（秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村）
5 由利地域（由利本荘市、にかほ市） 6 仙北地域（大仙市、仙北市、美郷町）
7 平鹿地域（横手市） 8 雄勝地域（湯沢市、羽後町、東成瀬村）

⑥ あなたの主なお仕事の種類（主とする業種1つに○）

1 農業 2 林業 3 漁業 4 建設業 5 製造業 6 情報通信業
7 運輸業・郵便業 8 卸売業・小売業(観光関連) 9 卸売業・小売業(観光関連以外)
10 宿泊業 11 飲食サービス業 12 学術研究・学校教育・学習支援
13 医療・保健 14 福祉 15 公務（1～14以外） 16 その他の業種
17 学生 18 無職

これで調査は終わりです。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、6月10日(金)までに投函してください。

令和4年度 県民意識調査報告書

令和4年8月

発行 秋田県 企画振興部 総合政策課
〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1番1号
TEL 018-860-1217 FAX 018-860-3873

調査機関 株式会社フィデア情報総研
〒010-0951 秋田県秋田市山王三丁目4番23号
TEL 018-883-0200 FAX 018-883-0209

